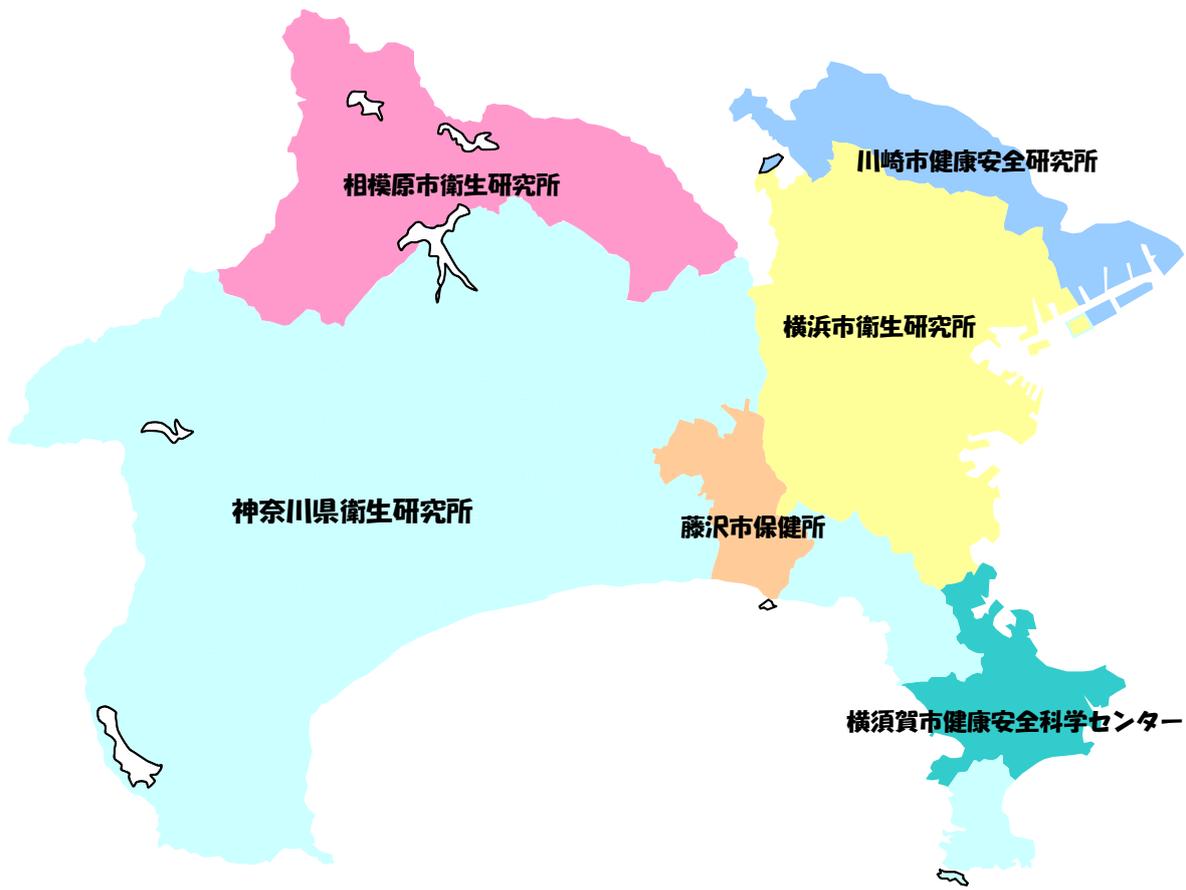


平成 27 年

神奈川県感染症

PART I 平成 27 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

PART II 平成 27 年地域における感染症発生状況の概要



はじめに

平成 27 年は、国外では西アフリカにおけるエボラ出血熱の流行が続き、5 月には隣国の大韓民国で中東呼吸器症候群（MERS：マーズ）の輸入症例に端を発するアウトブレイクがありました。感染症に対する健康危機管理対策の重要性はより増してきています。

日本においては、3 月に WHO 西太平洋地域事務局により麻疹の排除状態にあることが認定されました。また、8 月以降に原因不明の急性弛緩性麻痺の症例の一部からエンテロウイルス D68 の検出があり注目されました。平成 28 年 4 月 1 日には、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）の改正が施行されました。この改正の趣旨は、最近の海外における感染症の発生状況、国際交流の進展、保健医療を取り巻く環境の変化をふまえ、感染症の拡大予防と情報収集の整備や検体採取等の制度の創設等の措置を講ずるものです。

神奈川県衛生研究所（以下、当所）では、こうした状況のなかで、神奈川県の基幹感染症情報センターとしての役割を果たすとともに、健康危機管理や感染症対策に向けて、本庁や保健福祉事務所及び同センターをはじめ、県内 33 市町村の担当課や神奈川県医師会や病院協会及び関係機関の方々との連携を強化するとともに、感染症発生動向調査事業を中心とした情報収集や原因究明のための検査、今後の感染症対策に向けた研究とともにホームページ等による情報発信や研修会など、感染症対策のさらなる充実にむけて日々取り組んでおります。

『神奈川県の感染症』は、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター、藤沢市保健所及び当所が協力し、神奈川県における感染症発生動向調査、微生物検出情報等についてまとめ、感染症発生動向調査の概要を中心とした P A R T I と、各地域における感染症発生状況の概要を中心とした P A R T II に分けて収録いたしました。感染症対策の参考にして頂ければ幸いです。

『神奈川県の感染症』の作成に当たり、関係機関の方々から、貴重な研究資料をご提供いただきましたことに厚くお礼申し上げます。

平成 28 年 9 月

神奈川県衛生研究所長 高崎智彦

目 次

< PART I > 平成 27 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

I 感染症発生動向調査

1 全数把握対象疾患	1
2 定点把握対象疾患	
(1) 定点	4
(2) 週報対象疾患	5
(3) 月報対象疾患	15
3 トピックス	
< 神奈川県の HIV/エイズの概要 >	19

【資 料】

資料 1 平成 27 年全数把握対象感染症保健所別報告数	20
------------------------------	----

< PART II > 平成 27 年地域における感染症発生状況の概要

I 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出概況	21
2 病原細菌検出概況	22
3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）	23
4 病原細菌検出状況表（ヒト由来）	34

II 地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症

(1) インフルエンザ

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の インフルエンザの動向（神奈川県衛生研究所）	39
② 横浜市のインフルエンザの動向（横浜市衛生研究所）	41
③ 川崎市のインフルエンザの動向（川崎市健康安全研究所）	49
④ インフルエンザ感受性調査（神奈川県衛生研究所）	51

(2) HIV/エイズ

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における HIV 検査の実施状況（神奈川県衛生研究所）	53
② 藤沢市における HIV 即日検査の実施状況（藤沢市保健所）	56

(3) ウイルス性感染性胃腸炎

(3) -1

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所）	56
(3) -2	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の ウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（神奈川県衛生研究所）	58
② 横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横浜市衛生研究所）	59
③ 川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（川崎市健康安全研究所）	63
④ 相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（相模原市衛生研究所）	64
⑤ 横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（横須賀市健康安全科学センター）	64
⑥ 藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果（藤沢市保健所）	64
(4) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、無菌性髄膜炎、急性脳炎（ウエスト ナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフ トバレー熱を除く）	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の検出状況 (神奈川県衛生研究所)	65
② 川崎市の検出状況（川崎市健康安全研究所）	67
(5) 蚊媒介感染症	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 感染症媒介蚊のサーベイランス（神奈川県衛生研究所）	67
② 横浜市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（横浜市衛生研究所）	68
③ 川崎市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス（川崎市健康安全研究所）	71
④ 相模原市のデング熱等媒介蚊のサーベイランス（相模原市衛生研究所）	72
⑤ 横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス (横須賀市健康安全科学センター)	72
(6) その他のウイルス性感染症	
(6)-1	
① 神奈川県の日本脳炎感染源調査（神奈川県衛生研究所）	73
(6)-2	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の 麻疹ん疑い患者からの麻疹ウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所）	74
② 川崎市の麻疹ウイルス検出状況（川崎市健康安全研究所）	74
③ 相模原市の麻疹ウイルス検出状況（相模原市衛生研究所）	74
(6)-3	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の 麻疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所）	75
(6)-4	
① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の	

風疹ウイルス抗体保有状況（神奈川県衛生研究所） 76

(6)-5

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の
デングウイルス検出状況（神奈川県衛生研究所） 77

2 細菌性感染症

(1) 腸チフス・パラチフス

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の
チフス菌等のフェージ型別結果（神奈川県衛生研究所） 78
- ② 横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果（横浜市衛生研究所） 78
- ③ 川崎市のチフス菌等のフェージ型別結果（川崎市健康安全研究所） 79

(2) 細菌性腸管系感染症

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の
腸管出血性大腸菌検出状況（神奈川県衛生研究所） 79
- ② 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の
赤痢菌及びコレラ菌検出状況（神奈川県衛生研究所） 79
- ③ 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の
散発下痢症患者からの病原菌検出状況（神奈川県衛生研究所） 80
- ④ 横浜市の腸管出血性大腸菌検出状況（横浜市衛生研究所） 81
- ⑤ 横浜市の赤痢菌及びコレラ菌検出状況（横浜市衛生研究所） 82
- ⑥ 川崎市の腸管出血性大腸菌検出状況（川崎市健康安全研究所） 82
- ⑦ 川崎市の赤痢菌及びコレラ菌検出状況（川崎市健康安全研究所） 83
- ⑧ 相模原市の腸管病原菌検出状況（三類感染症発症者の家族等の病原菌検索）
（相模原市衛生研究所） 84
- ⑨ 横須賀市の散発下痢症・接触者等からの腸管系病原菌検出状況
（横須賀市健康安全科学センター） 84
- ⑩ 藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況（藤沢市保健所） 85

(3) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

- ① A 群溶血レンサ球菌の分離及び T 型別成績（神奈川県衛生研究所） 86
- ② 横浜市の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（横浜市衛生研究所） 87
- ③ 川崎市の A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎（川崎市健康安全研究所） 88

(4) 結核

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における
QFT 検査成績（神奈川県衛生研究所） 88
- ② 川崎市における T-SPOT. TB 検査成績（川崎市健康安全研究所） 89

(5) 百日咳

- ① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の

	百日咳検査成績（神奈川県衛生研究所）	90
②	横浜市における百日咳検査成績（横浜市衛生研究所）	90
(6)	マイコプラズマ肺炎	
①	神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の 肺炎マイコプラズマ検出状況（神奈川県衛生研究所）	92
3	その他の感染症	
(1)	つつが虫病	
①	神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で発生した つつが虫病（神奈川県衛生研究所）	93
	【参考資料】	
	予防接種実施状況	94
	感染症関係機関	95

< PART I > 平成 27 年神奈川県感染症発生動向調査の概要

(平成 28 年 3 月)

I 感染症発生動向調査

感染症発生動向調査事業では、平成 10 年 9 月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）が成立し、平成 11 年 4 月から施行されたことに伴い、感染症の予防とまん延防止の施策を講じるため、感染症の情報を医療機関から収集し、その内容の分析、公表を行っている。

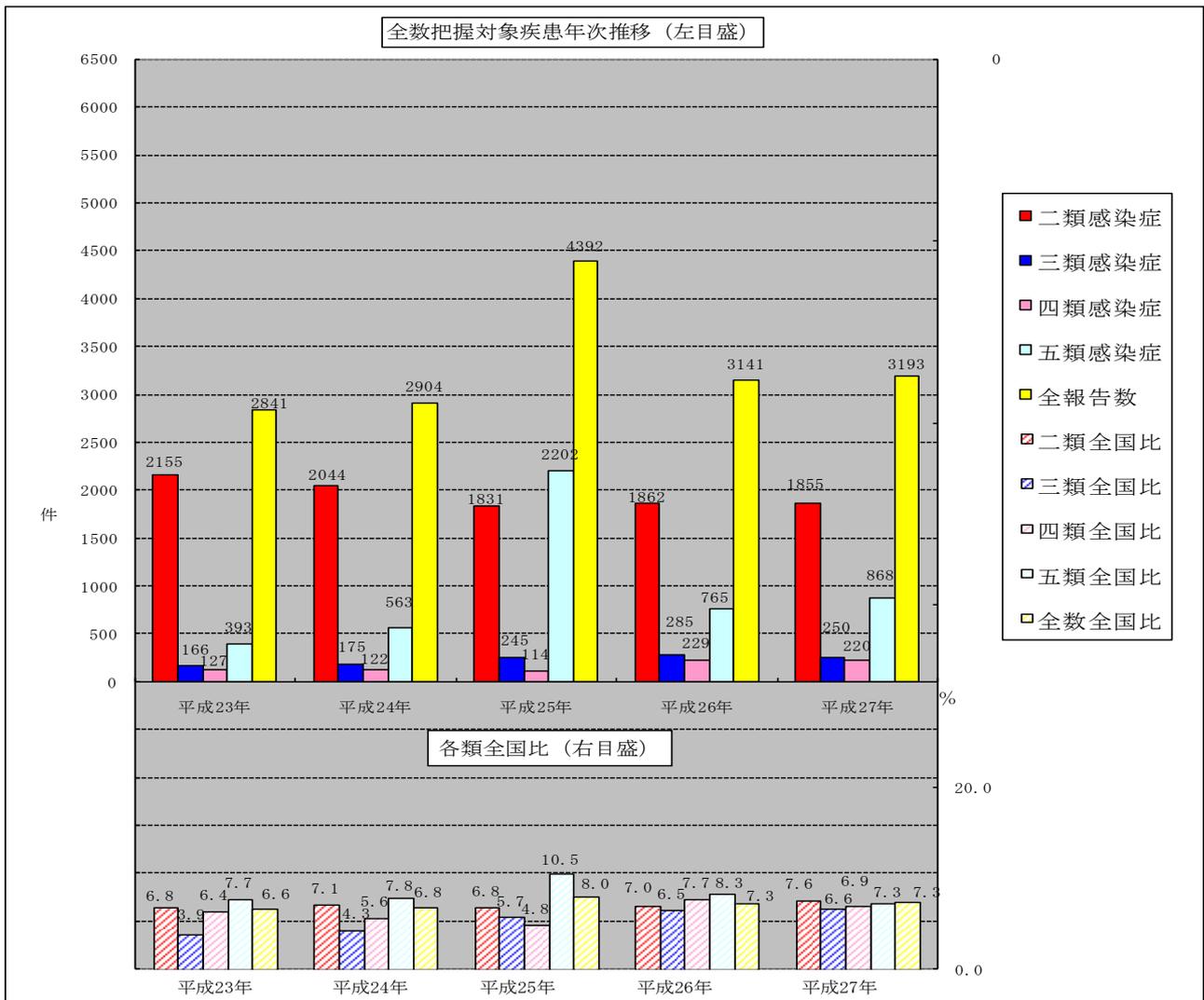
1 全数把握対象疾患

平成 27 年に県内で報告のあった全数把握対象疾患は、3193 件と前年より 52 件増加した。

類別では、二類感染症 1855 件、三類感染症 250 件、四類感染症 220 件、五類感染症 868 件であった。平成 27 年報告総数の全国に占める割合は、前年と横ばいの約 7.3%であった。最も割合の高かった感染症は二類感染症で 7.6%を占めた。

全数把握対象疾患の年別推移等は、資料 1「平成 27 年全数把握対象感染症保健所別報告数」を参照。

図 1 全数把握対象疾患の推移



《一類感染症》

報告はなかった。

《二類感染症》

結核 1855 件であり、前年より減少した。

《三類感染症》

報告数は、前年よりも 35 件減少して 250 件であった。最も報告の多かった疾患は腸管出血性大腸菌感染症が 222 件で、前年より 51 件減少した。

表 1 三類感染症報告数（件）

疾患名	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年							全国
	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	(横 浜市)	(川 崎 市)	(相 模 原 市)	(横 須 賀 市)	(藤 沢 市)	神奈川 県(左 を除 く)	
15 コレラ	3	2			1	1						7
16 細菌性赤痢	29	13	13	8	14	6	3	1	1	1	2	156
17 腸管出血性大腸菌感染症	132	149	218	273	222	122	39	6	6	12	42	3567
18 腸チフス		8	8	3	2	1		1	1			37
19 パラチフス	2	3	6	1	11	8		2	2		1	32
合 計	166	175	245	285	250	138	42	10	10	13	45	3799

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による
※擬似症・無症状病原体保有者を含む

《四類感染症》

8 疾患の報告があり、報告数は前年よりも 9 件減少して 220 件であった。最も報告の多かった疾患はレジオネラ症で 144 件、続いて、デング熱 35 件であった。

表 2 四類感染症報告数（件）

疾患名	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年							全国
	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	神奈川 県	(横 浜市)	(川 崎 市)	(相 模 原 市)	(横 須 賀 市)	(藤 沢 市)	神奈川 県(左 を除 く)	
20 E型肝炎	3	4	7	11	12	5	2		1	3	1	154
22 A型肝炎	10	16	11	25	13	8	2		1		2	433
23 エキノコックス症				1								28
25 オウム病	1			4								8
38 チクングニア熱	2	2	1	1								16
39 つつが虫病	29	13	11	12	12	1					11	320
40 デング熱	10	19	16	31	35	20		3	2	4	6	341
44 日本紅斑熱				1								240
49 ブルセラ症			1									10
54 マラリア	7	11	2	8	2	1	1					60
56 ライム病				1	1	1						17
59 類鼻疽	1											
60 レジオネラ症	64	54	63	131	144	63	17	10	4	2	48	1246
61 レプトスピラ症		3	2	3	1						1	48
合 計	127	122	114	229	220	99	22	13	8	9	69	2921

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による
※擬似症・無症状病原体保有者を含む
※全国合計値は掲載疾病以外の疾病も含む - 2 -
※平成23年2月よりチクングニア熱が追加された

《五類感染症》

20 疾患の報告があり、報告数は 868 件であった。最も報告の多かった疾患が侵襲性肺炎球菌感染症で 207 件、次いで梅毒が 165 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症が 111 件であった。

表 3 五類感染症報告数（件）

疾患名	平成 23年	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年							全国
	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	神奈 川 県	(横 浜 市)	(川 崎 市)	(相 模 原 市)	(横 須 賀 市)	(藤 沢 市)	神奈 川 県 (左 を 除 く)	
63 アメーバ赤痢	85	82	88	117	99	51	19	4	2	6	17	1108
64 ウイルス性肝炎	12	4	19	9	10	5	4				1	254
65 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	/	/	/	26	111	45	27	7	4	6	22	1680
66 急性脳炎	11	13	17	39	45	19	18	1	2		5	511
67 クリプトスポリジウム症					1	1						15
68 クロイツフェルト・ヤコブ病	6	8	11	13	9	3	1	1	1	1	2	191
69 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10	13	16	25	35	16	7	2	2		8	434
70 後天性免疫不全症候群	92	90	120	97	87	48	18	8	1	1	11	1431
71 ジアルジア症	6	4	5	3	4	4						80
72 侵襲性インフルエンザ菌感染症	/	/	7	18	18	8	4			1	5	252
73 侵襲性髄膜炎菌感染症	/	/	1	4	2	1			1			34
74 侵襲性肺炎球菌感染症	/	/	101	163	207	104	42	9	9	15	28	2402
75 水痘（入院例）	/	/	/	9	24	12	4	4			4	314
76 先天性風しん症候群			3									
77 梅毒	43	50	76	110	165	61	49	15	12	5	23	2697
78 播種性クリプトコックス症	/	/	/	2	10	3		4			3	119
79 破傷風	2	6	6	6	5	2	1	1			1	120
81 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	17	7	9	5	13	3	1		5		4	66
82 風しん	64	259	1691	68	12	6	2			1	3	163
83 麻しん	45	24	31	48	7	1	1			2	3	35
84 薬剤耐性アシネトバクター	/	/	/	3	4			4				37
髄膜炎菌性髄膜炎	/	3	1	/	/	/	/	/	/	/	/	/
合計	393	563	2202	765	868	393	198	60	39	38	140	11943

※件数は国立感染症研究所感染症発生動向調査による

※擬似症・無症状病原体保有者を含む

※全国合計値は掲載疾病以外の疾病を含む

※平成20年1月より風しん、麻しんが追加された

※平成25年4月より侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症が追加された。それに伴い髄膜炎菌性髄膜炎は削除された

※平成26年9月よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、播種性クリプトコックス症、水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る）、薬剤耐性アシネトバクター感染症が追加された

2 定点把握対象疾患

(1) 定点

定点把握対象疾患は、疾患により5種類に分類され、予め指定された医療機関（定点）から報告される。定点の数は人口に応じて決められており、神奈川県内の定点の状況は下表のとおりである。

	県域	横浜市	川崎市	相模原市	計
インフルエンザ定点	116	152	54	23	345
小児科定点	73	92	33	15	213
眼科定点	16	19	7	4	46
STD(性感染症)定点	23	27	7	5	62
基幹定点	5	4	2	1	12

○インフルエンザ定点

対象疾患名： インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

○小児科定点

対象疾患名： RSウイルス感染症・咽頭結膜熱・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・感染性胃腸炎・水痘・手足口病・伝染性紅斑・突発性発しん・百日咳・ヘルパンギーナ・流行性耳下腺炎

○眼科定点

対象疾患名： 急性出血性結膜炎・流行性角結膜炎

○STD定点

対象疾患名： 性器クラミジア感染症・性器ヘルペスウイルス感染症・尖圭コンジローマ・淋菌感染症

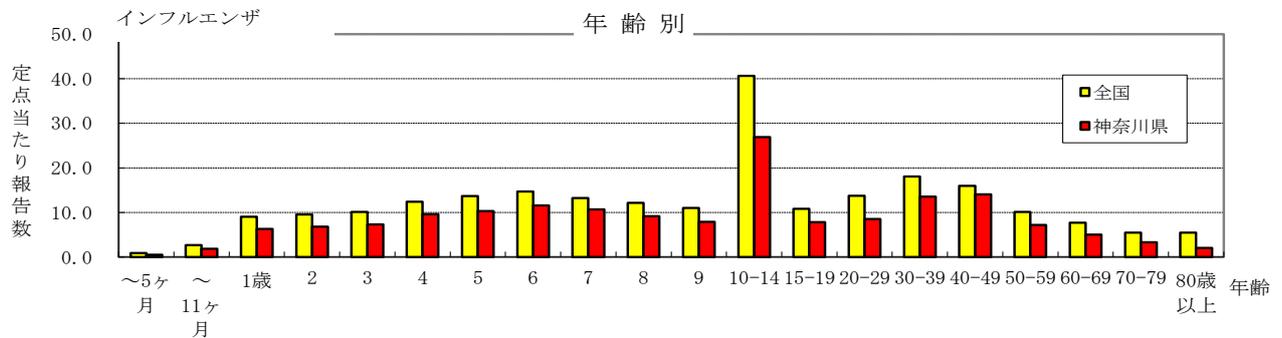
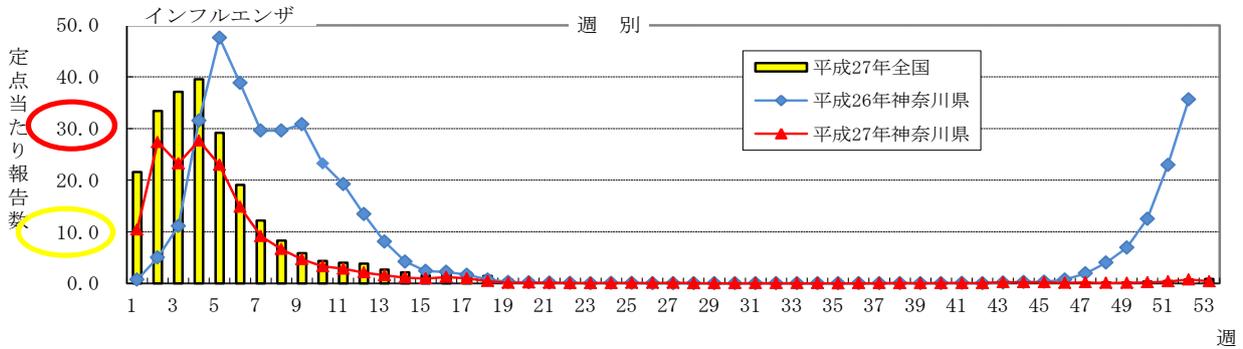
○基幹定点

対象疾患名： クラミジア肺炎（オウム病を除く）・細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）・マイコプラズマ肺炎・無菌性髄膜炎・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症・薬剤耐性緑膿菌感染症

(2) 週報対象疾患（神奈川県全域）

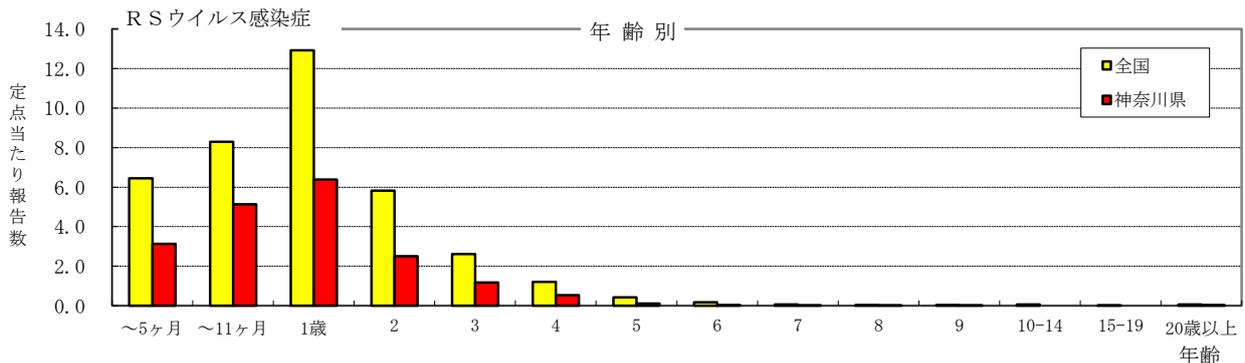
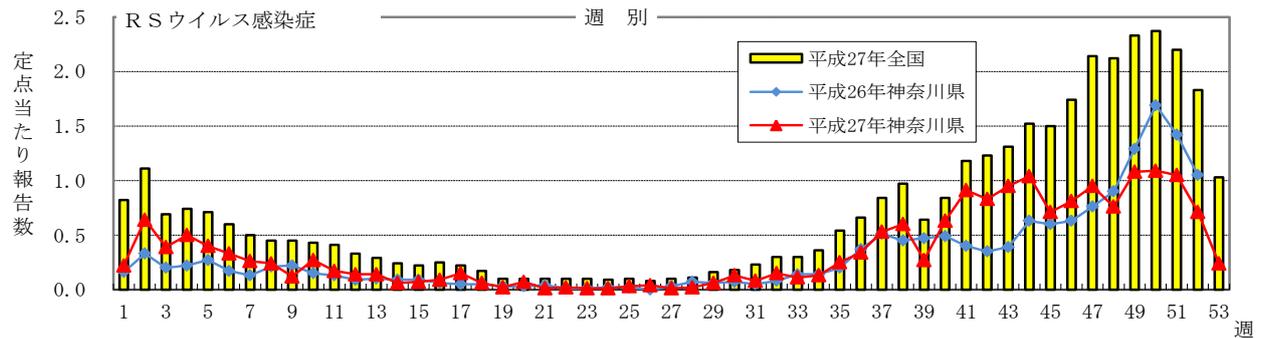
インフルエンザ

2014/2015 シーズンは第 52 週に流行のピークがみられた。2015/2016 シーズンは第 53 週まで流行開始の目安となる定点当たり 1 を超えなかった。年齢別では、5 歳から 7 歳に報告が多かった。



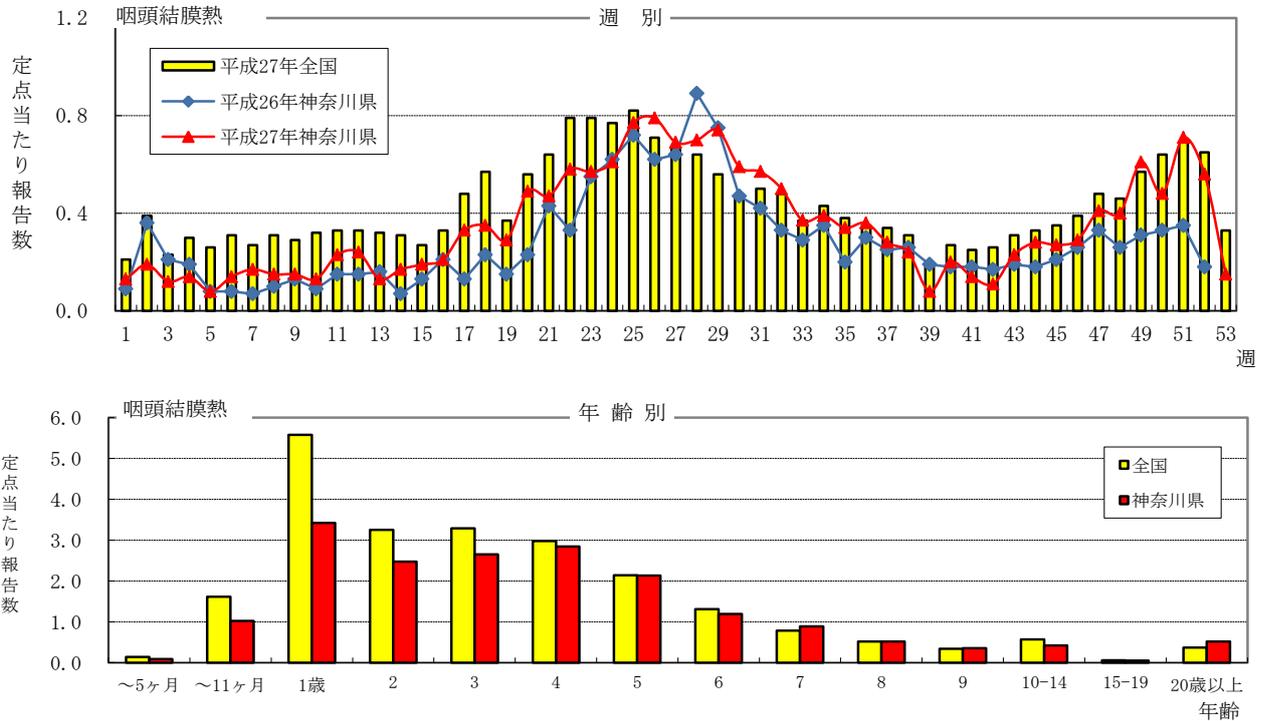
RS ウイルス感染症

第 35 週以降に報告が多く、第 50 週に定点当たり 1.09 とピークがみられた。年齢別では、1 歳以下に報告が多かった。



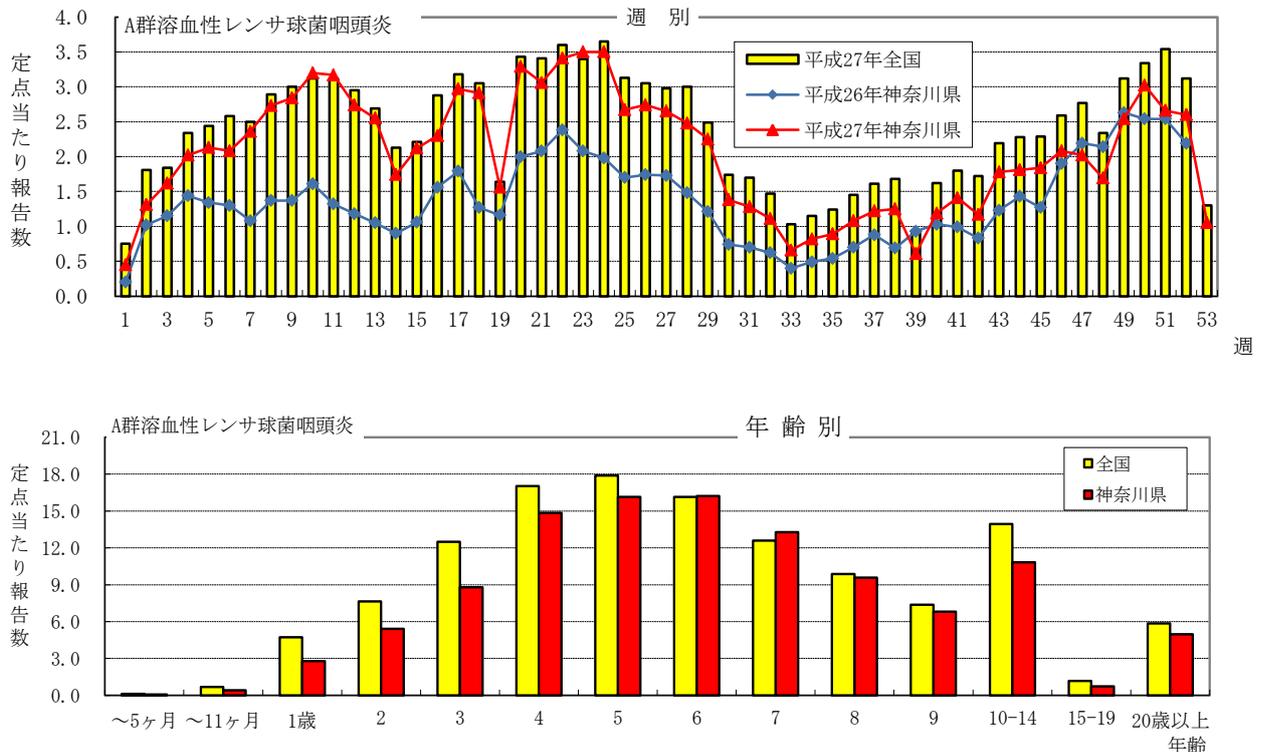
咽頭結膜熱

第26週に定点当たり0.79、第51週に0.71とピークがみられた。年齢別では、1歳から5歳を中心に報告が多かった。



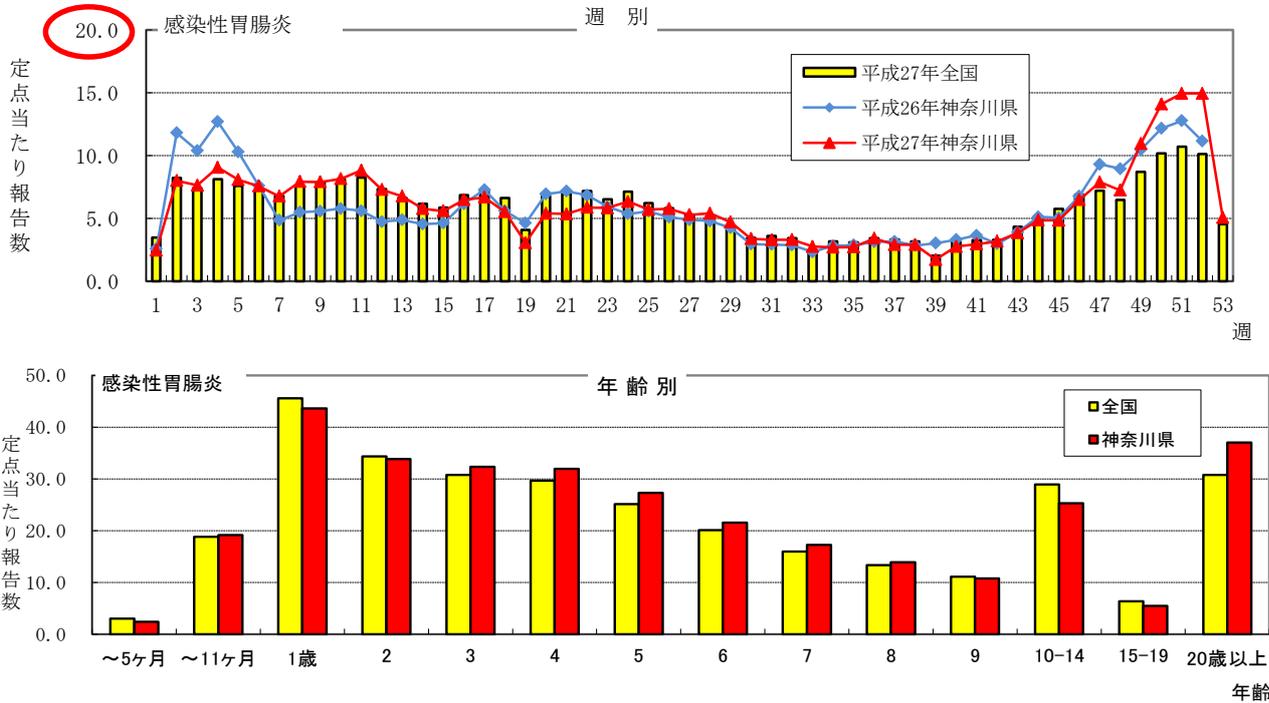
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第10週に定点あたり3.2、第23週及び24週に3.5、第50週に3.02と複数のピークがみられた。年齢別では、4歳から6歳を中心に報告が多かった。



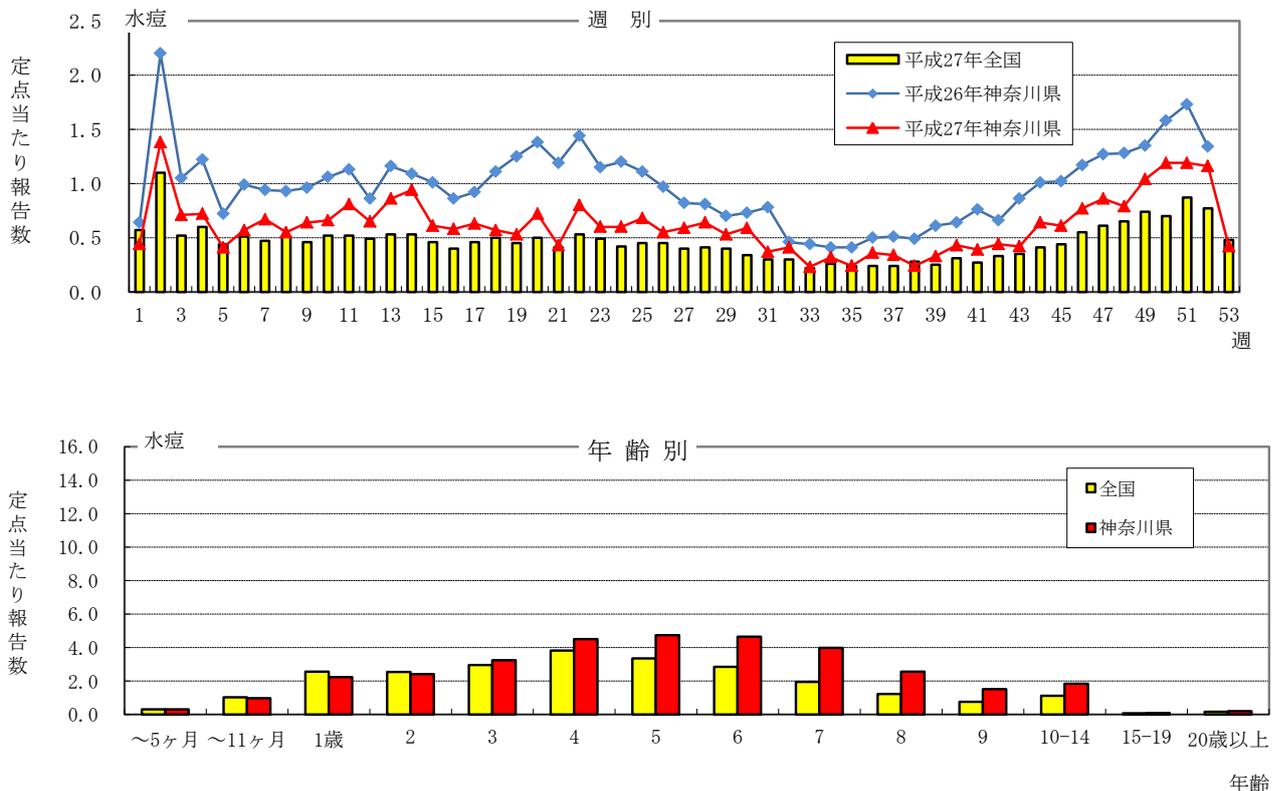
感染性胃腸炎

第51週及び52週に定点当たり14.95と流行のピークがみられた。年齢別では、1歳から14歳以下に多く見られた。



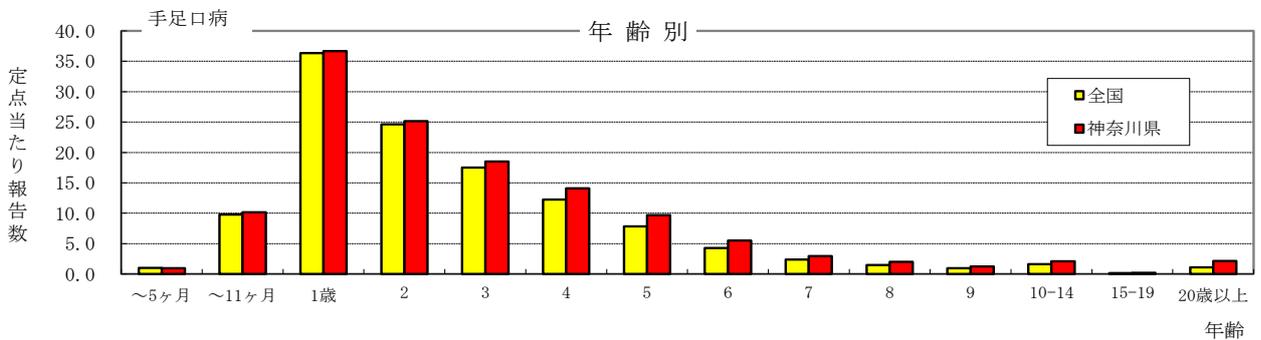
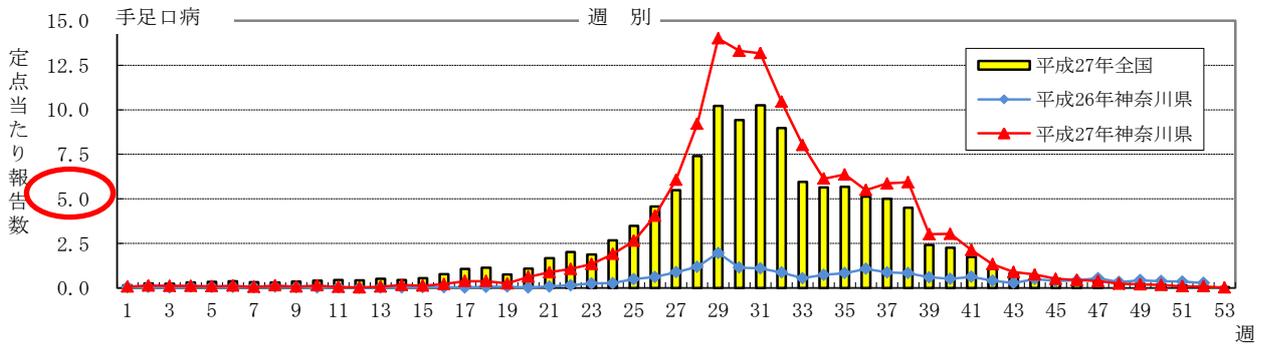
水痘

第2週に定点当たり1.38、第50週及び51週に1.19とピークが見られたが、通年で定点当たり報告数が昨年を下回った。年齢別では、4歳から7歳に報告が多かった。



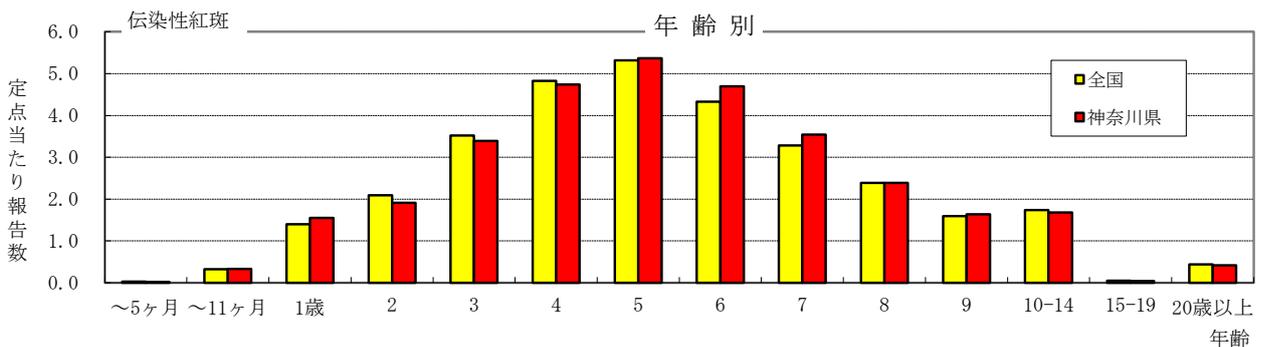
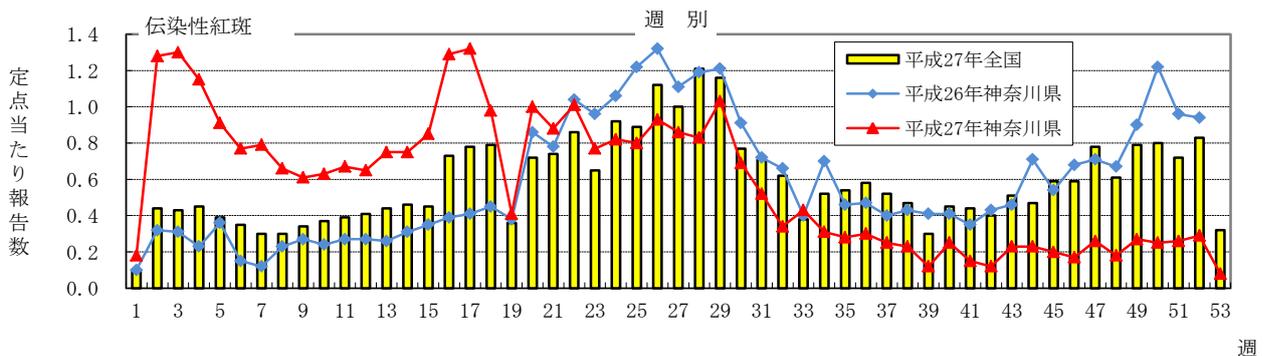
手足口病

第27週に定点当たり6.07と警報開始基準値5を超え、第29週に定点当たり14とピークが見られた。年齢別では、1歳を中心に報告が多くみられた。



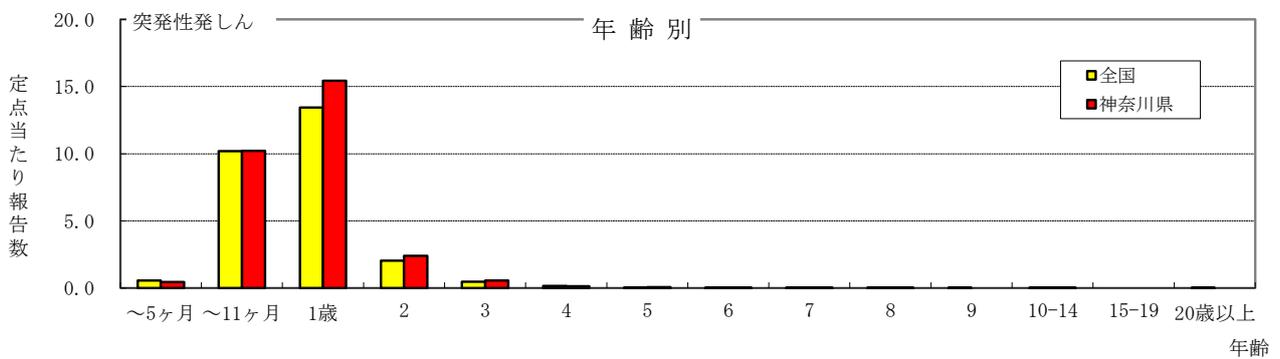
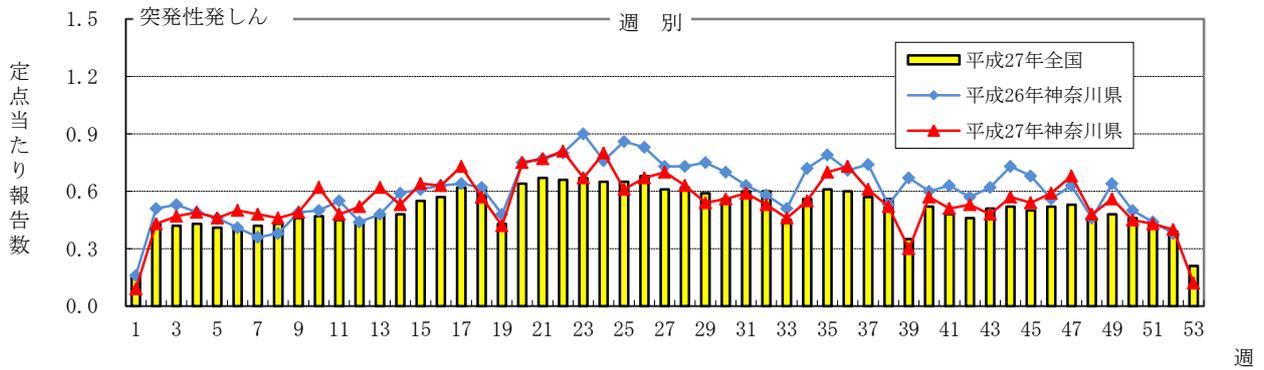
伝染性紅斑

第3週に定点当たり1.3、第17週に1.32とピークがみられた。年齢別では、5歳を中心とした報告がみられた。



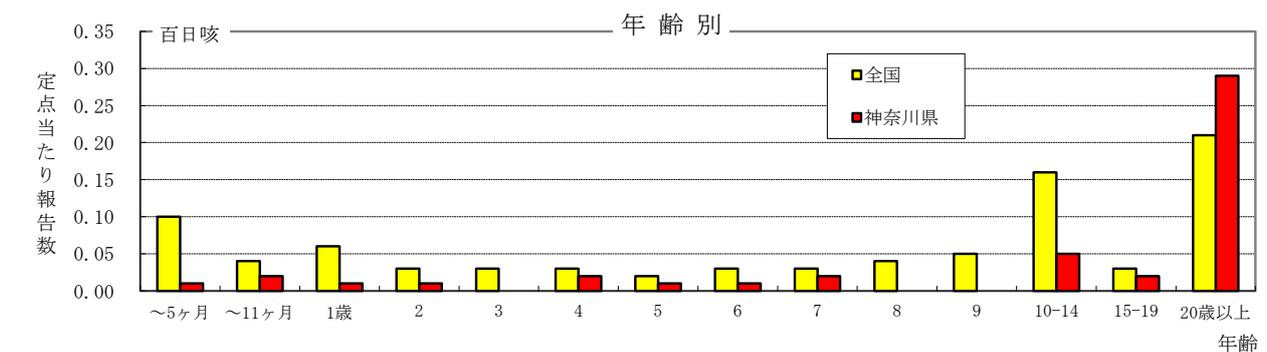
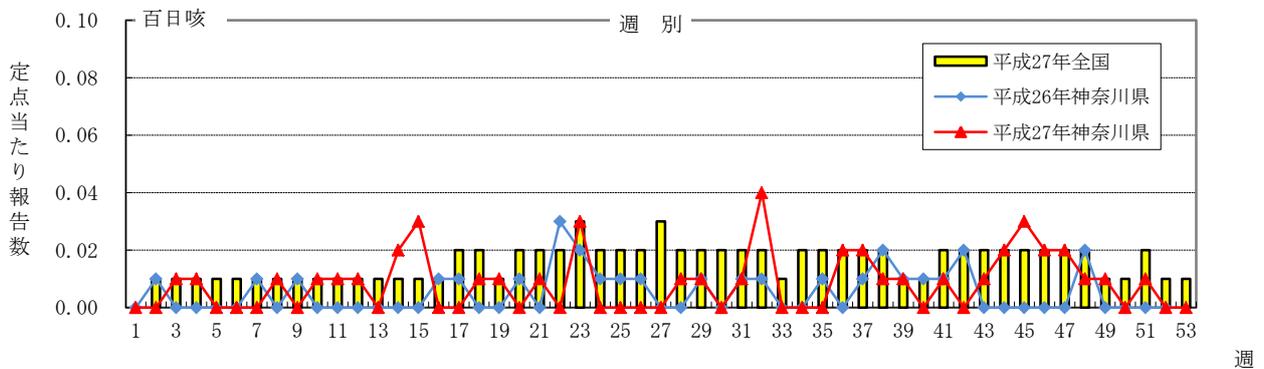
突発性発しん

昨年同様に、年間を通して報告がみられた。年齢別では、6ヶ月から1歳に多く報告がみられた。



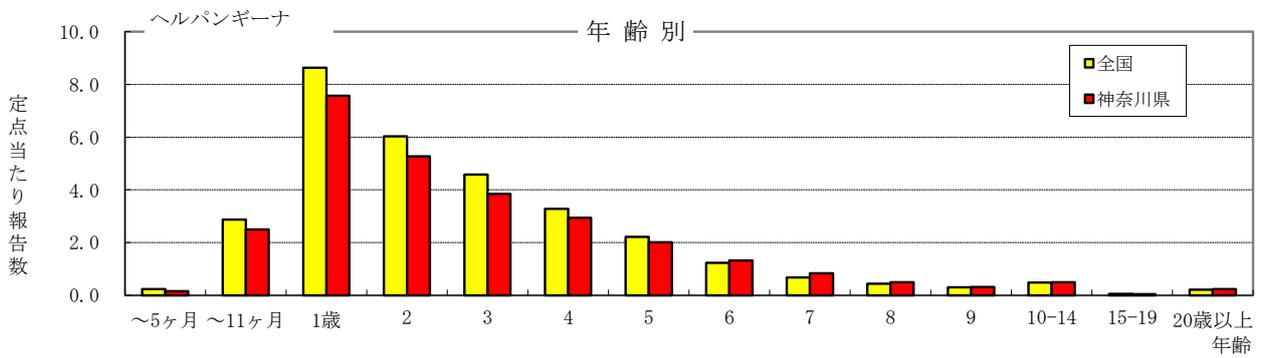
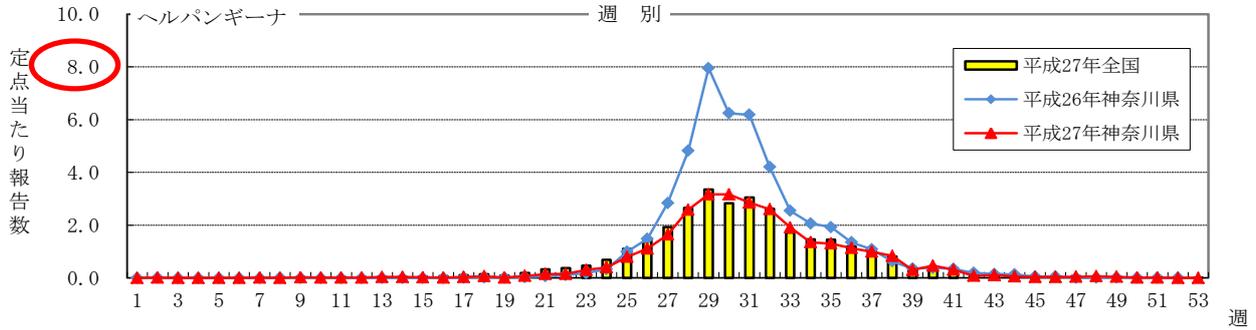
百日咳

平成26年と同様、報告は少なかった。年齢別では、10歳から14歳の報告が多かった。



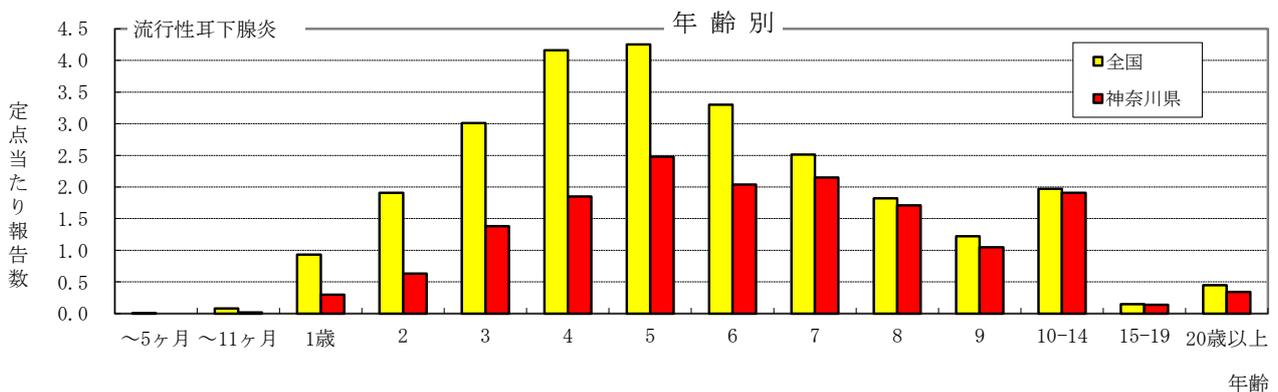
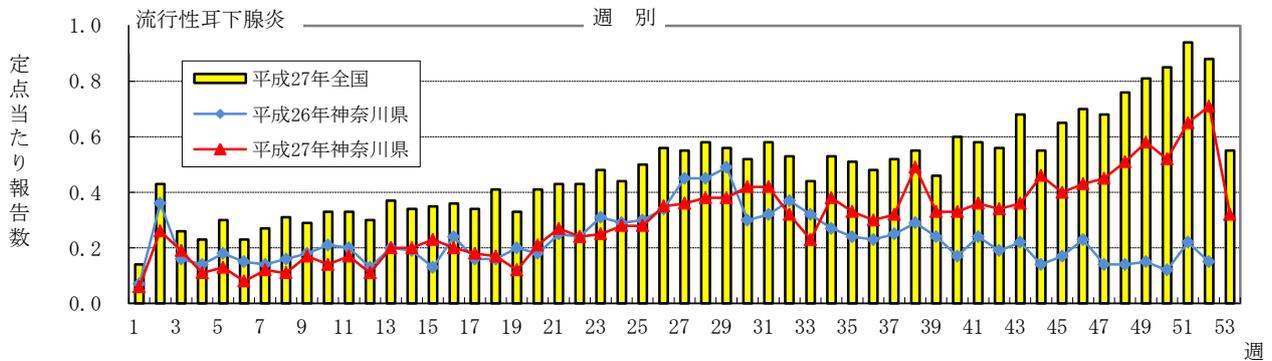
ヘルパンギーナ

平成 26 年よりも報告が少なく、ピークは第 29 週及び 30 週の定点あたり 3.16 であった。年齢別では、1 歳を中心に報告がみられた。



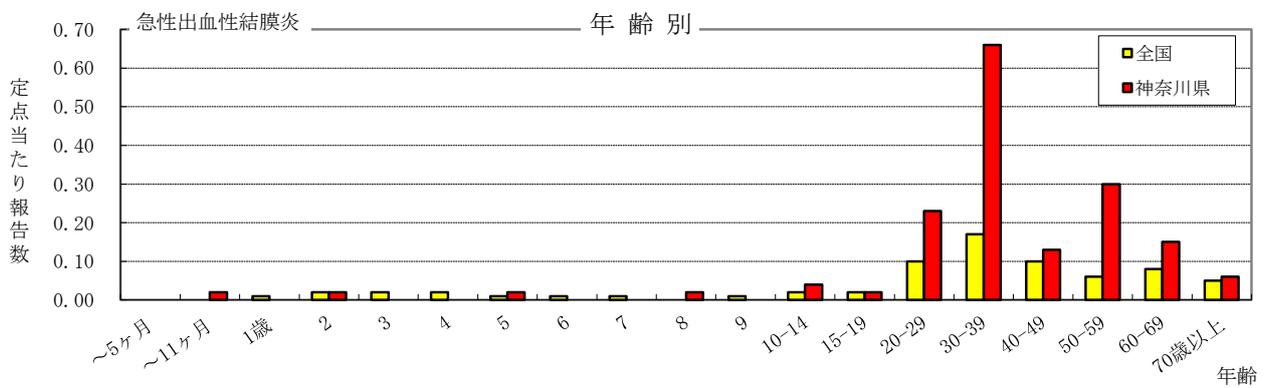
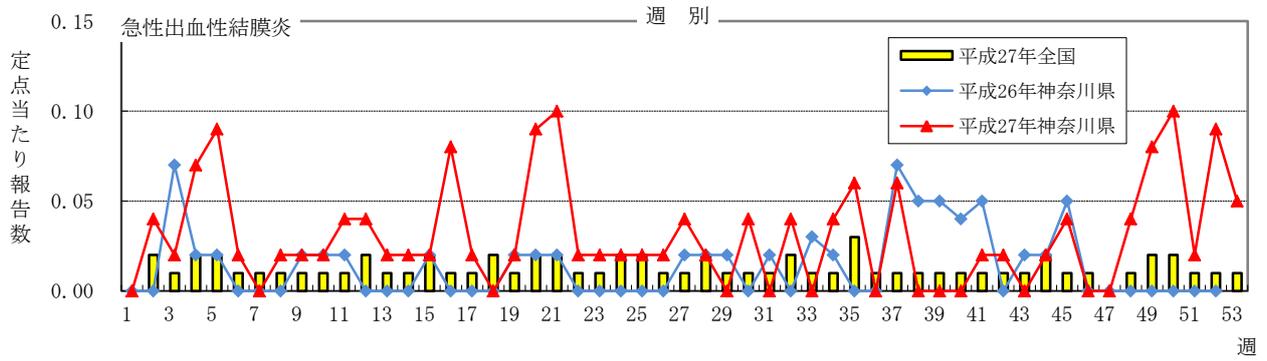
流行性耳下腺炎

第 52 週に定点あたり 0.71 とピークがみられた。年齢別では、5 歳を中心に報告がみられた。



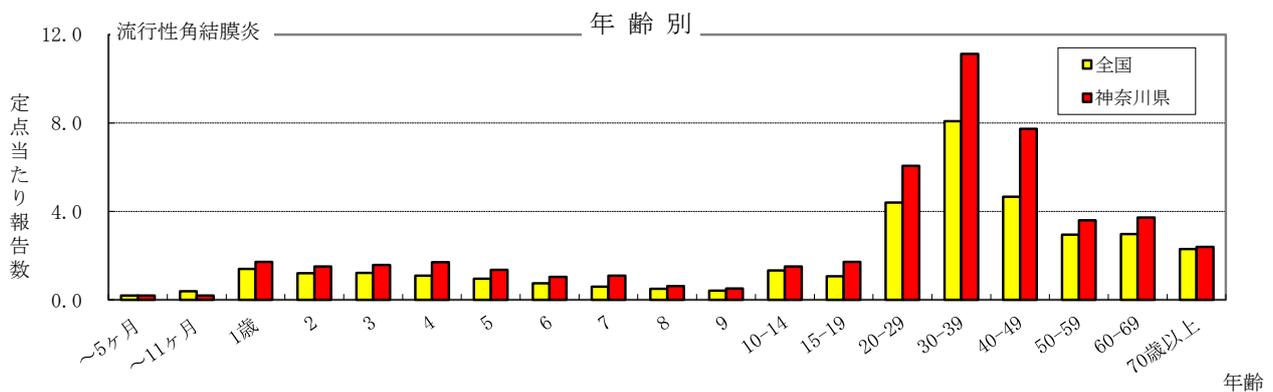
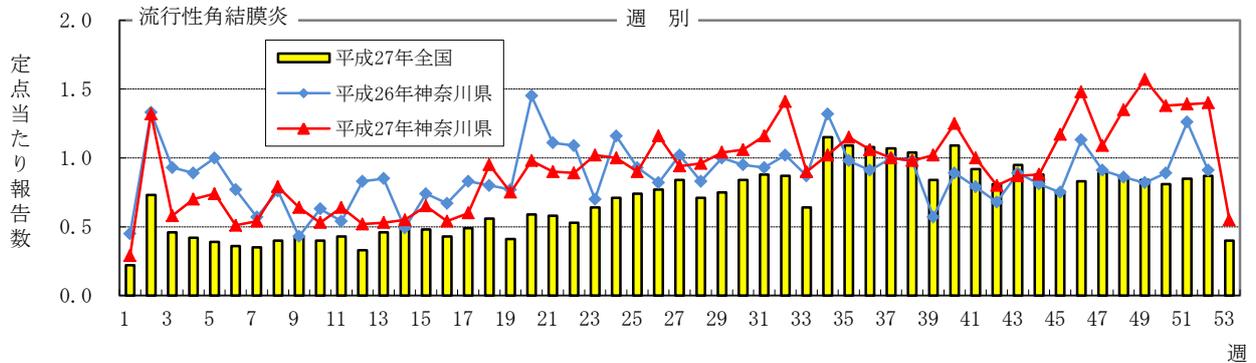
急性出血性結膜炎

散発的に報告がみられた。年齢別では、30歳代を中心に報告がみられた。



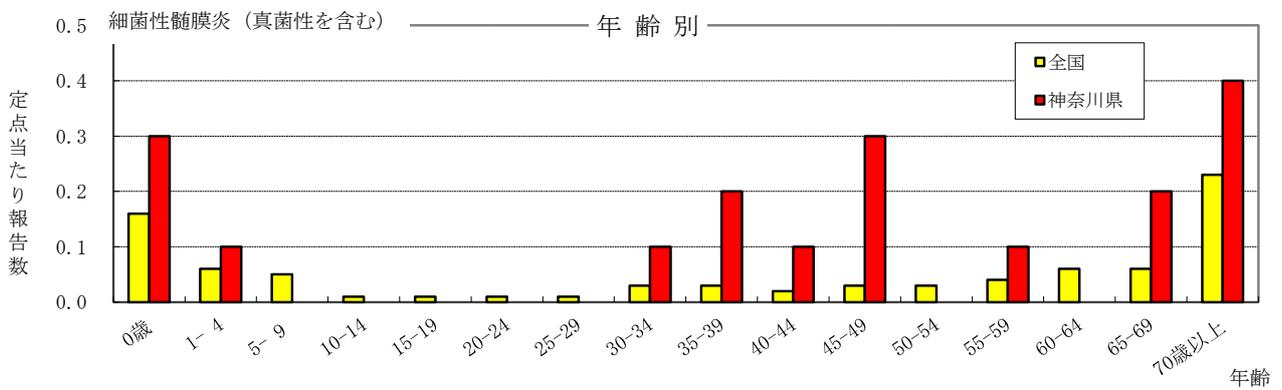
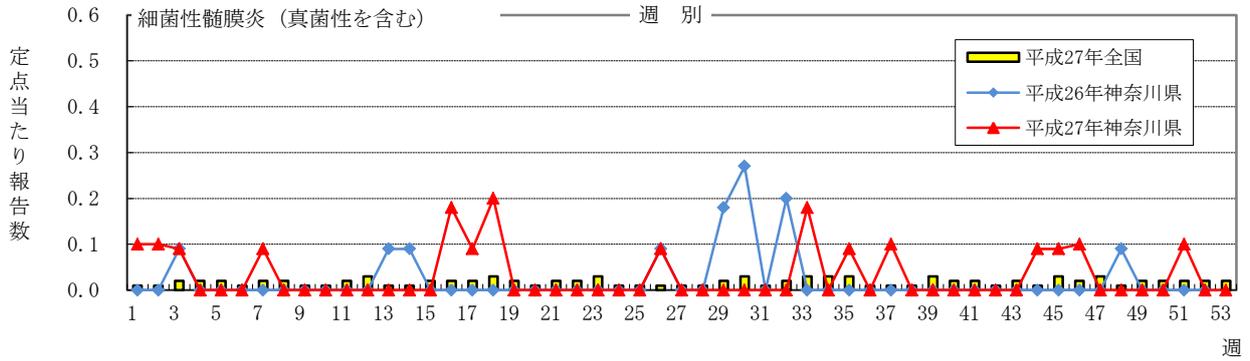
流行性角結膜炎

年間を通して報告がみられた。年齢別では、30歳代を中心に報告がみられた。



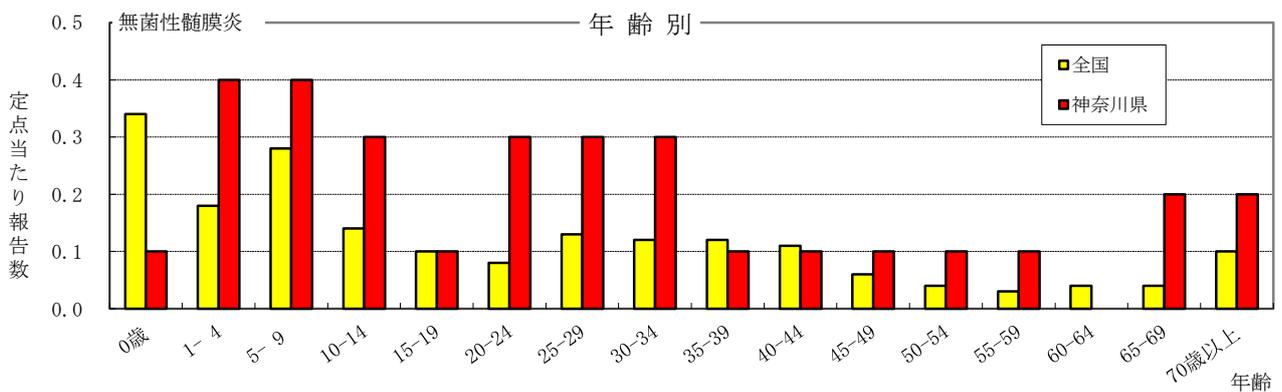
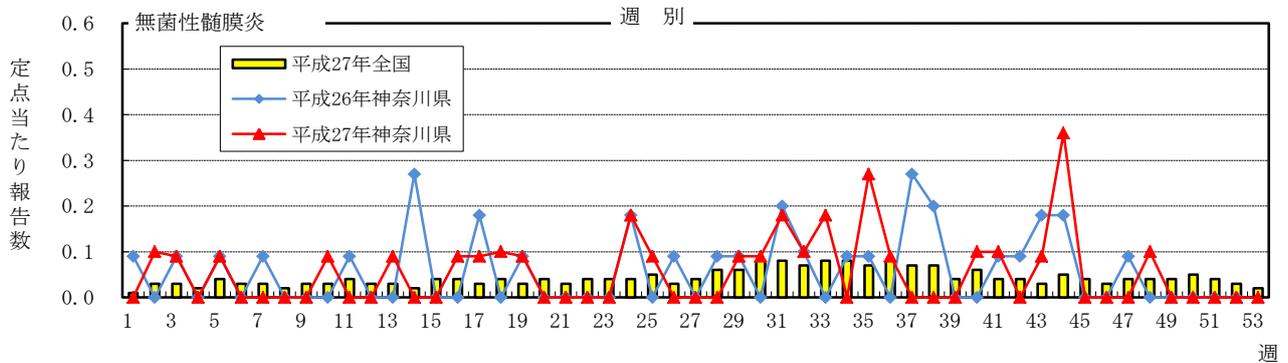
細菌性髄膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では、0歳、40歳代及び65歳以上に報告が多かった。



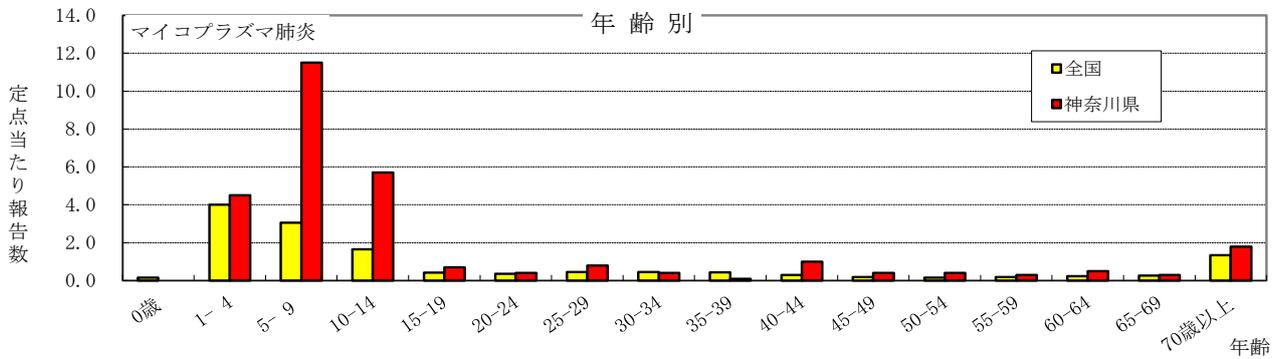
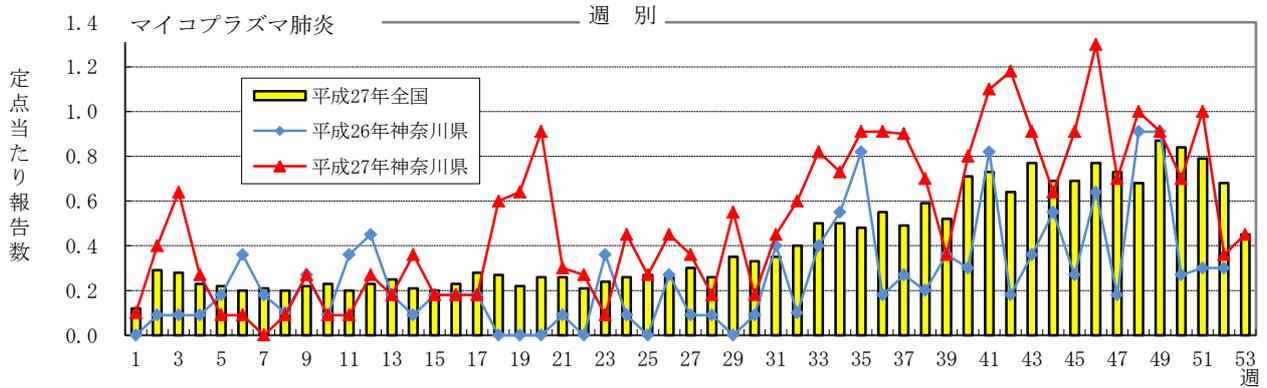
無菌性髄膜炎

散発的な報告がみられた。年齢別では、35歳未満に報告がみられた。



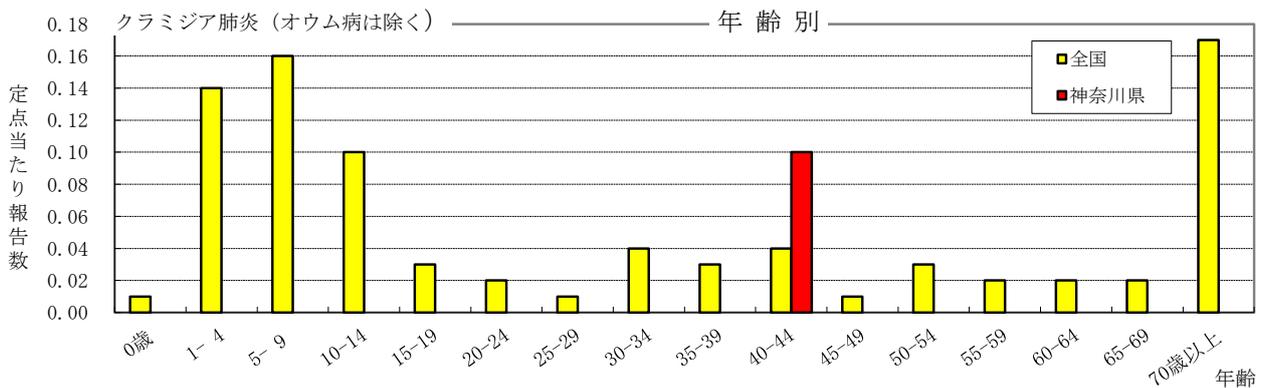
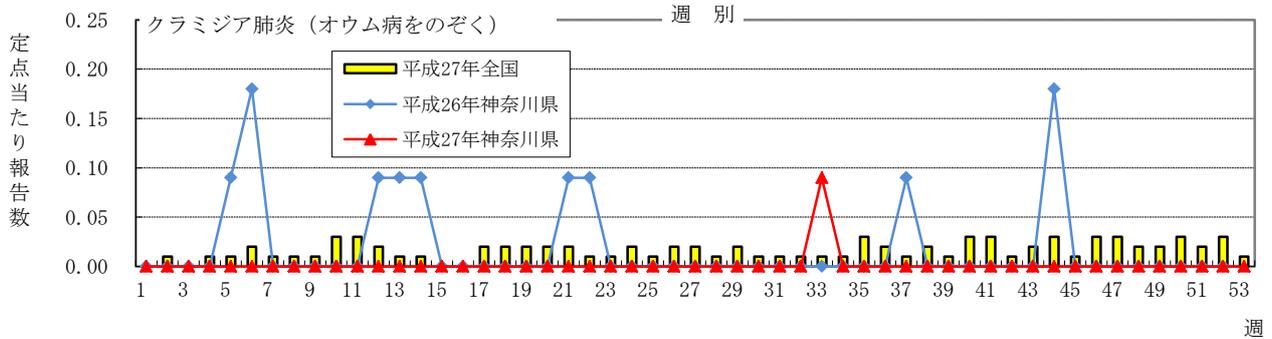
マイコプラズマ肺炎

平成 26 年と比較し、報告が多かった。年齢別では、5 歳から 9 歳を中心とした報告がみられた。



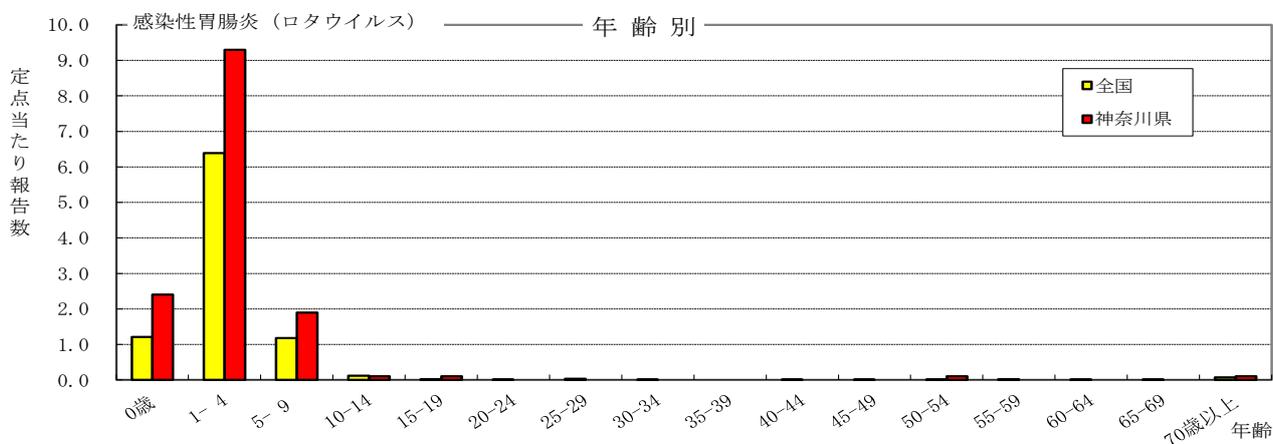
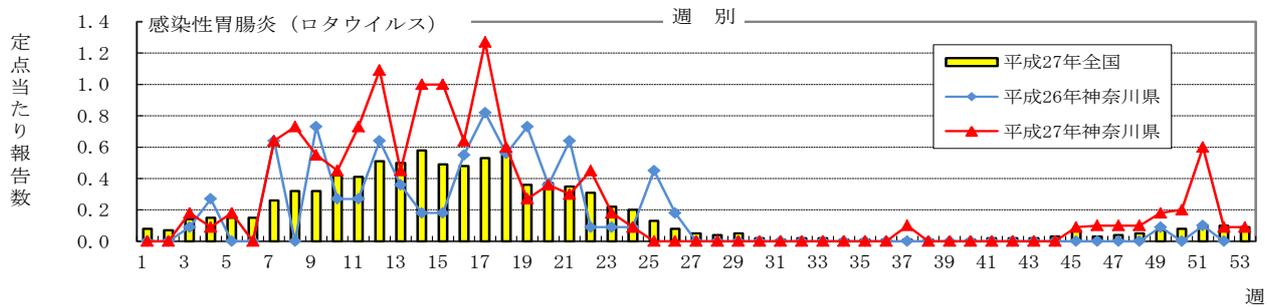
クラミジア肺炎（オウム病を除く）

第 33 週に報告がみられた。年齢別では、40 歳から 44 歳の報告がみられた。



感染性胃腸炎（ロタウイルス）

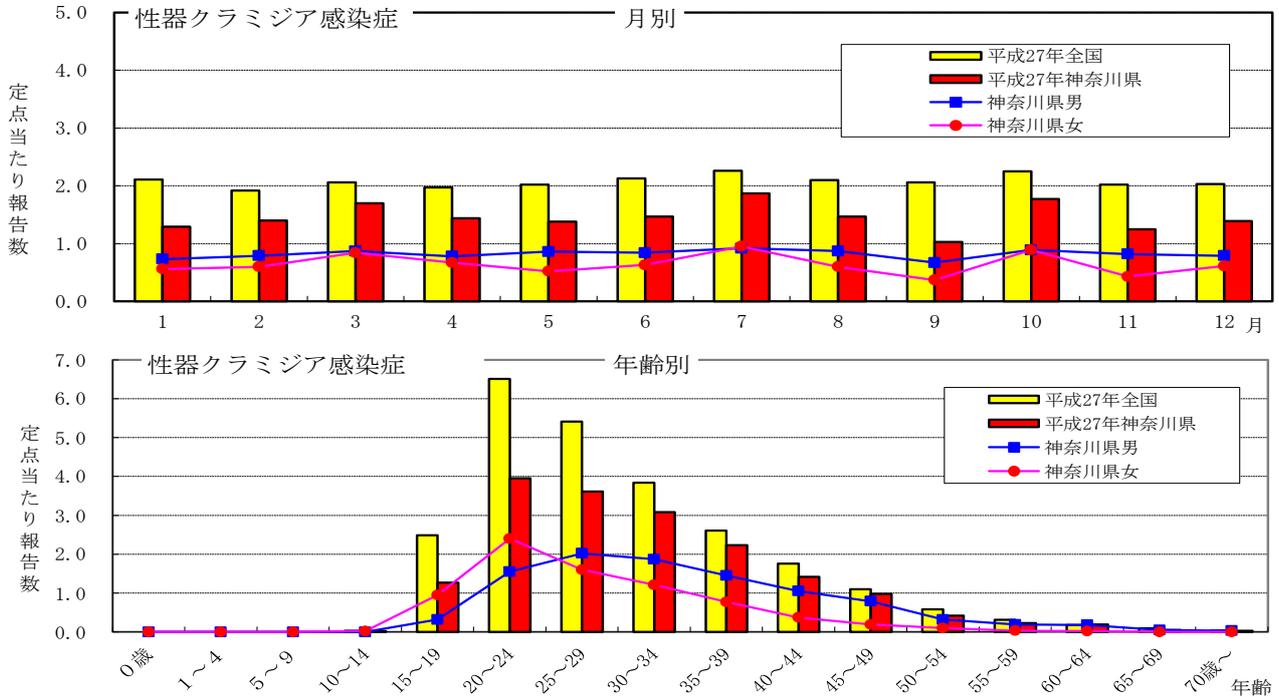
第3週から第24週にかけて報告が多く、第17週に定点あたり1.27とピークがみられた。年齢別では、1歳から4歳の報告が多かった。



(3) 月報対象疾患（神奈川県全域）

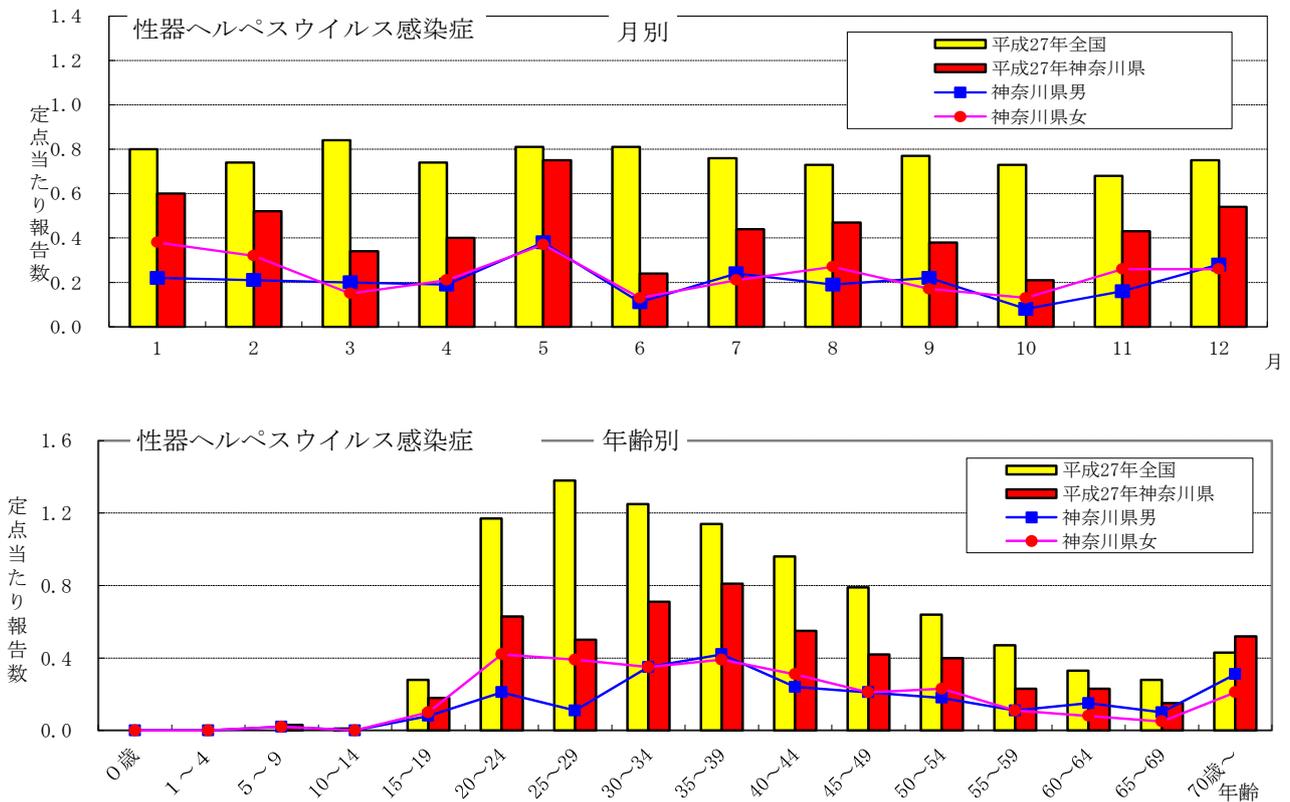
性器クラミジア感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性が20歳から39歳、女性が15歳から34歳に報告が多かった。



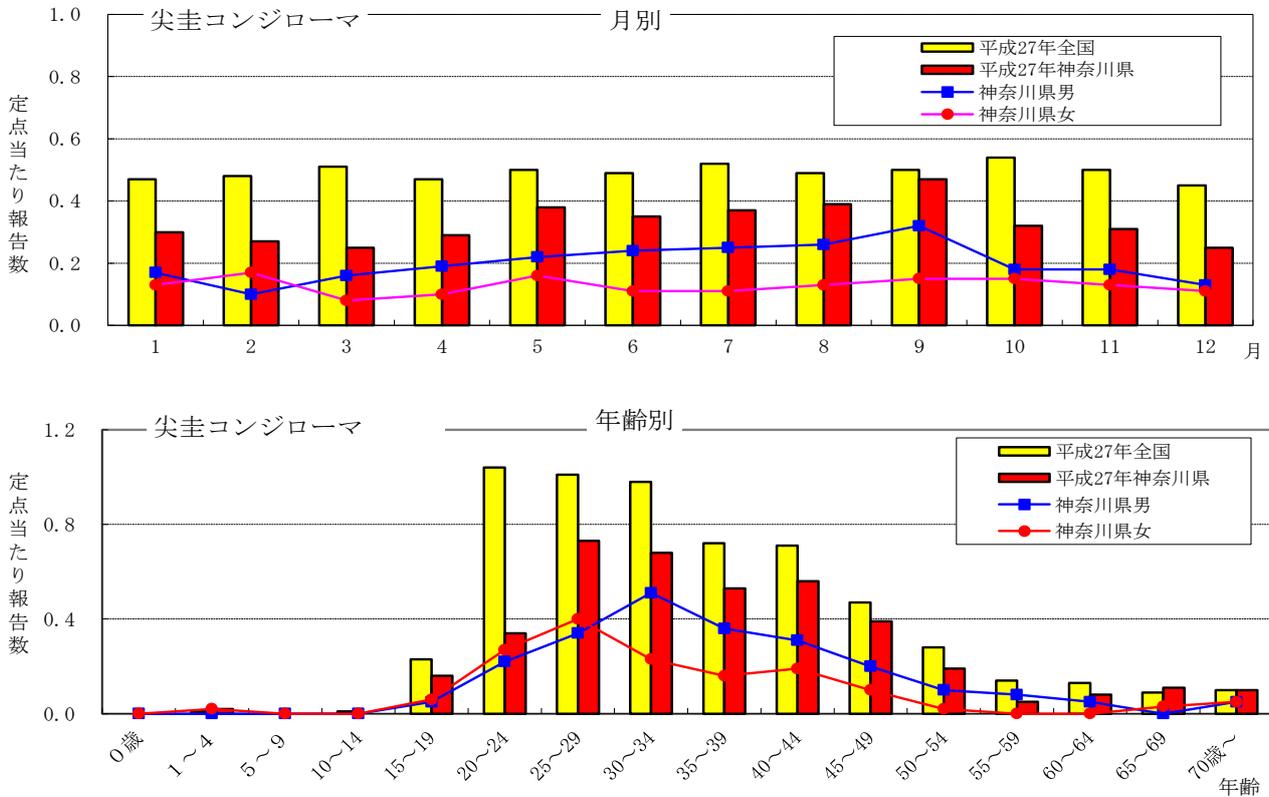
性器ヘルペスウイルス感染症

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では男性が30歳代、女性が20歳代に報告が多かった。



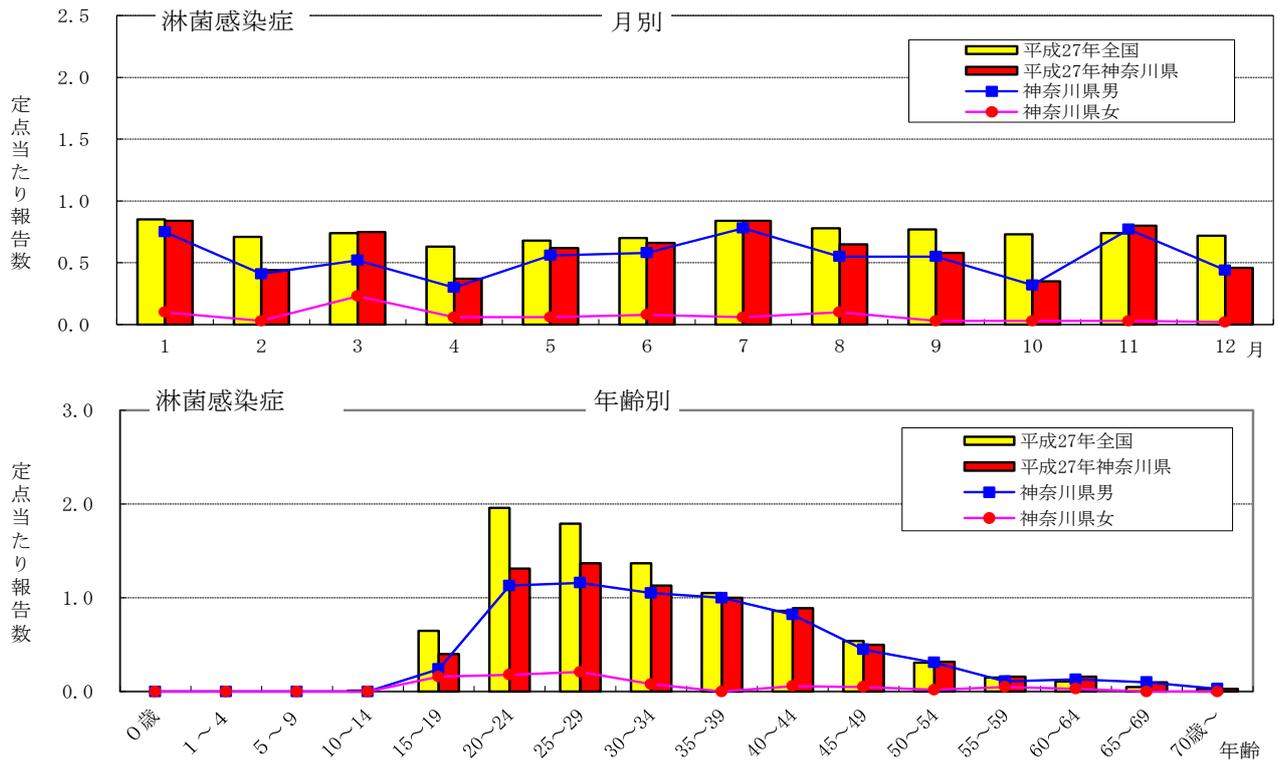
尖圭コンジローマ

男女ともに年間を通して報告がみられた。年齢別では、男性が30歳から34歳、女性が20歳から29歳に報告が多かった。



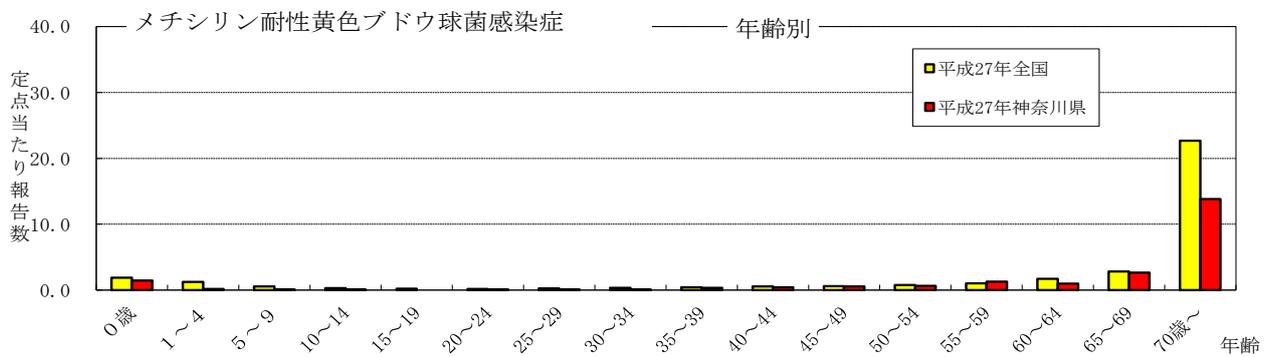
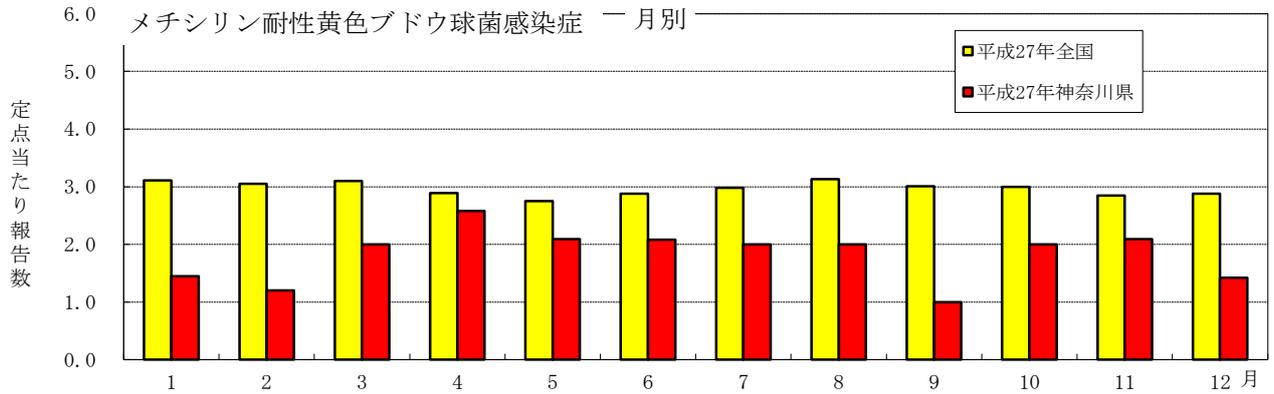
淋菌感染症

男性は年間を通して報告がみられたが、女性は年間を通して報告が少なかった。年齢別では、男性が20歳から44歳に報告が多かった。



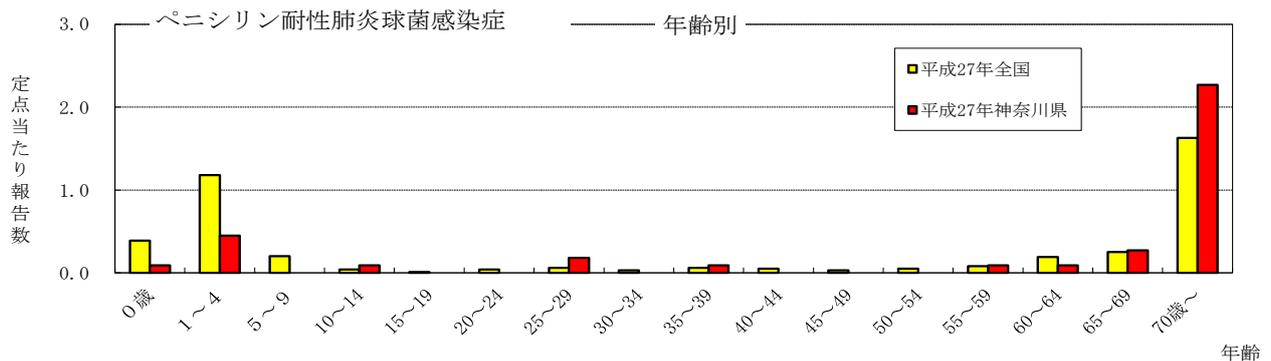
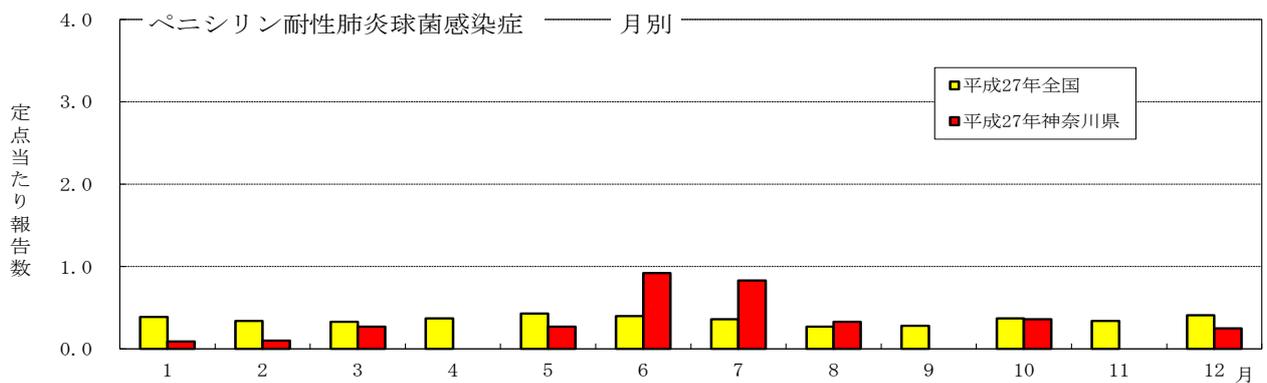
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

年間を通して報告がみられた。年齢別では、70歳以上に報告が多かった。



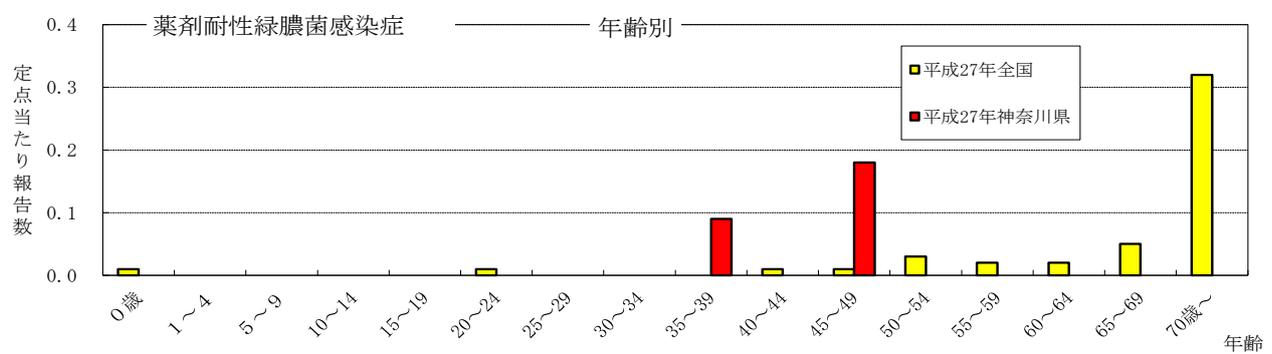
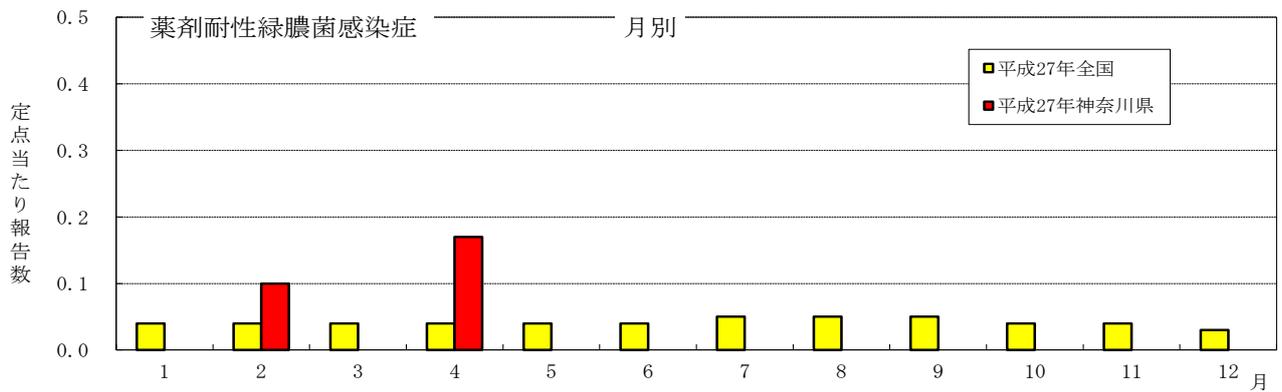
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

年間を通して報告がみられた。年齢別では、70歳以上に報告が多かった。



薬剤耐性緑膿菌感染症

2月と4月に報告がみられた。年齢別では、35歳から49歳の報告がみられた。



3 トピックス

< 神奈川県 HIV/エイズの概要 > (速報値)

平成 27 年の神奈川県における新規登録 HIV 感染者・エイズ患者数は、総数で 87 人であった（速報値であるため、3 ページにある後天性免疫不全症候群の報告数と異なる）。平成 26 年と比較し、感染者は減少したが、患者は増加した。（表 1）

表 1 新規登録 HIV 感染者・エイズ患者の性別年次推移（神奈川県） (人)

		平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	昭和60年から の累計
男性	総数	66	84	80	73	69	75	92	115	94	81	1,547
	感染者	44	52	59	51	49	51	60	87	67	50	1,015
	患者	22	32	21	22	20	24	32	28	27	31	532
女性	総数	12	12	12	8	8	8	8	4	3	6	261
	感染者	9	7	7	6	6	7	6	2	1	4	197
	患者	3	5	5	2	2	1	2	2	2	2	64
合計	総数	78	96	92	81	77	83	100	119	97	87	1,808
	感染者	53	59	66	57	55	58	66	89	68	54	1,212
	患者	25	37	26	24	22	25	34	30	29	33	596

(平成 27 年 12 月 31 日現在)

平成 27 年の HIV 検査実施件数は、前年比 17.5%減の 7746 件であった。（表 2）

表 2 HIV 検査実施件数年次推移 (件)

	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
県域	2,258	3,078	3,071	2,939	2,585	2,409	2,208	1,983	1,818	1,588
横浜市	4,432	5,092	5,087	4,754	4,031	4,169	4,057	4,312	4,360	3,354
川崎市	2,083	2,381	2,432	2,207	1,831	1,789	1,753	1,710	1,972	1,758
相模原市	434	585	559	584	486	491	499	227	522	480
横須賀市	298	440	352	322	340	262	262	538	260	202
藤沢市	115	192	388	367	383	436	430	447	460	364
合計	9,620	11,768	11,889	11,173	9,656	9,556	9,209	9,217	9,392	7,746
前年比 (%)	22.3	22.3	1.0	-6.0	-13.6	-1.0	-3.6	0.1	1.9	-17.5

* 自治体を実施する保健所以外の検査を含みます。

(平成 27 年 12 月 31 日現在)

(※表 1・表 2 数値：県健康危機管理課提供)

< PART II > 平成 27 年 地域 における 感染症 発生 状況 の 概要

I 病原微生物検出状況

1 ウイルス検出概況

平成 23 年～27 年のウイルス検出状況を図 1 に示した。平成 27 年に県内で検出されたウイルスは 1690 件で過去 5 年間で最も少なかった。平成 27 年の月別検出状況は、例年と同様であった。

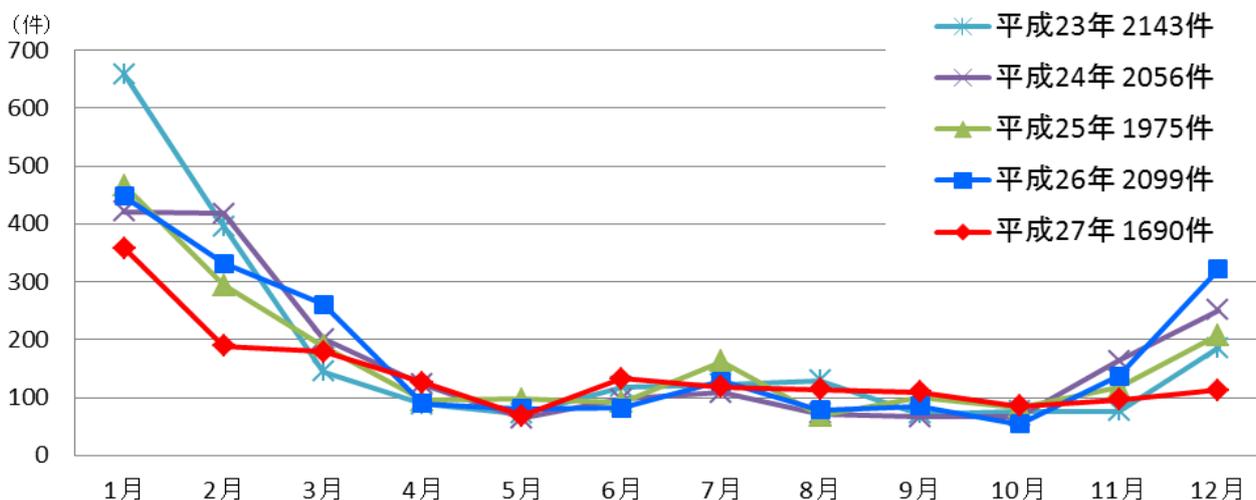


図 1 ウイルス月別検出状況年別比較

平成 27 年に検出されたウイルスのうち、検出割合の多い上位 10 種について平成 23 年～27 年の年別検出割合を図 2 に示した。平成 27 年に最も多く検出されたウイルスはインフルエンザウイルス AH3(17.6%)、次いでノロウイルス (16.2%)、インフルエンザウイルス B (5.6%)、コクサッキーウイルス A6 (5.4%) の順であった。コクサッキーウイルスは A6・A16 とともに隔年での流行が発生していることがグラフから確認された。

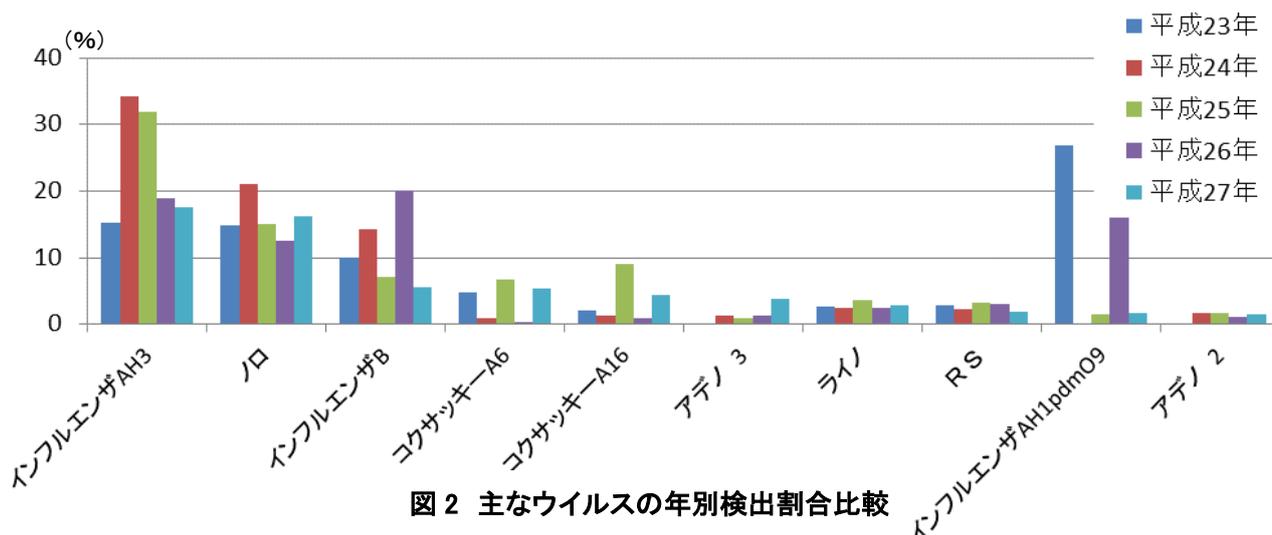


図 2 主なウイルスの年別検出割合比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各ウイルス検出状況は、ウイルス検出状況表 (p 23～p 33) に記載する。

(木村睦未)

2 病原細菌検出概況

病原細菌の検出数は平成 24 年から継続して増加傾向にあり、平成 27 年には 1377 件となった。月別検出状況を見ると、3月にピークを示した（図 1）。3月に検出された 207 件の内 117 件（56.5%）は結核菌だった。

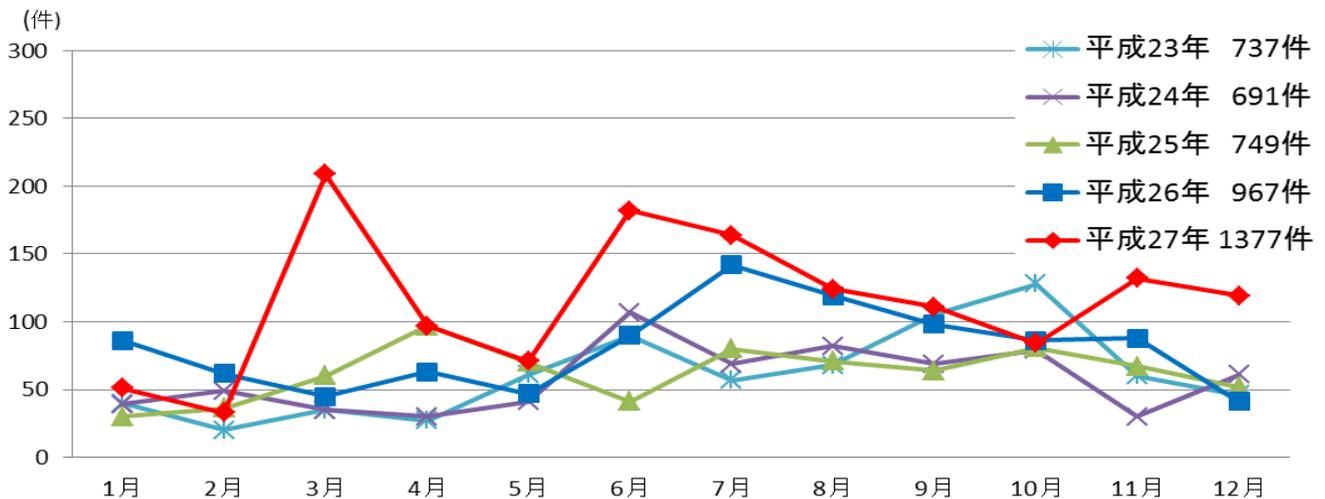


図 1 病原細菌月別検出状況年別比較

平成 27 年に検出された病原細菌のうち、最も多かったのは腸管出血性大腸菌で全体の 15.0%、次いで A 群溶血レンサ球菌 14.5%、結核菌 12.9%、カンピロバクター ジェジュニ 10.0%でこの 4 種で全体検出割合の半数以上を占めた。（図 2）。

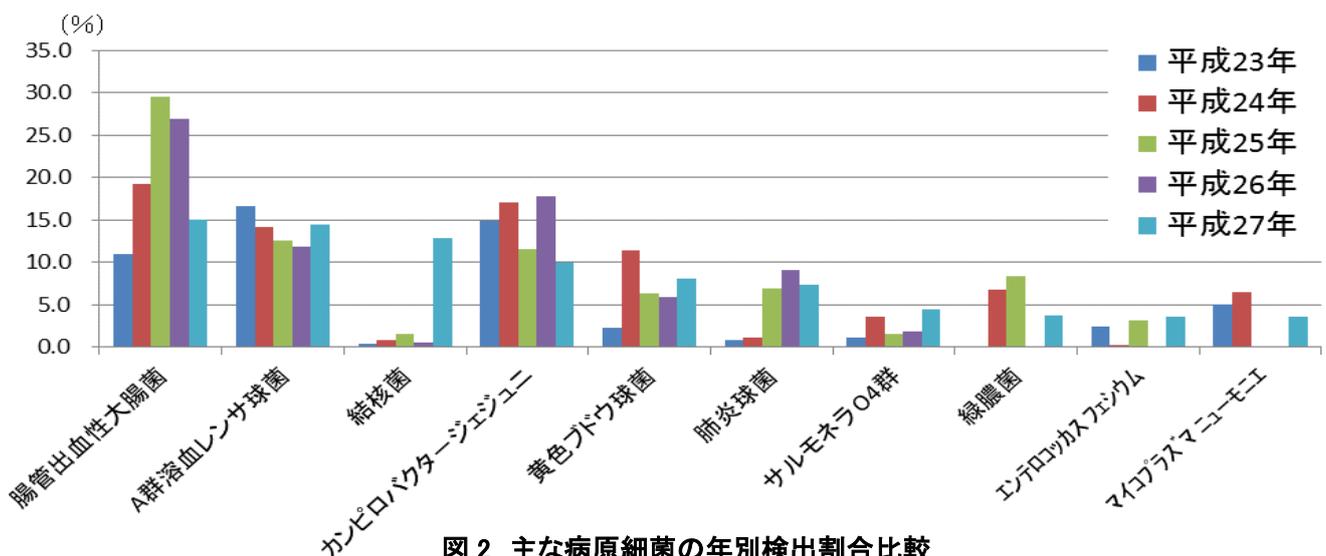


図 2 主な病原細菌の年別検出割合比較

神奈川県、神奈川県衛生研究所、横浜市衛生研究所、川崎市健康安全研究所、相模原市衛生研究所、横須賀市健康安全科学センター及び藤沢市保健所の各病原細菌検出状況は、病原細菌検出状況表（p 34～p 38）に記載する。

（木村睦未）

3 ウイルス等の検出状況表（ヒト由来）

3-1 神奈川県（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	全数把握対象疾患					定点把握対象疾患										合計
	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	麻しん※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	
インフルエンザ AH1pdm09												38				38
インフルエンザ AH3												362				6
インフルエンザ B												111				6
パラインフルエンザ 1						2						2				7
パラインフルエンザ 2												1				7
パラインフルエンザ 3												5				27
パラインフルエンザ 4																4
R S				1		14			2							25
ヒトメタニューモ				1												25
ヒトコロナ OC43																12
ヒトコロナ 229E or NL63						1						1				13
ヒトボカ																9
コクサッキー A2								1	1	2					1	2
コクサッキー A4										1						1
コクサッキー A5									2	3						5
コクサッキー A6				1					88	13						11
コクサッキー A9							1	1	2	2				20		6
コクサッキー A10									7	6						5
コクサッキー A14									2							2
コクサッキー A16							1		85	4					1	91
コクサッキー B3							1								1	2
コクサッキー B4										1						1
コクサッキー B5									1							1
エコー 3																1
エコー 9															1	1
エコー 16															3	1
エコー 18								1							1	1
エコー 30																1
エンテロ D68						1	1		3							3
パレコ 1				1					1						1	1
パレコ 3				2												1
パレコ 6										1						2
ライノ						1			6	1		3			4	43
ムンプス											18				1	19
麻疹					11											11
アデノ 1							5	2								2
アデノ 2				1			16	2	1						1	11
アデノ 3							55			1			3	2	18	79
アデノ 4							5									9
アデノ 5							2						1	2		2
アデノ 6																1
アデノ 8														2		2
アデノ 19														1		1
アデノ 31								1								1
アデノ 37							1							10		11
アデノ 40/41								5								5
アデノ 56													1	2		3
アデノ（型未決定）								1			3			2		6
単純ヘルペス 1							1		2					2		4
水痘・帯状疱疹															1	2
E B					1											2
サイトメガロ				1	1										2	3
ヒトヘルペス 6				1											4	3
ヒトヘルペス 7				6	2										4	2
パルボウイルス B19				1												4
A型肝炎	1															1
ロタ									25							25
ノロ									286						53	339
サポ									16							16
アストロ									5							5
デング				10												10
オリエチア ツツガムシ				2												2
計	1	2	10	16	15	19	90	346	203	32	18	526	2	24	49	337
合計																1690

※麻しんを疑う患者検体からの検出

3-1 神奈川県 (月別)

年・月 検出ウイルス	平成 25年	平成 26年	平成27年												合計	
			1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月		
インフルエンザ AH1pdm09	29	334	1	5	1				2				7	8	14	38
インフルエンザ AH3	630	394	229	84	25	6	2	1	2	1	10		5	3	368	
インフルエンザ B	142	422	17	24	34	25	6	3		3		2	1	2	117	
パラインフルエンザ 1	20	16				1	1	2		2			2	3	11	
パラインフルエンザ 2	8	14	1	1				2	2				1	1	8	
パラインフルエンザ 3	49	29	4		2		1	12	3	1	2		5	2	32	
パラインフルエンザ 4		3	1		1			1	1						4	
R S	65	64	3			1		6	2	4	4	7	5	10	42	
ヒトメタニューモ	35	17	1	5	14	3	3								26	
ヒトコロナ OC43		10	1		2			2					3	4	12	
ヒトコロナ 229E or NL63		10		4	3	5								3	15	
ヒトボカ		8		2	2	2	2			1					9	
コクサッキー A2	13	5							3		2	1	1		7	
コクサッキー A4	1	58					1								1	
コクサッキー A5	3	12						1	2	1		1			5	
コクサッキー A6	135	6						2	31	31	36	8	3	2	113	
コクサッキー A8	2	2														
コクサッキー A9	2	4				2	4	3	12	2	6		1		30	
コクサッキー A10	2	16						2	5	3	5	3			18	
コクサッキー A12	1															
コクサッキー A14								1	1						2	
コクサッキー A16	18	18			1	7	7	19	18	26	9	4			91	
コクサッキー A21		1														
コクサッキー B1	12	2														
コクサッキー B2	2	1														
コクサッキー B3	12								1				1		2	
コクサッキー B4	5	2									1				1	
コクサッキー B5	5	3												1	1	
エコー 3												1			1	
エコー 6	5	2														
エコー 7	5	1														
エコー 9	1									1					1	
エコー 11	2	8														
エコー 16		2				1	1	2							4	
エコー 18	5									1	1			1	3	
エコー 25	6	1														
エコー 30		1											1		1	
エンテロ D68	2										7	1			8	
エンテロ A71	34	5														
パレコ 1	1	8						1		1	2				4	
パレコ 3	1	22								3					3	
パレコ 6												2	1		3	
ライノ	72	53	3	2	8	6	6	5	6	1	3	8	5	5	58	
ムンプス	9	13	1			1	1	5	4	2		3		2	19	
麻疹	13	56		3	3	3		2							11	
風疹	79	3														
アデノ 1	15	17	2	3		1	1	2							9	
アデノ 2	35	23	1	1	3	4	5	3	4	1	1	2	4	3	32	
アデノ 3	19	29		2	2	7	8	12	12	16	4	2	5	9	79	
アデノ 4	25	3			1	1	2	4	2	1		1	3	2	17	
アデノ 5	5	2	1					1			1			1	4	
アデノ 6	1	11						1							1	
アデノ 8												1		1	2	
アデノ 19	1	1							1						1	
アデノ 31	1											1			1	
アデノ 37	1	1				1	3	2			3	1	1		11	
アデノ 40/41	4	4			1	2								2	5	
アデノ 56	3	2					1						2		3	
アデノ (型未決定)	37	31	3		1			3		1		2	1	1	12	
単純ヘルペス 1	5	5		1	1	1		3	1					2	9	
単純ヘルペス 2	1															
水痘・帯状疱疹											1			2	3	
E B		1				1					1	1			3	
サイトメガロ	4	2		1			1		2						4	
ヒトヘルペス 6	4	3				2	1	1	1		2			1	8	
ヒトヘルペス 7	3	2	1					1		1		3	8	1	14	
バルボウイルス B19		9			1	1	1	1	1						5	
A型肝炎		2	1												1	
ロタ	31	11			4	5	12	3						1	25	
ノロ	298	275	84	47	64	27	3	15	1	9	3	18	34	34	339	
サボ	43	17	3	1	2		1	7	1					1	16	
アストロ	2	14		1		2		2							5	
デング	4	6			2	1	2			2	3				10	
オエンチア ツツガムシ	7	2											2		2	
計	1975	2099	358	189	179	126	69	133	118	114	110	85	96	113	1690	

3-2 神奈川県衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	つつが虫病	デング熱	急性脳炎	麻しん※	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09										25				25
インフルエンザ AH3										142				142
インフルエンザ B										43				43
コクサッキー A2							1	2						3
コクサッキー A4								1						1
コクサッキー A5							2							2
コクサッキー A6							59	8						67
コクサッキー A9					1		2					19	3	25
コクサッキー A10							7	3						10
コクサッキー A14							2							2
コクサッキー A16					1		61	4						66
コクサッキー B3					1							1		2
コクサッキー B4								1						1
コクサッキー B5							1							1
エコー 16												2		2
エコー 18					1							1		2
エンテロ D68					1		2							3
パレコ 1												1		1
パレコ 6							1					2		3
ライノ							4	1				4		9
ムンプス									3					3
麻疹				11										11
アデノ 1					5									5
アデノ 2					16		1					1		18
アデノ 3					50							2		52
アデノ 4					4									4
アデノ 5					2									2
アデノ 37					1						1			2
アデノ（型未決定）						1								1
単純ヘルペス 1					1		2							3
水痘・带状疱疹												1	1	2
E B													2	2
サイトメガロ			1									1		2
ヒトヘルペス 6			1									4	2	7
ヒトヘルペス 7			2									4	2	8
パルボウイルス B19													1	1
ノロ						26								26
サポ						2								2
アストロ						5								5
デング		7												7
柯エンチア ツツガムシ	2													2
計	2	7	4	11	84	34	145	20	3	210	1	43	11	575

※麻しんを疑う患者検体からの検出

3-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 25年	平成 26年	平成27年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	11	155	1	4	1								6	3	10	25
インフルエンザ AH3	291	180	99	22	4	2	1	1	2	1	9			1		142
インフルエンザ B	71	181	3	5	8	19	2			3		2			1	43
パラインフルエンザ 3	1															
R S	7	8														
コクサッキー A2	1	1									2	1				3
コクサッキー A4	1	37					1									1
コクサッキー A5	3	3								1			1			2
コクサッキー A6	82	3							2	21	14	22	4	3	1	67
コクサッキー A8		1														
コクサッキー A9	1				2	4	3	12	1	3						25
コクサッキー A10	1	7						1	1	1	4	3				10
コクサッキー A12	1															
コクサッキー A14								1	1							2
コクサッキー A16	16	9			1	5	3	13	12	20	8	4				66
コクサッキー B1	2															
コクサッキー B3	4								1					1		2
コクサッキー B4	4	2										1				1
コクサッキー B5	2														1	1
エコー 7	4															
エコー 16		1						2								2
エコー 18	1									1	1					2
エコー 30		1														
エンテロ D68	1										2	1				3
エンテロ A71	27	1														
パレコ 1		1									1					1
パレコ 3		14														
パレコ 6												2	1			3
ライノ	12	4			1	1	1	1	3			2				9
ムンプス	7	11	1						1	1						3
麻疹	4	40		3	3	3		2								11
風疹	32	1														
アデノ 1	4	12		3					2							5
アデノ 2	13	7		1	3	4	4	1	1	1	1	1			1	18
アデノ 3	8	21		1		4	6	10	10	15	1		2	3		52
アデノ 4	8	2							2	2						4
アデノ 5	4	1										1			1	2
アデノ 6		1														
アデノ 37					1	1										2
アデノ 56	1															
アデノ（型未決定）	2	5			1											1
単純ヘルペス 1	3								2	1						3
単純ヘルペス 2	1															
水痘・帯状疱疹												1			1	2
EB		1				1						1				2
サイトメガロ	1	1					1		1							2
ヒトヘルペス 6						2	1	1	1		2					7
ヒトヘルペス 7									1		3	3	1			8
バルボウイルス B19						1										1
A型肝炎		2														
ロタ	12	2														
ノロ	79	74	14	4	2	1						1		1	3	26
サボ	32	11	1	1												2
アストロ	2	14		1		2			2							5
デング	1	3			2	1					2	2				7
カリエンチア ツツカムシ	7	2													2	2
計	765	820	119	45	26	49	25	46	72	60	66	30	15	22		575

3-3 横浜市衛生研究所 (疾患別)

疾患名 検出ウイルス	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09							6					6
インフルエンザ AH3							88				6	94
インフルエンザ B							21				6	27
パラインフルエンザ 1	2						2				7	11
パラインフルエンザ 2							1				7	8
パラインフルエンザ 3							5				27	32
パラインフルエンザ 4											4	4
R S	14			2							25	41
ヒトメタニューモ											25	25
ヒトコロナ OC43											12	12
ヒトコロナ 229E or NL63	1						1				13	15
ヒトボカ											9	9
コクサッキー A2										1	2	3
コクサッキー A5					1							1
コクサッキー A6				22	5						11	38
コクサッキー A9										1	3	4
コクサッキー A10					2						5	7
コクサッキー A16				16							1	17
エコー 3											1	1
エコー 16											1	1
エコー 18											1	1
エコー 30											1	1
エンテロ D68	1										3	4
パレコ 1			1								1	2
パレコ 3											1	1
ライノ	1			2			3				43	49
ムンプス						13				1		14
アデノ 1											2	2
アデノ 2											11	11
アデノ 3		2			1			1			18	22
アデノ 4		1						1			9	11
アデノ 5											2	2
アデノ 6											1	1
アデノ 8									1			1
アデノ 37									8			8
アデノ 40/41			2									2
アデノ 56								1	1			2
アデノ (型未決定)							3		2		6	11
単純ヘルペス 1									2		4	6
水痘・帯状疱疹											1	1
ヒトヘルペス 6											1	1
パルボウイルス B19											3	3
ロタ			3									3
ノロ			10									10
サポ			2									2
計	19	3	18	42	9	13	130	2	15	3	273	527

3-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成27年														合計
	平成 25年	平成 26年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
インフルエンザ AH1pdm09	5	61										1	5		6
インフルエンザ AH3	115	66	54	28	8	4									94
インフルエンザ B	35	114		6	14	3	2	2							27
パラインフルエンザ 1	20	16				1	1	2			2			2	11
パラインフルエンザ 2	8	14	1	1			2	2					1	1	8
パラインフルエンザ 3	48	29	4		2		1	12	3	1	2		5	2	32
パラインフルエンザ 4		3	1		1			1	1						4
R S	58	56	3			1		6	2	4	4	7	5	9	41
ヒトメタニューモ	35	17	1	5	14	3	2								25
ヒトコロナ OC43		10	1		2			2					3	4	12
ヒトコロナ 229E or NL63		10		4	3	5								3	15
ヒトボカ		8			2	2	2	2		1					9
コクサッキー A2	12	4							2				1		3
コクサッキー A4		15													
コクサッキー A5		8								1					1
コクサッキー A6	44	2							6	17	11	3		1	38
コクサッキー A8	2														
コクサッキー A9		4								1	2		1		4
コクサッキー A10	1	8						1	3	2	1				7
コクサッキー A12															
コクサッキー A14															
コクサッキー A16		8					4	3	4	6					17
コクサッキー A21		1													
コクサッキー B1	9														
コクサッキー B2	2	1													
コクサッキー B3	4														
コクサッキー B5		2													
エコー 3												1			1
エコー 6	4														
エコー 7		1													
エコー 11	2	6													
エコー 16		1					1								1
エコー 18	1													1	1
エコー 25	5	1													
エコー 30													1		1
エンテロ D68											4				4
エンテロ A71	5	1													
パレコ 1	1	7								1	1				2
パレコ 3		8								1					1
ライノ	56	49	3	2	7	5	5	4	3	1	3	6	5	5	49
ムンプス	2	1						1	4	3	1		3		14
アデノ 1	7	5				1	1								2
アデノ 2	18	13	1				1	2	1			1	3	2	11
アデノ 3	9	6		1	2	3	2	2	2		1	2	2	5	22
アデノ 4	15				1	1	2	2				1	2	2	11
アデノ 5	1		1					1							2
アデノ 6	1	1						1							1
アデノ 8													1		1
アデノ 37	1						2	1			3	1	1		8
アデノ 40/41															2
アデノ 56							1						1		2
アデノ（型未決定）	34	24	3					3		1		2	1	1	11
単純ヘルペス 1	2	5		1	1	1		1						2	6
水痘・帯状疱疹														1	1
ヒトヘルペス 6		1												1	1
バルボウイルス B19		9			1		1	1							3
ロタ	6	3		2		1									3
ノロ	8	10	3	2	1							1		3	10
サボ	2	2	1											1	2
計	578	611	77	52	59	31	31	55	30	40	32	30	39	51	527

3-4 川崎市健康安全研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	A型肝炎	デング熱	急性脳炎	麻疹※	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	合計
インフルエンザ AH1pdm09										5			5
インフルエンザ AH3										64			64
インフルエンザ B										22			22
R S			1										1
ヒトメタニューモ			1										1
コクサッキー A5								2					2
コクサッキー A6			1				7						8
コクサッキー A10								1					1
コクサッキー A16							8						8
エコー 9												1	1
エコー 16												1	1
エンテロ D68							1						1
パレコ 1			1										1
パレコ 3			2										2
ムンプス									2				2
アデノ 2			1										1
アデノ 3					3						1		4
アデノ 4											1		1
アデノ 31						1							1
アデノ 37											1		1
E B				1									1
サイトメガロ				1								1	2
ヒトヘルペス 7			4	2									6
パルボウイルス B19			1										1
A型肝炎	1												1
ロタ						22							22
ノロ						44							44
デング		1											1
計	1	1	12	4	3	67	16	3	2	91	3	3	206

※麻疹を疑う患者検体からの検出

3-4 川崎市健康安全研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 25年	平成 26年	平成27年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm09	6	56		1					2					2	5
インフルエンザ AH3	79	91	46	13	1							1		3	64
インフルエンザ B	14	60	7	3	6	2	1	1						1	22
R S														1	1
ヒトメタニューモ								1							1
コクサッキー A4		6													
コクサッキー A5		1							1	1					2
コクサッキー A6	9	1								4		3	1		8
コクサッキー A8		1													
コクサッキー A9	1														
コクサッキー A10											1				1
コクサッキー A16	1	1				2			3	2		1			8
コクサッキー B1		2													
コクサッキー B3	2														
コクサッキー B4	1														
コクサッキー B5	2	1													
エコー 6		2													
エコー 9	1										1				1
エコー 11		2													
エコー 16						1									1
エコー 18	2														
エンテロ D68												1			1
エンテロ A71	1	2													
パレコ 1									1						1
パレコ 3	1										2				2
ライノ	2														
ムンプス		1				1			1						2
麻疹	1	11													
風疹	31	1													
アデノ 2	1													1	1
アデノ 3	1	2										2		1	4
アデノ 4	1	1												1	1
アデノ 31												1			1
アデノ 37									1						1
アデノ 40/41	1	1													
アデノ 56		1													
EB												1			1
サイトメガロ	3	1		1						1					2
ヒトヘルペス 6	2	2													
ヒトヘルペス 7		2	1									5			6
パルボウイルス B19										1					1
A型肝炎			1												1
ロタ				2	5	11		3						1	22
ノロ	52	26	9	6					5			6	16	2	44
デング	3	3										1			1
計	218	278	64	26	12	17	5	15	10	3	9	14	23	8	206

3-5 相模原市衛生研究所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性 胃腸炎	イン フル エン ザ 様	流 行 性 角 結 膜 炎	合計
インフルエンザ AH3		5		5
インフルエンザ B		7		7
コクサッキー A2	1			1
コクサッキー A9	1			1
アデノ 1	2			2
アデノ 2	2			2
アデノ 4			1	1
アデノ 8			1	1
アデノ 40/41	3			3
アデノ 56			1	1
ノロ	130			130
サボ	7			7
計	146	12	3	161

3-5 相模原市衛生研究所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 25年	平成 26年	平成27年												合計
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
インフルエンザ AH1pdm09		11													
インフルエンザ AH3	9	10	1		2		1						1		5
インフルエンザ B	3	7	2	2	1	1	1								7
コクサッキー A2									1						1
コクサッキー A9											1				1
コクサッキー A10		1													
エコー 25	1														
エンテロ D71		1													
麻疹		5													
風疹	6														
アデノ 1	4		2												2
アデノ 2	3	3								2					2
アデノ 3	1														
アデノ 4											1				1
アデノ 5		1													
アデノ 6		9													
アデノ 8														1	1
アデノ 31	1														
アデノ 40/41	3	3			1	2									3
アデノ 56	2	1											1		1
ロタ	13	6													
ノロ	47	54	41	17	17	8	1		1	6	2	8	11	18	130
サボ	9	3			1		1	4	1						7
計	102	115	46	19	22	11	4	4	5	7	3	8	13	19	161

3-6 横須賀市健康安全科学センター（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	デング熱	インフルエンザ様	流行性角結膜炎	その他	合計
インフルエンザ AH1pdm09		2			2
インフルエンザ AH3		63			63
インフルエンザ B		18			18
アデノ 3			1		1
アデノ 19			1		1
ノロ				53	53
デング	2				2
計	2	83	2	53	140

3-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

月 検出ウイルス	平成25年	平成26年	平成27年												合計	
			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
インフルエンザ AH1pdm09	6	51													2	2
インフルエンザ AH3	95	47	29	21	10										3	63
インフルエンザ B	18	60	5	8	5											18
風疹	10	1														
アデノ 3											1					1
アデノ 4	1															
アデノ 19	1	1							1							1
アデノ 37		1														
アデノ（型未決定）	1	2														
ノロ	94	65		11	33	1		1		3				2	2	53
デング							2									2
計	226	228	34	40	48	1	2	1	1	4				2	7	140

3-7 藤沢市保健所（疾患別）

疾患名 検出ウイルス	感染性 胃腸炎	合計
ノロ	76	76
サポ	5	5
計	81	81

3-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 検出ウイルス	平成 25年	平成 26年	平成27年												合計
			1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
インフルエンザ AH1pdm09	1														
インフルエンザ AH3	41														
インフルエンザ B	1														
コクサッキー A16	1														
コクサッキー B1	1														
コクサッキー B3	2														
コクサッキー B5	1														
エコー 6	1														
エコー 7	1														
エコー 18	1														
エンテロ D68	1														
エンテロ A71	1														
ライノ	2														
麻疹	8														
ヒトヘルペス 6	2														
ヒトヘルペス 7	3														
ノロ	18	46	17	7	11	17	2	9				3	4	6	76
サポ		1	1		1			3							5
計	86	47	18	7	12	17	2	12				3	4	6	81

4 病原細菌検出状況表（ヒト由来）

4-1 神奈川県（月別）

年・月 菌種・菌型	平成25年		平成26年		平成27年												合計											
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者										
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者						
腸管出血性大腸菌(EHEC)	221	261	2	3	2		3	10	3	28	44	23	60	3	9	17	2	5	207	5								
毒素原性大腸菌(ETEC)	9	4	27	2					1		17							3	3	21	3							
病原血清型大腸菌(EPEC)	8		7				1			1						2			4									
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)	1		7	2					1	1								1		3								
他の下痢原性 E.coli			29		3	1		2		4	2	1	2			2	9			26								
エシェリヒア アルバーチー			2																									
チフス菌	8	5	2	2		1	1													1	1							
パラチフス A菌	4	4				3	3	1	1			7	7					1	1	12	12							
サルモネラ 04群	12	1	17	4			9	1	1	2	13	23	10	1	1	1	1			60	3							
サルモネラ 07群	12	2	6				12	2	1	4	3	1	1	1	1	1		1	1	24	5							
サルモネラ 08群	5		12	2			2	1			3	1	1	1	1	1				8	2							
サルモネラ 09群	6	1	20	2			10	2	1		2	1	3	1	3	1		1		20	5							
サルモネラ 03,10群							1													1								
サルモネラ 01,3,19群													1	1						1	1							
サルモネラ 030群	1																											
サルモネラ 048群			1																									
サルモネラ 群不明	1																											
リステリア モノサイトゲネス	1																											
コレラ菌 01							1	1												1	1							
コレラ菌 non-01 & 0139			2																									
腸炎ビブリオ	1		1										1							1								
ビブリオ フルビアリス	1																											
エロモナス ハイドロフィラ	2									1										1								
エロモナス キャビエ			1																									
カンピロバクター ジェジュニ	87		172		1		3	2	15	12	26	17	30	13	9	2	8			138								
カンピロバクター コリ	2		8				1	1		1				2						5								
カンピロバクター ジェジュニ/コリ			1																									
黄色ブドウ球菌	48		57		4	1	18	13	2	31	17	12	4	3	3	3	3			111								
A型ウエルシュ菌	26		39		1		1			10		10								22								
破傷風菌					1															1								
炭疽菌													1							1								
セレウス菌	1		5							1	1									2								
赤痢菌フレキシネル	4	3	1																									
赤痢菌ゾンネ	5	3	3	3			1	1	1			1	1	3	1	3	1	1		10	4							
レンサ球菌A群	94		114		15	15	19	20	30	26	15	1	8	3	7	15	27			200	1							
レンサ球菌B群	3		23											2		1				3								
レンサ球菌C群																				1								
レンサ球菌G群	7		5		2	1	1	1					1						1	7								
レンサ球菌 上記以外の群	1		3																									
肺炎球菌	52		88		17	4	6	13	15	8	6	4	2	6	7	14				102								
エンテロコッカス フェーカリス					1									1						2								
エンテロコッカス フェシウム	24					1				2	3			1	12	30				49								
百日咳菌	4		1					1			1				2					4								
レジオネラ ニューモフィラ	5		18		2	1		1		6	1	2	5	2		3	3			26								
緑膿菌	63															53				53								
結核菌	11		5				117	15			9	12		20	2	2	2			177								
インフルエンザ菌	7		14				1	1		6	1	2	3	1	1	1				17								
髄膜炎菌	2		2		1		1													2								
マイコプラズマ ニューモニエ	10		11				2			3	4	3	4	17	9	7				49								
クリプトコッカス			2																1	1								
エンテロバクター アエロゲネス										2										2								
その他の原虫・寄生虫																			1	1								
計	749	23	967	19	51	33	4	209	8	97	1	71	182	9	164	1	124	4	111	7	84	1	132	3	119	5	1377	43

4-2 神奈川県衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成25年		平成26年		平成27年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					うち海外渡航者													
腸管出血性大腸菌(EHEC)	11		54		1					7	5							15
毒素原性大腸菌(ETEC)	1		5															
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)									1	1								2
他の下痢原性 E.coli			19		2	1		2		3	2	1	2			2	7	22
サルモネラ 04群	3		1							3	3							6
サルモネラ 07群								4	1									5
サルモネラ 08群													1					1
サルモネラ 09群	1		2															
サルモネラ 群不明	1																	
ビブリオ フルビアリス	1																	
エロモナス ハイドロフィラ	1								1									1
カンピロバクター ジェジュニ	28		39		1	2			1	7	1	6	2			1		21
カンピロバクター コリ	2		2				1											1
黄色ブドウ球菌	1								6	1								7
A型ウェルシュ菌	14		13						10									10
炭疽菌												1						1
セレウス菌	1																	
赤痢菌ソンネ	1		1	1														
レンサ球菌A群	39		59		3	13	12	16	20	15	11	5		4	8	18		125
レンサ球菌 上記以外の群	1		1															
肺炎球菌	3		2															
レジオネラ ニューモフィラ			7		1	1				5		2	2	1	2	2		16
マイコプラズマ ニューモニエ	10		11				2			3	4	3	4	17	9	7		49
計	119		216	1	8	17	14	19	26	62	27	18	13	22	21	35		282

4-3 横浜市衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成25年		平成26年		平成27年												合計											
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者										
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者			総数	うち海外渡航者								
腸管出血性大腸菌(EHEC)	81		135	2	1	1	1	9	2	13	23	18	50	3	5	13	2	1	137	5								
毒素原性大腸菌(ETEC)	5	2	8	2					1							3	3	4	3									
病原血清型大腸菌(EPEC)	2		1																									
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)			3	1												1		1										
チフス菌	7	5	1	1		1	1											1	1									
パラチフス A菌	2	2				3	3	1	1									1	1	12	12							
サルモネラ 04群	8	1	16	4				9	1	1	1	1	1	1				1	1	12	12							
サルモネラ 07群	8	2	2					11	2	1			1	1		1	1	1	17	5								
サルモネラ 08群	4		8	2				2	1			2	1	1		1	1	6	2									
サルモネラ 09群	5	1	18	2				10	2		2	1	3	1	3	1	1	19	5									
サルモネラ 03,10群								1										1										
サルモネラ 01,3,19群													1	1					1	1								
サルモネラ 030群	1																											
サルモネラ 048群			1																									
リステリア モノサイトゲネス	1																											
コレラ菌 01								1	1											1	1							
コレラ菌_non-01 & 0139			2																									
エロモナス ハイドロフィラ	1																											
カンピロバクター ジェジュニ	34		65			1	1	6	11	10	13	19			3	1	7			72								
カンピロバクター コリ			2																									
黄色ブドウ球菌	33		40	4		1	17	8	2	15	14	9	3	3	3	2				81								
A型ウエルシュ菌	9		24									10									10							
セレウス菌			4								1										1							
赤痢菌フレキシネル	4	3	1																									
赤痢菌ソネ	4	3	2	2				1	1			1	1	1	2	1	1			6	4							
レンサ球菌A群	43		46	12		2	6	2	8	5	3	1	3	3	2	5	4			55	1							
レンサ球菌B群	3		23										2			1				3								
レンサ球菌G群	4		4	2			1	1					1							5								
レンサ球菌 上記以外の群			2																									
肺炎球菌	48		86	17		4	6	13	15	8	6	4	2	6	7	14				102								
エンテロコッカス フェーカリス					1															1								
エンテロコッカス フェンウム	24					1														2								
百日咳菌	4		1					1				1			2					4								
レジオネラ ニューモフィラ	3		9	1				1		1	1		2	1	1	1				9								
緑膿菌	63															53				53								
結核菌	11		4				117	15			9	12		20	2	2				177								
インフルエンザ菌	7		9					1		6		2	2	1		1				13								
髄膜炎菌	2		1	1			1													2								
クリプトコッカス																				1								
計	421	19	518	16	39	14	4	185	8	60	1	40	79	9	94	1	85	4	71	7	47	1	89	3	39	5	842	43

4-4 川崎市健康安全研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成25年		平成26年		平成27年												合計
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	
腸管出血性大腸菌(EHEC)	118	63	1	1	2	1	1	6	8	5	7	4	4	4		44	
毒素原性大腸菌(ETEC)	1	1															
チフス菌	1	1	1														
パラチフス A菌	2	2															
サルモネラ 07群	1	1															
サルモネラ 08群									1							1	
サルモネラ 09群						1										1	
カンピロバクター ジェジュニ	17	34			1	6		7	3	3	10	4	1		35		
カンピロバクター コリ			3					1			2					3	
黄色ブドウ球菌	6	9			1	3		6	1							11	
A型ウエルシュ菌					1											1	
破傷風菌			1													1	
セレウス菌		1															
赤痢菌ソクネ					1						2	1				4	
レンサ球菌A群	11	5						2	6			1	2	4		15	
レンサ球菌C群														1		1	
レンサ球菌G群	3	1		1											1	2	
レジオネラ ニューモフィラ		2									1					1	
結核菌		1															
インフルエンザ菌		5						1		1				1		4	
クリプトコッカス		2															
計	160	212	12	2	6	11	4	26	14	8	23	10	8	10		124	

4-5 相模原市衛生研究所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成25年		平成26年		平成27年												合計
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	
腸管出血性大腸菌(EHEC)	2	2								2	4					6	
毒素原性大腸菌(ETEC)											17					17	
他の下痢原性 E.coli									1						2	3	
サルモネラ 04群											8					8	
サルモネラ 08群		2															
腸炎ビブリオ		1										1				1	
カンピロバクター ジェジュニ	4	8				3		1			1	1				6	
黄色ブドウ球菌	1	7				1		1							1	3	
A型ウエルシュ菌	1																
レンサ球菌A群	1	4			1	2				1					1	5	
レジオネラ ニューモフィラ	2																
その他の原虫・寄生虫															1	1	
計	11	24			1	6		5	22	8	2	1		5		50	

4-6 横須賀市健康安全科学センター（月別）

年・月 菌種・菌型	平成25年		平成26年		平成27年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	8		1															1
毒素原性大腸菌(ETEC)	2	2																
病原血清型大腸菌(EPEC)	6					1				1					2			4
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)	1		2	1														
サルモネラ 04群	1									1								1
サルモネラ 07群	3		2											1				1
腸炎ビブリオ	1																	
エロモナス キャピエ	2		1															
カンピロバクター ジェジュニ	2																	
カンピロバクター ジェジュニ/コリ	2		1															
黄色ブドウ球菌	7		1							3	1	1	1					6
A型ウエルシュ菌	2		1															
セレウス菌										1								1
エンテロコッカス フェーカリス														1				1
エンテロコッカス フェシウム										2	2			1	12	30		47
髄膜炎菌			1															
エンテロバクター アエロゲネス										2								2
計	33	2	10	1			1		1	9	4	1	1	3	14	30		64

4-7 藤沢市保健所（月別）

年・月 菌種・菌型	平成25年		平成26年		平成27年												合計	
	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	総数	うち海外渡航者
					総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者	総数	うち海外渡航者		
腸管出血性大腸菌(EHEC)	1		6										1					4
毒素原性大腸菌(ETEC)																		
病原血清型大腸菌(EPEC)			6															
腸管凝集性大腸菌(EAggEC)			2															
他の下痢原性 E.coli			10	1														1
エシェリヒア アルバーティー			2															
サルモネラ 07群			1			1												1
サルモネラ 08群	1		2															
カンピロバクター ジェジュニ	2		26							1		2		1				4
カンピロバクター コリ			1			1												1
カンピロバクター ジェジュニ/コリ																		
黄色ブドウ球菌								1				2						3
A型ウエルシュ菌			1		1													1
肺炎球菌	1																	
計	5		70		2		2	1		1	3	4	1	1				15

II 地域における感染症発生状況の分析

1 ウイルス性感染症

(1) インフルエンザ

神奈川県全体のインフルエンザの報告数について、平成 27 年は第 53 週まで流行開始の目安となる定点あたり 1 を超えなかった。年齢別では 5 歳から 7 歳に報告が多かった。

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）のインフルエンザの動向

神奈川県衛生研究所

前シーズン（2014/2015 シーズン、2014 年 36 週～2015 年 35 週）の横浜市・川崎市及び相模原市を除く神奈川県域（以下、県域）におけるインフルエンザ患者報告数は、2015 年 4 月以降も少ないながら報告が続いていたが、17 週（4/20～26）に定点あたりの報告数が 1.0 人を下回った後は再び 1.0 人を超えることなく、本シーズン（2015/2016 シーズン、2015 年 36 週～2016 年 35 週）をむかえた。本シーズンの県域におけるインフルエンザ患者報告数は、2016 年 1 週（1/4～10）に流行開始の目安となる定点あたり報告数が 1.0 人を超えて流行期に入った。定点あたり報告数のピークは 5 週（2/1～7）の 46.71 人であった。その後は減少傾向となり、12 週（3/21～27）に注意報レベルの 10.0 人を下回り、17 週（4/25～5/1）には 1.0 人となってほぼ終息した。

感染症発生動向調査病原体定点（藤沢市からの一般依頼を含む）からの依頼検体 423 例についてウイルス分離または遺伝子検査を実施した。2015 年 4 月～8 月には 33 例の検査を行い、5 例から A 香港(H3)型が、24 例から B 型が検出された。9 月～12 月には 29 例の検査を行い、15 例から AH1pdm09 が、4 例から A 香港(H3)型が、3 例から B 型が検出された。2016 年 1 月～3 月には 361 例の検査を行い、181 例から AH1pdm09 が、39 例から A 香港(H3)型が、107 例から B 型が検出された。

基幹定点医療機関等にインフルエンザで入院した患者（入院サーベイランス）検体 16 例について、インフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。16 例中 13 例からインフルエンザウイルスが検出され、その内訳は、AH1pdm09 が 9 例（2016 年 1 月 3 例、2 月 6 例）、A 香港(H3)型が 2 例（2015 年 7 月）、B 型が 3 例（2016 年 1 月 1 例、2 月 2 例）であった。

集団かぜ調査は、県域各保健所と藤沢市保健所管内の学校等のシーズン初発事例 1 集団ずつを対象としており、本シーズンは 10 集団についてインフルエンザウイルス遺伝子検出とウイルス分離を実施した。県域初発の集団かぜは 2015 年 9 月に発生し、A 香港(H3)型が検出された。10 月に発生した集団からは、AH1pdm09 が検出された。2016 年 1 月には 8 集団の検査を行い、5 集団から AH1pdm09 が、3 集団から B 型が検出された。

2013 年 3 月に中国において鳥インフルエンザ A(H7N9)に対するヒトでの発症、流行事例が報告されたことに伴い、A(H7N9)疑い症例について通年で検査対応を行っている。本シーズンは、2015 年 9 月に 1 例の検査を行い、A 香港(H3)型が検出された。（図 1）

2015 年 9 月から 2016 年 3 月までに検出されたウイルスの内訳をみると、AH1pdm09 が 223 例（56.3%）で最も多く、次いで B 型が 124 例（31.3%）、A 香港(H3)型が 49 例（12.4%）であった。本シーズンは AH1pdm09 が主流株となり、A 香港(H3)型や B 型も交えた混合流行となった。B 型は、69 例がビクトリア系統、55 例が山形系統であった。また、AH1pdm09 分離株についてオセルタミビル耐性変異株のスクリーニング検査を行ったところ、190 株中 1 株が陽性であった。

インフルエンザは、日本においては非流行期であっても海外では流行している場合も多く、通年での

監視が必要な疾患の一つである。また、鳥インフルエンザについては、A(H7N9)のほかにもA(H5)やA(H9)等による鳥類での流行が報告されている地域では、ヒトでの感染事例が現在も断続的に報告されており、季節性インフルエンザとともに鳥インフルエンザについても動向を監視していく必要がある。

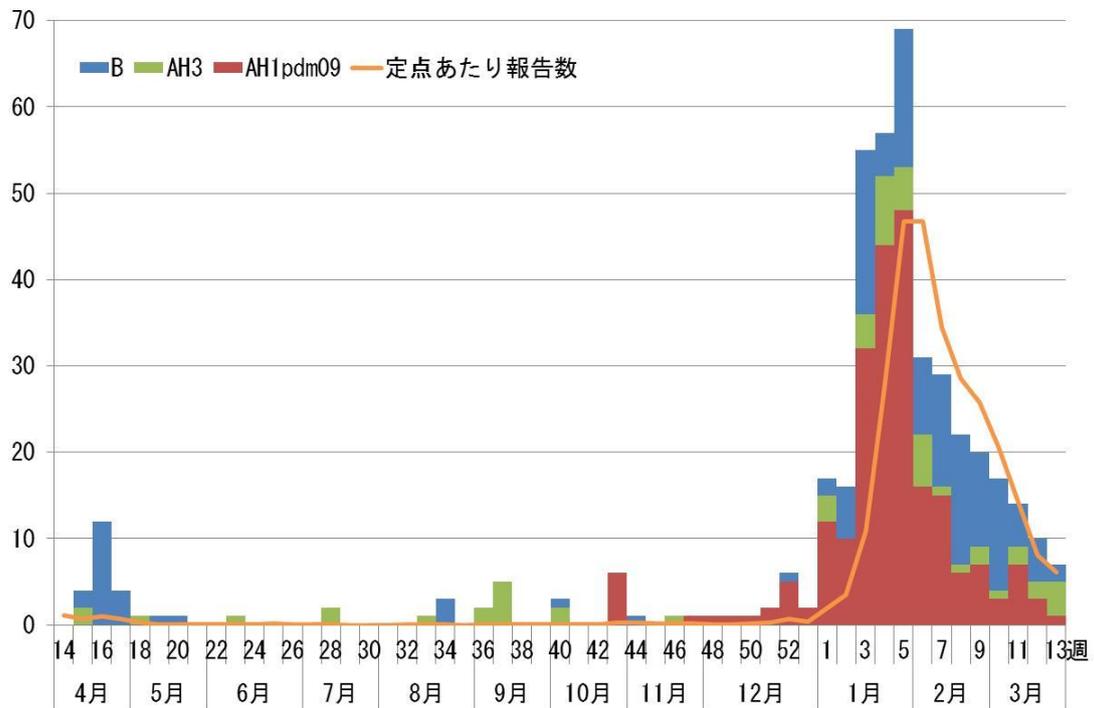


図1 インフルエンザ患者報告数とウイルス検出数の推移

(渡邊寿美、嘉手苺将、佐野貴子、近藤真規子、黒木俊郎)

② 横浜市のインフルエンザの動向

横浜市衛生研究所

横浜市感染症発生動向調査による平成27年6月から平成28年5月までのインフルエンザ様疾患患者数は44,689人と昨シーズン同期間における35,282人を上回り、過去10年では4番目の規模の流行であった。定点あたり患者数は1月第1週に流行の目安となる1.0人を超え、2月第5週に48.93人と最大の報告数となった。その後徐々に減少し5月第18週に定点あたり1.0人を下回った(図1)。

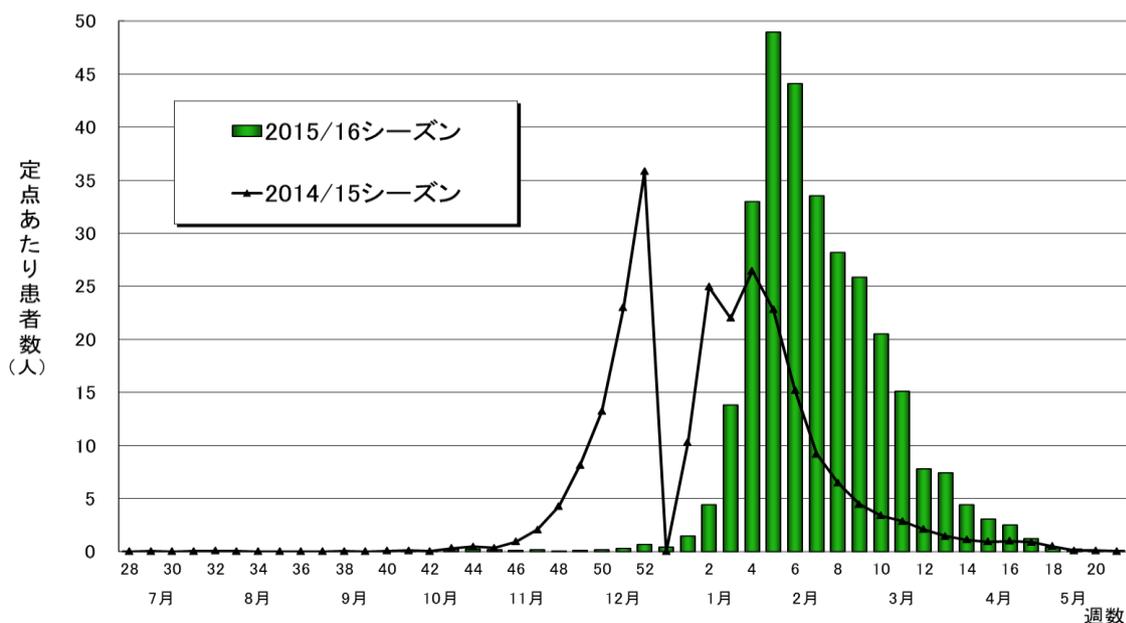


図1 横浜市におけるインフルエンザ定点あたり患者数

表1 インフルエンザのウイルス分離および遺伝子検査結果

	検体数	インフルエンザ陽性数	AH1pdm09	AH3型	B型(山形)	B型(ビクトリア)
集団かぜ調査	73	63	37	4	1	21
入院・重症サーベイランス	91	11	8	1	2	0
病原体定点調査	564	178	83	8	39*	48*
その他の依頼	29	3	3	0	0	0
合計	757	255	131	13	42	69

*2014/2015シーズン6月に分離した山形系統およびビクトリア系統のB型ウイルス2件を含む

平成 27 年 6 月から平成 28 年 5 月までの検査数と分離・検出数を表 1 に示す。全調査の合計は 757 件で、AH1pdm09 ウイルス 131 件、ビクトリア系統の B 型ウイルス 69 件、山形系統の B 型ウイルス 42 件、A 香港 (H3) 型ウイルス 13 件が分離・検出された。このうち、AH1pdm09 ウイルスが分離され、ヒューマンコロナウイルスの遺伝子が検出された事例が 2 件、パラインフルエンザウイルス 1 型、2 型、3 型の遺伝子が検出された事例がそれぞれ 1 件、ビクトリア系統の B 型ウイルスが分離され、パラインフルエンザウイルス 3 型の遺伝子が検出された事例が 2 件、山形系統の B 型ウイルス、RS ウイルス、ヒューマンコロナウイルスの遺伝子が検出された事例がそれぞれ 1 件であった。

集団発生を監視する集団かぜ調査においては、平成 27 年 10 月 21 日 (第 43 週) に南区の小学校から報告があり、AH1pdm09 ウイルスが分離された。11 月 19 日 (第 47 週) には中区の中学校から報告があり、A 香港 (H3) 型ウイルスが分離されたが、12 月 9 日 (第 50 週) の西区の小学校の検体からは N2 遺伝子のみの検出であった。その後、流行期に入った平成 28 年 1 月第 3 週には 12 区で発生がみられ、ピークを示した。終息までの発生数は 18 区で 669 施設 567 学級であった。検査依頼のあった 18 集団 73 人についてウイルス学的調査を実施し、AH1pdm09 ウイルス 37 件、ビクトリア系統の B 型ウイルス 21 件、A 香港 (H3) 型ウイルス 4 件、山形系統の B 型ウイルス 1 件を分離・検出した (表 2)。

表 2 集団かぜ調査の検査

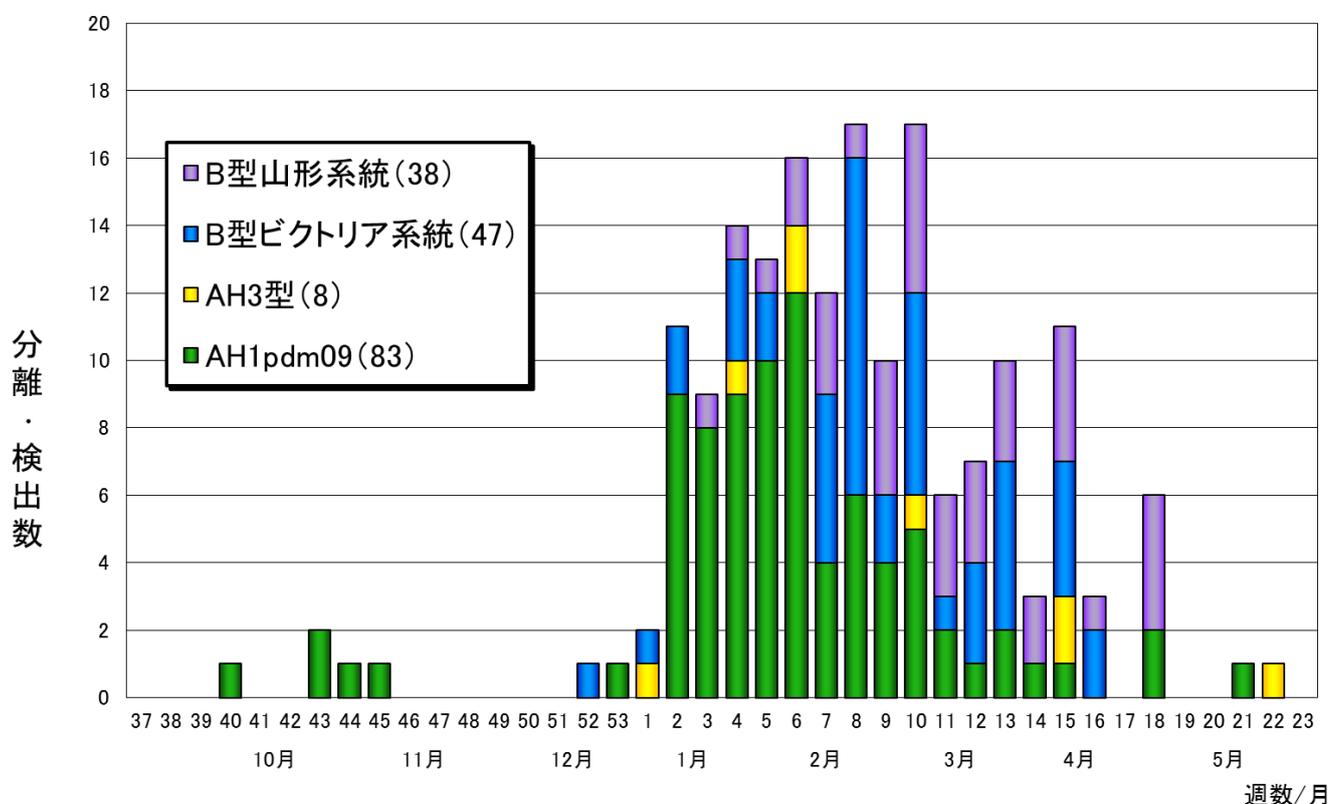
発生年月日	週	区	施設	〈ウイルス分離〉			〈遺伝子検索〉				総合判定		
				検体数	分離株数	ウイルス型	分離陰性 検体数	HA遺伝子 件数	NA遺伝子 件数	NA遺伝子 件数			
平成27年	10.21	第43週	南区	小学校	5	5	AH1pdm	0	陰性	0	陰性	0	AH1pdm
	11.19	第47週	中区	中学校	5	3	A香港(H3)型	2	AH3	1	N2	1	A香港(H3)型
	12.09	第50週	西区	小学校	5	0	陰性	5	陰性	0	N2	2	陰性
平成28年	1.18	第3週	神奈川区	小学校	5	4	AH1pdm	1	陰性	0	N1	1	AH1pdm
	1.19	第3週	栄区	小学校	3	2	AH1pdm	1	陰性	0	N1	1	AH1pdm
	1.19	第3週	緑区	小学校	5	5	AH1pdm	0	—	—	—	—	AH1pdm
	1.19	第3週	港北区	小学校	5	4	AH1pdm	1	陰性	0	N1	1	AH1pdm
	1.20	第3週	旭区	小学校	5	5	B(ビクトリア/山形)	0	—	—	—	—	B(ビクトリア/山形)
	1.20	第3週	港南区	小学校	5	5	B(ビクトリア)	0	—	—	—	—	B(ビクトリア)
	1.20	第3週	戸塚区	小学校	5	5	B(ビクトリア)	0	—	—	—	—	B(ビクトリア)
	1.20	第3週	青葉区	小学校	3	3	B(ビクトリア)	0	—	—	—	—	B(ビクトリア)
	1.20	第3週	金沢区	小学校	3	2	B(ビクトリア)	1	陰性	0	N1	1	B(ビクトリア)
	1.21	第3週	鶴見区	小学校	3	2	B(ビクトリア)	1	AH1pdm	1	N1	1	B(ビクトリア)/AH1pdm
	1.22	第3週	保土ヶ谷区	小学校	4	4	AH1pdm	0	—	—	—	—	AH1pdm
	1.22	第3週	都筑区	小学校	3	3	AH1pdm	0	—	—	—	—	AH1pdm
	1.25	第4週	磯子区	小学校	4	4	AH1pdm	0	—	—	—	—	AH1pdm
	1.29	第4週	泉区	小学校	3	3	AH1pdm	0	—	—	—	—	AH1pdm
	2.16	第6週	瀬谷区	小学校	2	1	AH1pdm	1	AH1pdm	1	N1	1	AH1pdm
合計			18区	18施設	73件	60株	AH1pdm:35件 B(ビクトリア)21件 AH3:3件 B(山形)1件	13件	AH1pdm:2件 AH3:1件	3件	N1:6 N2:3	9件	AH1pdm:37件 B(ビクトリア)21件 AH3:4件 B(山形)1件

*遺伝子検査のうち—は未実施

**N遺伝子のみ検出は参考値

入院・重症サーベイランスにおいては、平成 27 年 6 月から平成 28 年 5 月までにインフルエンザを疑う 91 件を検査し、AH1pdm09 ウイルス 11 件、山形系統の B 型ウイルス 2 件、A 香港 (H3) 型ウイルス 1 件を分離・検出した。発病時期は 11 月 1 件、1 月 5 件、2 月 5 件、3 月 1 件、4 月 2 件で、3 月までは AH1pdm09 ウイルスによる症例が多数を占め、B 型ウイルスによる症例は 4 月のみであった。このうち、重症例は肺炎 5 件 (AH1pdm09 ウイルス)、脳症例 2 件 (AH1pdm09 ウイルスと山形系統の B 型ウイルス)、心筋炎 1 件 (AH1pdm09 ウイルス) であった。インフルエンザ以外のウイルスではライノウイルス 8 件 (ヘルペスウイルスとの重複 1 件含む)、コクサッキーウイルス A 型 4 件、パレコウイルス 3 件、パラインフルエンザウイルス 3 件、ヘルペスウイルス 2 件、エコーウイルス 1 件、ヒトコロナウイルス 1 件、ムンプスウイルス 1 件、ルベラウイルス 1 件が分離・検出された。

図 2 病原体定点等分離・検出状況



病原体定点ウイルス調査においては 563 件 (鼻咽頭検体 516 件、便由来検体 21 件、うがい液検体 7 件、嘔吐物検体 1 件、唾液検体 1 件、不明 17 件) を検査し、AH1pdm09 ウイルス 83 件、B 型ウイルス (ビクトリア系統) 47 件、B 型ウイルス (山形系統) 38 件、A 香港 (H3) 型ウイルス 8 件が分離・検出された。今シーズンは 10 月第 40 週に瀬谷区の小児科定点から AH1pdm09 ウイルスがはじめて検出され、年明け後は急速に増加し、2 月第 6 週をピークに 5 月第 21 週まで分離・検出が続いた。一方、A 香港 (H3) 型ウイルスは 1 月第 1 週に港北区の小児科定点から分離されたが、その後は散發で分離されたのみであった。他方、B 型ウイルスは 12 月第 52 週に港北区の内科定点からビクトリア系統のウイルスが、1 月第 3 週には磯子区の小児科定点から山形系統のウイルスがはじめて分離・検出された。その後、2 月第 8 週と 3 月第 10 週にピークがみられ、5 月第 18 週まで両系統が混在して分離・検出された。今シーズン (2015 年 6 月分離株を除く) のビクトリア系統と山形系統のウイルスの比率は 55.3%対 44.7%でビクトリア系統のウイルスがやや優勢であった (図 2)。

ワクチン株の抗血清がこれまでのフェレット感染血清からウサギ免疫血清に変更になったため、ワクチン株と分離株の HI 価の差で類似性を正確に比較することができなくなった。さらに、A 香港 (H3) 型ウイルス株はノイラミニダーゼ (NA) の変異により、NA 蛋白による血球凝集活性が認められるようになった。このため、HI 反応への立体障害が起こり、正確な HI 試験ができないことから、国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センターで実施した中和 (NT) 試験結果を示す。AH1pdm09 ウイルスと B 型ウイルスは従来の HI 試験結果をまとめたが、いずれも参考値である。

分離したウイルスの抗原性状については、AH1pdm09 ウイルスはワクチン株である A/カリフォルニア/07/2009 と同等～4 倍差であり、抗原性状が類似していた。A 香港 (H3) 型ウイルスはワクチン株である A/スイス/9715293/2013 と中和試験で 8 株中 7 株に 8 倍以上の反応性低下がみられた。B 型ウイルスのうち、ビクトリア系統のウイルスはワクチン株である B/テキサス/2/2013 と、山形系統のウイルスはワクチン株である B/プーケット/3073/2013 と HI 試験で 2 倍以内の反応性を示すものが多く、大きな変異はみられなかった (図 3)。

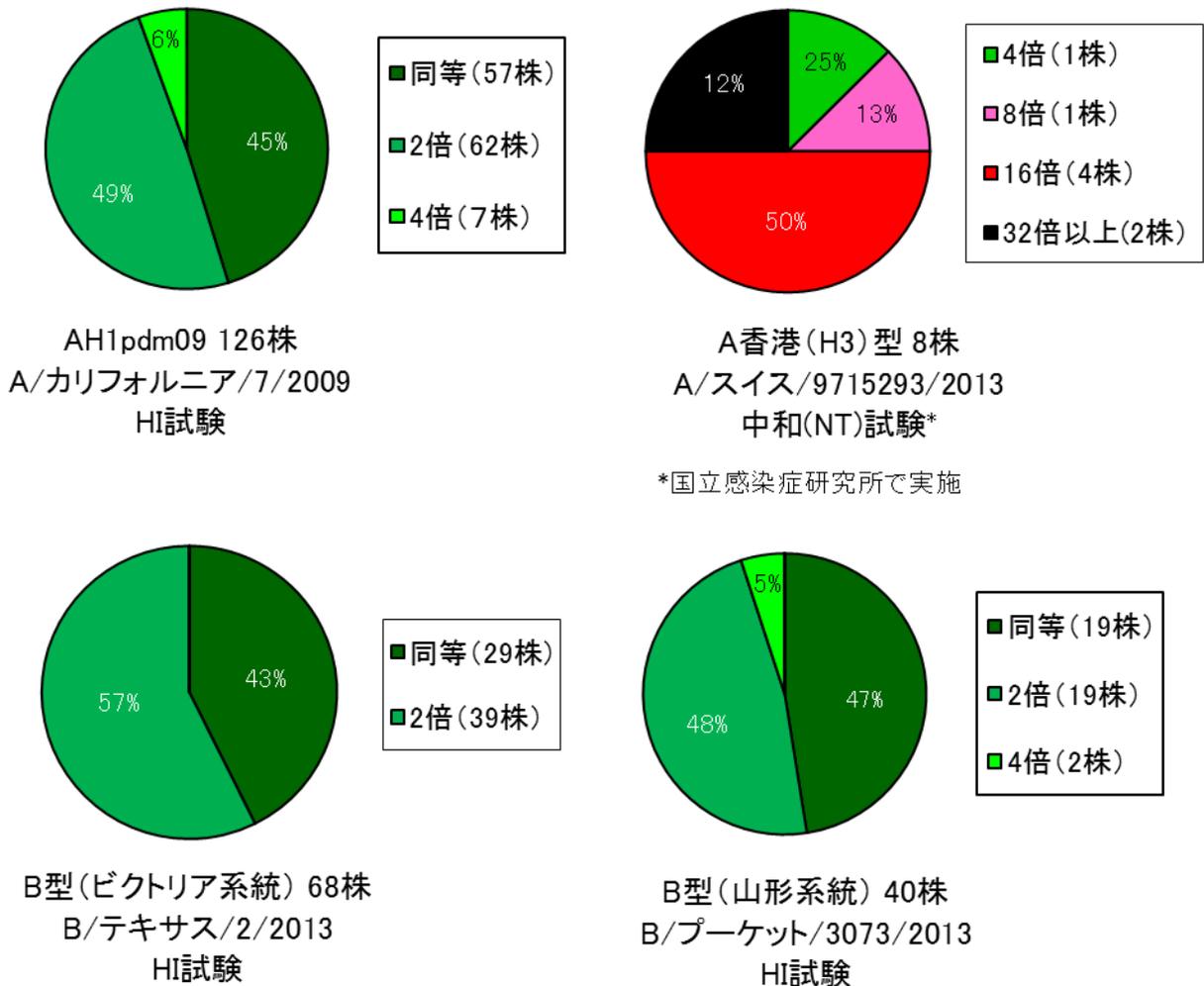


図 3 2015/2016 シーズン分離株の抗原性状

AH1pdm09 HA遺伝子 NJ系統樹

- 赤枠内: 2015/2016ワクチン株
2015/2016シーズン
- 橙色: 10月分離株
 - 深緑色: 11月分離株
 - 桃色: 12月分離株
 - 赤色: 1月分離株
 - 青色: 2月分離株
 - 紫色: 3月分離株
 - 緑色: 4月分離株
 - 水色: 5月分離株
- ★: 定点
 - ▲: 集団
 - : 入院例
 - ※: 耐性株(H275Y)

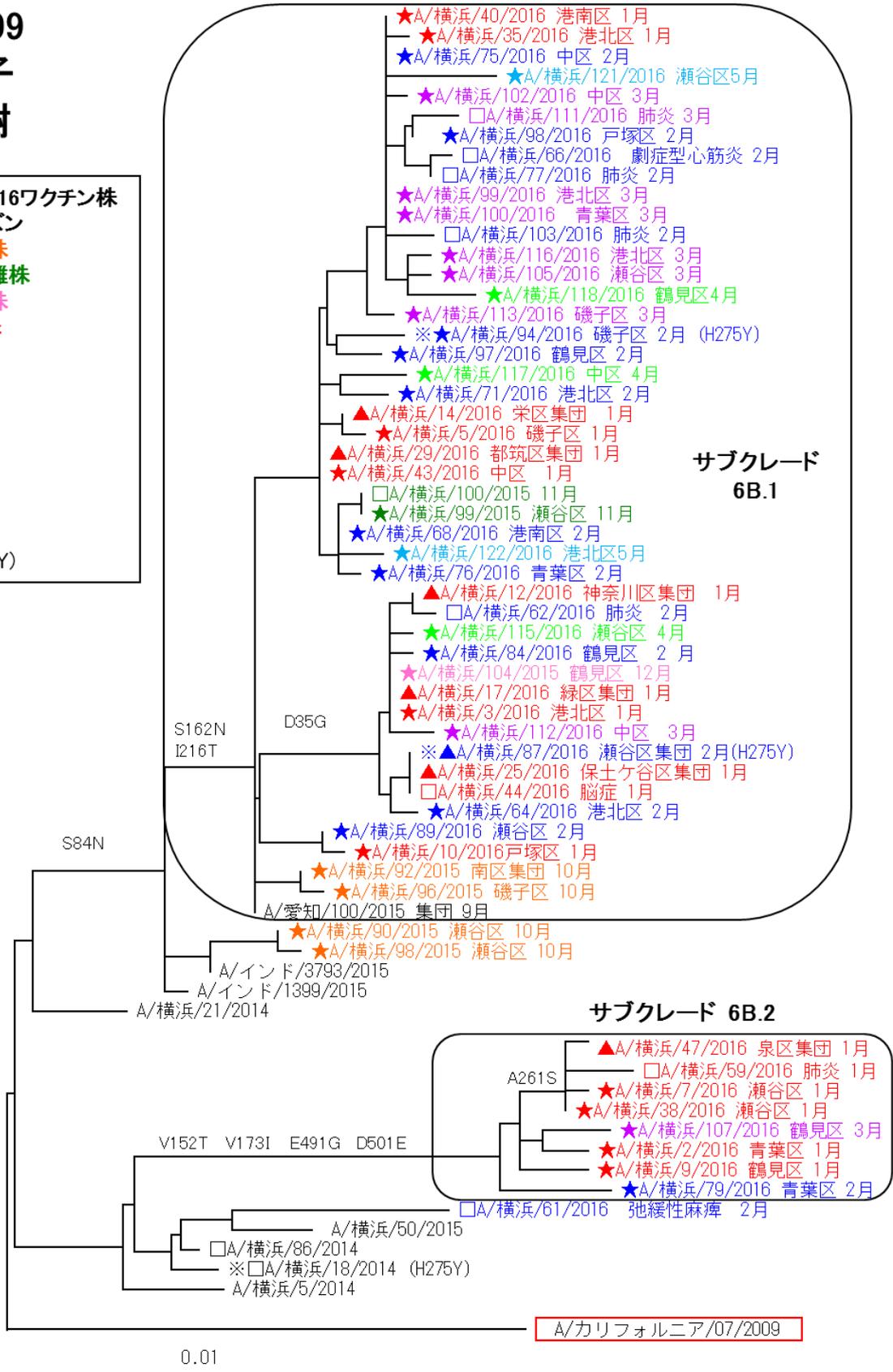


図4 AH1pdm09 ウイルスのHA遺伝子NJ系統樹

AH3型 HA遺伝子 NJ系統樹

赤枠内: 2015/2016ワクチン株
2015/2016シーズン
 橙色: 11月分離株
 赤色: 1月分離株
 緑色: 2月分離株
 紫色: 3月分離株
 黄緑色: 4月分離株
 水色: 5月分離株
 ★: 定点
 ▲: 集団
 □: 入院例

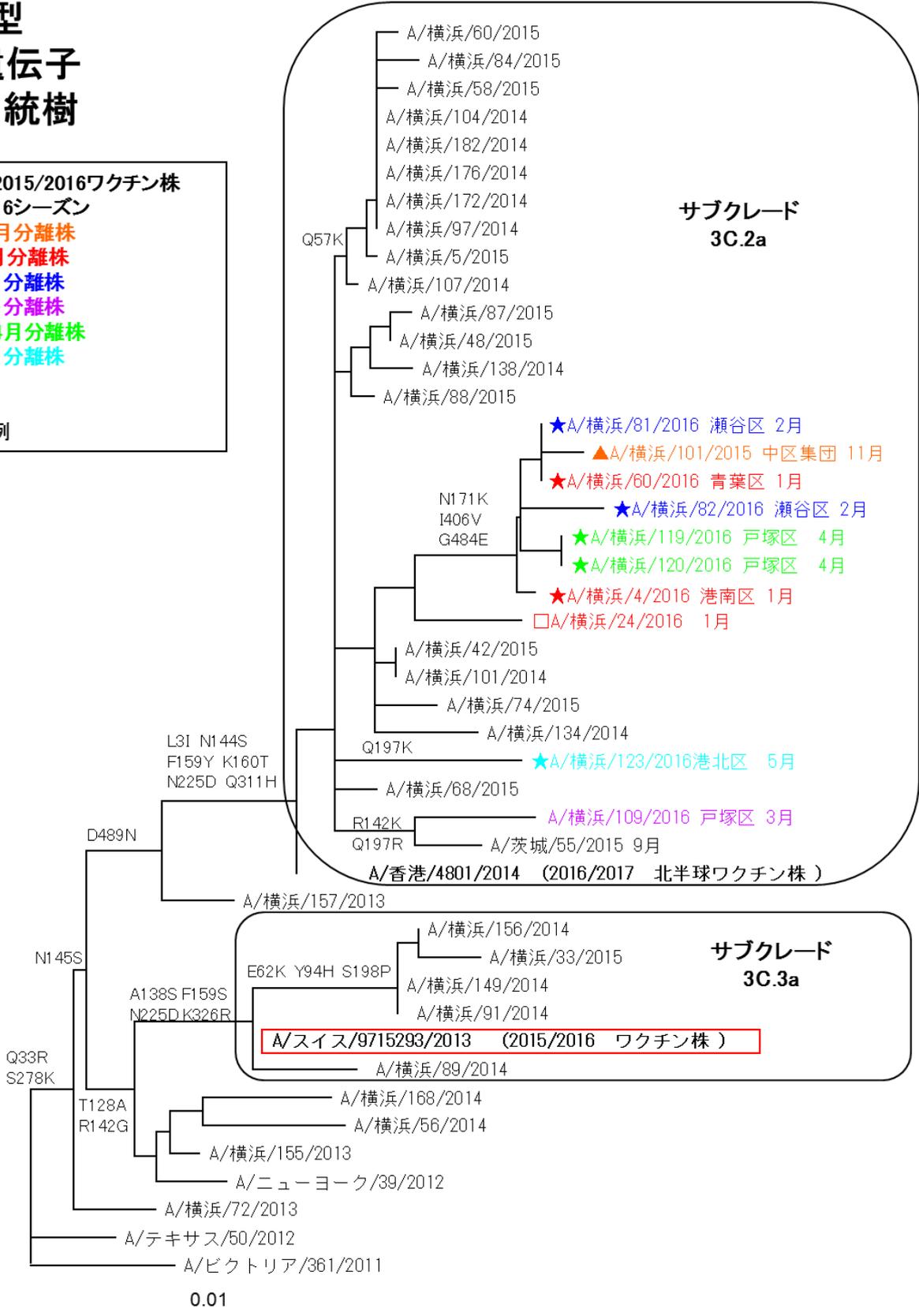


図5 A 香港 (H3) 型ウイルスのHA 遺伝子 NJ 系統樹

B型ウイルス HA遺伝子 NJ系統樹

- 赤枠内: 2015/2016ワクチン株
2015/2016シーズン分離株
- 桃色: 12月分離株
 - 赤色: 1月分離株
 - 青色: 2月分離株
 - 紫色: 3月分離株
 - 緑色: 4月分離株
 - 水色: 5月分離株
 - ★: 定点
 - ▲: 集団
 - ◆: 薬剤感受性低下株(D197N)
 - ▼: アミノ酸挿入株(76L)
 - : リアソータント株

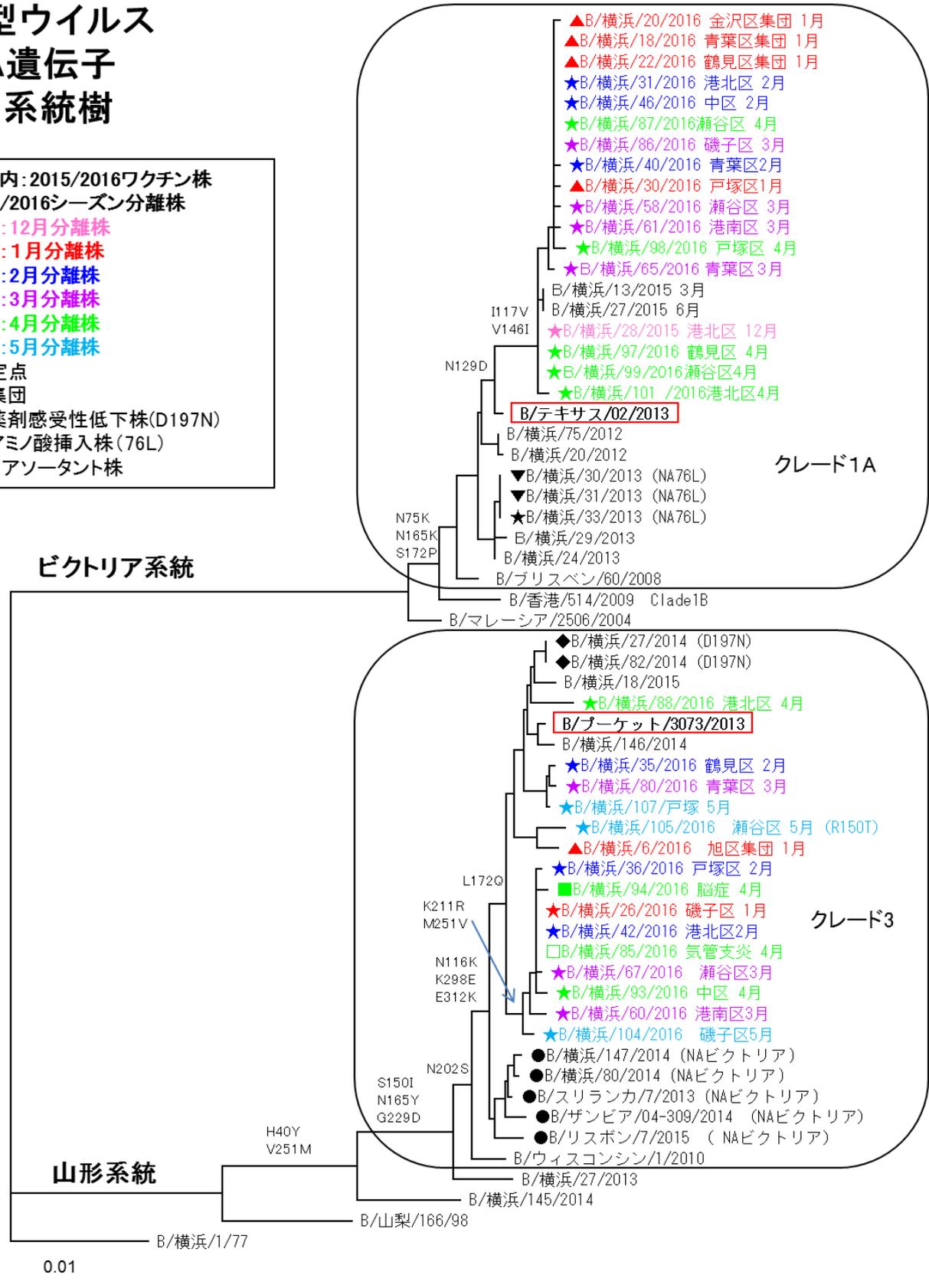


図6 B型ウイルスのHA遺伝子NJ系統樹

系統樹解析では、AH1pdm09 ウイルスについては昨シーズンの A/横浜/50/2015 が含まれるクレード 6B から 2 つのサブクレードに分かれた。今シーズンは S84N、S162N、I216T のアミノ酸置換が共通のサブクレード 6B.1 に含まれる株が多数を占めたが、サブクレード 6B.2 (V152T、V173I、E491G、D501E) に含まれる株も少数分離された (図 4)。A 香港 (H3) 型ウイルスについては昨年同様サブクレード 3C.2a (L3I、N144S、F159Y、K160T、N225D、Q311H) に含まれ、さらに N171K、I406V、G484E のアミノ酸に置換した株が多かった。なお、2016/2017 シーズン北半球ワクチン株にはこのサブクレード 3C.2a の代表として A/香港/5738/2014 が推奨されている (図 5)。B 型ウイルスのうちビクトリア系統の分離株は、2015/2016 シーズンのワクチン株である B/テキサス/02/2013 と同じクレード 1A に含まれ、V146I や I117V のアミノ酸置換がみられた。山形系統のウイルスはクレード 3 に含まれ、2015/2016 シーズンのワクチン株 B/プーケット/3073/2013 (N116K、K293E、E312K のアミノ酸置換が共通) からさらに L172Q、K211R、M251V にアミノ酸置換したグループが多数を占めた (図 6)。

抗インフルエンザ薬感受性サーベイランスでは、AH1pdm09 ウイルス 126 株、A 香港 (H3) 型ウイルス 12 株、B 型ウイルス 109 株について既知の薬剤耐性マーカーを検索した。NA 遺伝子解析した結果、集団かぜ調査および定点ウイルス調査で分離した AH1pdm09 ウイルス 2 株に H275Y 変異が、山形系統の B 型ウイルス 1 株に R150T 変異がみられた。国立感染症研究所の薬剤感受性試験の結果、2 月の定点医療機関で抗インフルエンザ薬未治療の患者から分離した AH1pdm09 ウイルス 1 株は、オセルタミビルとペラミビルに対し薬剤感受性の低下がみられたが、ザナミビル、ラニナミビルに対しては感受性であった。一方、1 月の集団かぜ調査で採取した患者 (オセルタミビル服用) から分離した AH1pdm09 ウイルス 1 株はオセルタミビルおよびペラミビルに対する IC50 値の上昇が軽度に抑えられていた。また、5 月の定点医療機関で分離した山形系統の B 型ウイルス 1 株は、耐性株の基準に満たない低感受性株であり、オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビルに対する IC50 値の上昇はみられなかった。

以上のように横浜市におけるインフルエンザの流行は、AH1pdm09 ウイルス、ビクトリア系統および山形系統の B 型ウイルス、A 香港 (H3) 型ウイルスによる比較的大規模な混合流行であった。各ウイルス別分離・検出数の内訳 (2015 年 6 月分離株を除く) は AH1pdm09 ウイルスが 131 件と最も多く優勢であった。B 型ウイルスではビクトリア系統のウイルスが 68 件 (62.4%) となり、過去 3 シーズン優勢であった山形系統のウイルスと割合が入れ替わった。

AH1pdm09 ウイルス、山形系統およびビクトリア系統の B 型ウイルスは、ワクチン株と 4 倍以内の反応性を示した。A 香港 (H3) 型ウイルスはすべての株がワクチン株に対し 8 倍以上の反応性低下がみられた。

系統樹解析では、AH1pdm09 ウイルスはサブクレード 6B.1 と 6B.2 に含まれ、前者のサブクレードに含まれたウイルスが主流であった。A 香港 (H3) 型ウイルスは、ワクチン株の A/スイス/9715293/2013 が含まれるサブクレード 3C.3a とは異なる 3C.2a のグループが主流であった。B 型ウイルスのうちビクトリア系統の分離株は昨シーズンの株と同じクレード 1A に、山形系統の分離株はワクチン株の B/マサチューセッツ/2/2012 と同じクレード 3 に含まれた。

(川上千春、清水耕平、小澤広規、百木智子、七種美和子、宇宿秀三、笹尾忠由)

③ 川崎市のインフルエンザの動向

川崎市健康安全研究所

- 川崎市におけるインフルエンザ様疾患の発生状況

本市の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ様患者の発生状況(図 1)によると、定点あたりの患者数が 1.0 人を超えたのが 12 月の第 4 週(第 52 週)で、その後患者数は急増し、2 月の第 1 週(第 5 週)に定点あたりの患者数が 48.78 人とピークを迎えた。このピーク時の患者数は過去 3 年間で最も多いものであった。その後減少し、2 月の第 4 週(8 週)に警報レベル(30 人以上)、3 月の第 4 週(12 週)に注意報レベル(10 人以上)を下回った。

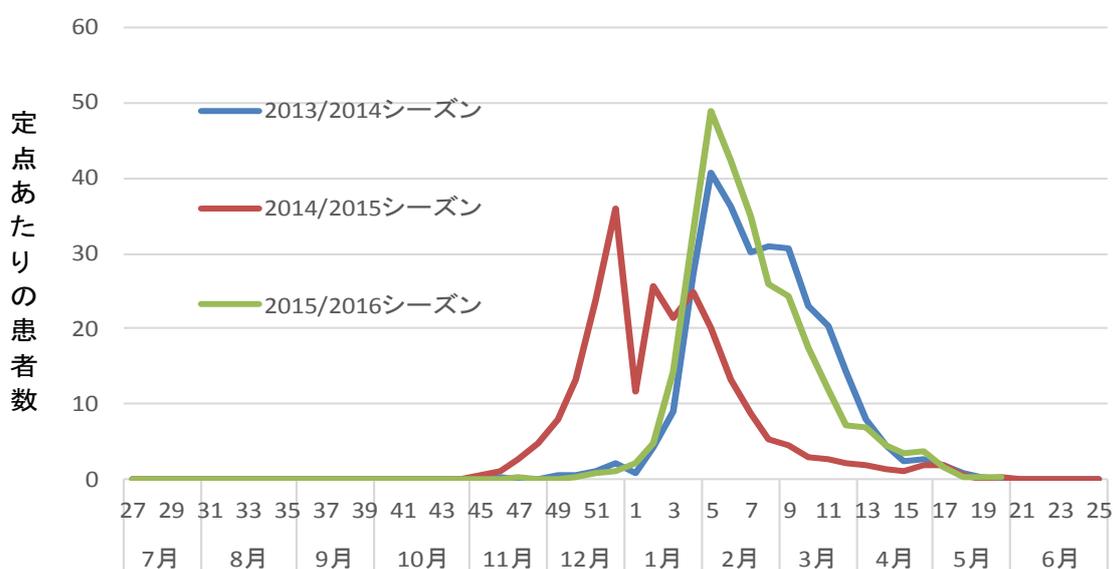


図 1 定点あたりのインフルエンザ患者数

- インフルエンザウイルス分離状況

2015/2016 シーズンは、インフルエンザ様疾患患者の咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液が合計 193 例搬入され、そのうちリアルタイム PCR ならびにウイルス分離培養で 182 例(94.3%)がインフルエンザウイルス陽性であった。血清型別では、AH1pdm09 が 87 例、A 香港(AH3)型が 16 例、B 型(ビクトリア系統)が 31 例、B 型(山形系統)が 47 例、B 型(型別不明)が 1 例であった。

週別のインフルエンザウイルス分離状況(図 2)では、初めてウイルスが検出されたのは 11 月の第 2 週(46 週)で、AH3 型と B 型(ビクトリア系統)がされたものの、12 月まで検出数は散発的であった。検出数が増加したのは 1 月の第 2 週からで、検出数のピークは 1 月の第 4 週で AH1pdm09 が 16 例、AH3 型が 3 例、B 型(ビクトリア系統)が 4 例、B 型(山形系統)が 6 例の計 29 例であった。2015/2016 シーズンに検出されたインフルエンザウイルスの 47.8%が AH1pdm09 で流行の主流であったと言えるが、流行の後半(3~4 月)は B 型(ビクトリア系統・山形系統)の割合が増加し、2014/2015 シーズンの主流であった AH3 型の検出数は少なかった。

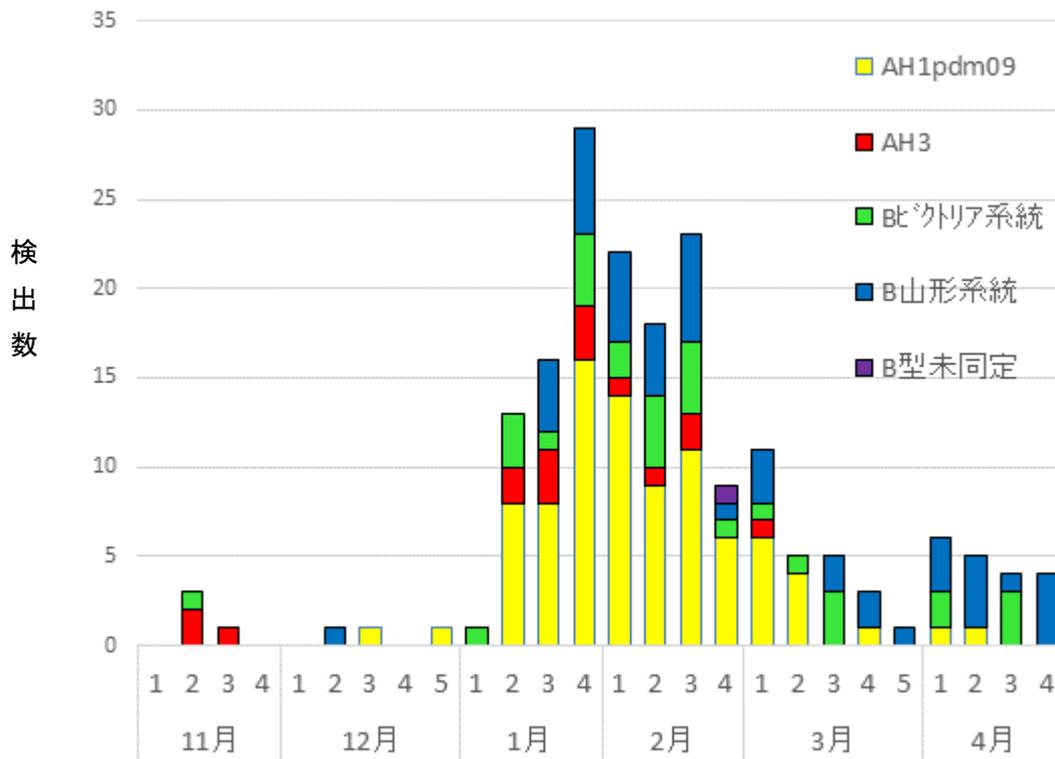


図2 週別インフルエンザウイルス検出状況

(駒根綾子、清水英明)

④ インフルエンザ感受性調査

神奈川県衛生研究所

2015年7～8月に採取された0歳以上の県民332名（0～4歳40名、5～9歳22名、10～14歳30名、15～19歳30名、20～29歳60名、30～39歳60名、40～49歳30名、50～59歳30名、60歳以上30名）の血清について、赤血球凝集抑制試験を用いてインフルエンザ各型に対する年齢別抗体保有状況を調査した。使用抗原は、A/カリフォルニア/7/2009、A/スイス/9715293/2013、B/プーケット/3073/2013、B/テキサス/2/2013の4種類で、すべて本シーズン（2015/2016シーズン）のワクチン株である。抗体保有率は、最低血清希釈倍数の10HI価と、重症化予防の目安と考えられる40HI価の2点で集計した。

A/カリフォルニア/7/2009は、2009/2010シーズン以後6シーズンに渡ってAH1pdm09のワクチン株に採用されている株である。本株に対する抗体保有率は、10HI価でみると最高が5～9歳の95.5%、最低が0～4歳の42.5%、40HI価でみると最高が5～9歳の81.8%、最低が60歳以上の16.7%であった。全体の40HI価以上の抗体保有率は52.7%で調査対象株の中で最も高く、前年調査時と比較しても全体的に高かった。（図1）

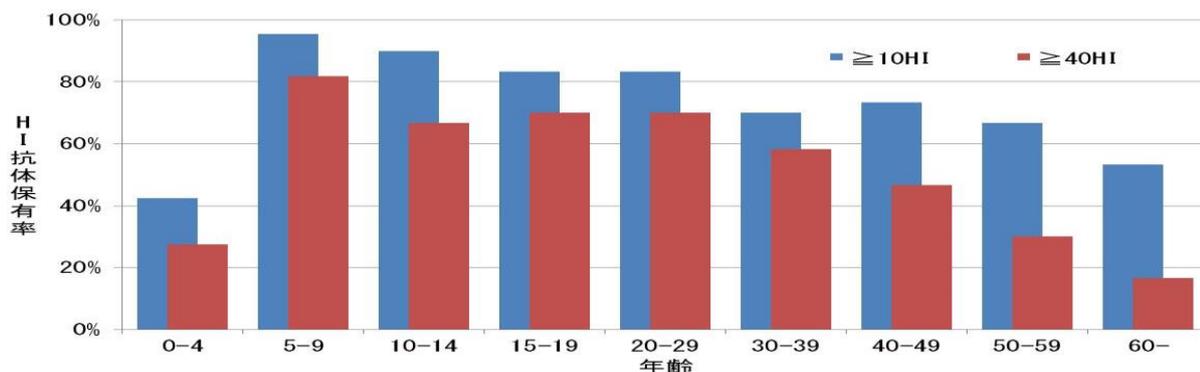


図1 A/カリフォルニア/7/2009 抗体保有率

A/スイス/9715293/2013は、本シーズンからA香港(H3)型のワクチン株に採用された株である。本株に対する抗体保有率は、10HI価でみると最高が5～9歳の90.0%、最低が0～5歳の32.5%、40HI価でみると最高が5～9歳の63.6%、最低が50～59歳の10.0%であった。全体の40HI価以上の抗体保有率は26.8%で調査対象株の中で2番目であった。（図2）

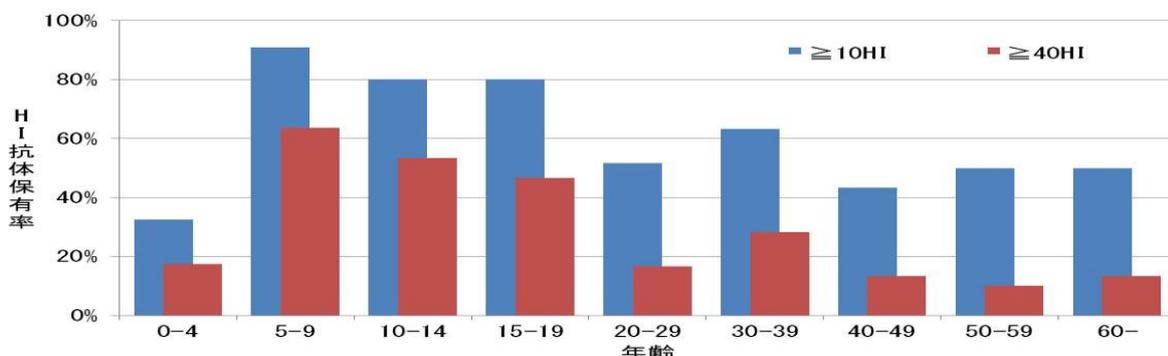


図2 A/スイス/9715293/2013 抗体保有率

B/プーケット/3073/2013 は、本シーズンから B 型（山形系統）のワクチン株として採用された株である。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 20～29 歳の 86.7%、最低が 0～4 歳の 7.5%、40HI 価でみると最高が 20～29 歳の 48.3%、最低が 0～5 歳の 0.0%であった。全体の 40HI 価以上の抗体保有率は 26.2%で調査対象株の中で 3 番目であった。（図 3）

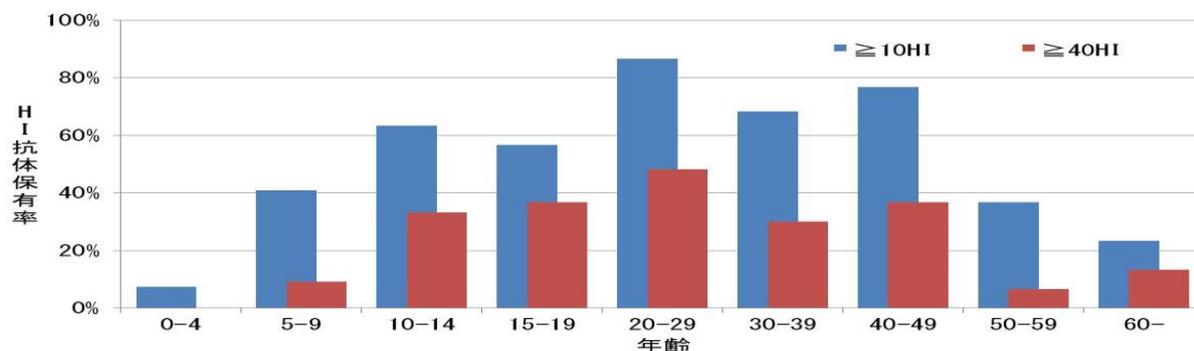


図 3 B/プーケット/3073/2013 抗体保有率

B/テキサス/2/2013 は、本シーズンから B 型（ビクトリア系統）のワクチン株として採用された株である。本株に対する抗体保有率は、10HI 価でみると最高が 40～49 歳の 70.0%、最低が 0～4 歳の 5.0%、40HI 価でみると最高が 40～49 歳の 26.7%、最低が 0～4 歳、5～9 歳、50～59 歳の 0.0%であった。全体の 40HI 価以上の抗体保有率は 11.4%で調査対象株の中で最も低かった。（図 4）

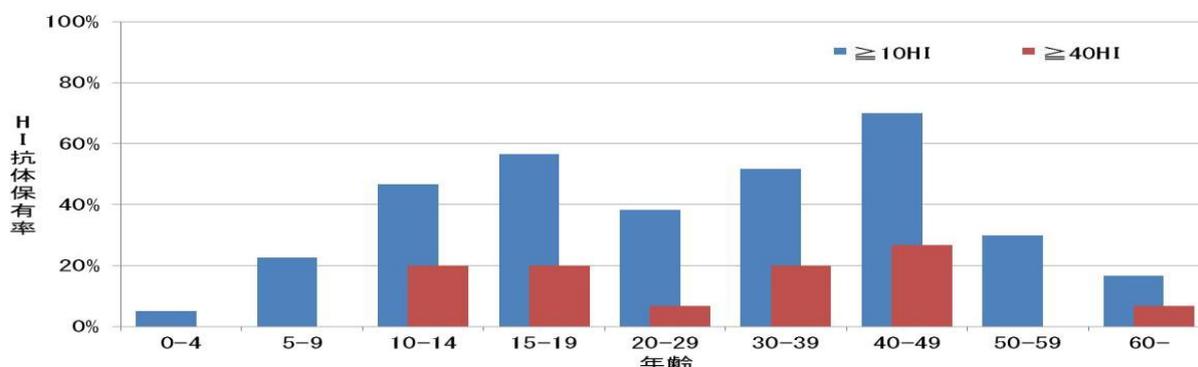


図 4 B/テキサス/2/2013 抗体保有率

本シーズンのインフルエンザワクチンは、従来の 3 価（AH1pdm09、AH3、B）から B が 2 種類に増えて 4 価（AH1pdm09、AH3、B 山形系統、B ビクトリア系統）に変更された。また、AH1pdm09 を除いた 3 種類は新しい株が選定されており、これらの株に対する抗体保有率が低いことが予想された。重症化予防の目安と考えられる 40HI 価以上の抗体保有率は、AH1pdm09 が 52.7%であったのに対し、他の 3 株は AH1pdm09 の半分以下（11.4～26.7%）であり、これらの株に対する感受性者が多く存在すると考えられた。したがって、全年齢群において、ワクチン接種による免疫強化が必要であると思われた。

（渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎）

(2) HIV／エイズ

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）における HIV 検査の実施状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）では、昭和 62 年 2 月より保健所において HIV 抗体検査の受付が開始され、当所で検査を実施している。平成 5 年 4 月からは HIV 抗体検査が無料化され、同年 8 月からは HIV-1 型抗体検査に加え、HIV-2 型抗体検査も実施可能となった。平成 17 年 8 月からは HIV 即日検査機関として横浜 YMCA（厚木）で日曜日に「神奈川県即日検査センター」（以下、即日検査センター）を開設、平成 18 年 4 月からは平塚 HWC、6 月からは厚木、茅ヶ崎、小田原 HWC、平成 26 年 4 月からは鎌倉 HWC において即日検査を開始した。また、平成 26 年からは個別施策層の男性同性間性的接触者（以下、MSM）と日本語に不慣れな受検者（以下、外国籍）に配慮した即日検査会をかながわ県民センターで実施している。性感染症検査としては、平成 26 年 4 月から厚木 HWC 大和センターで希望者に梅毒抗体検査を実施している。

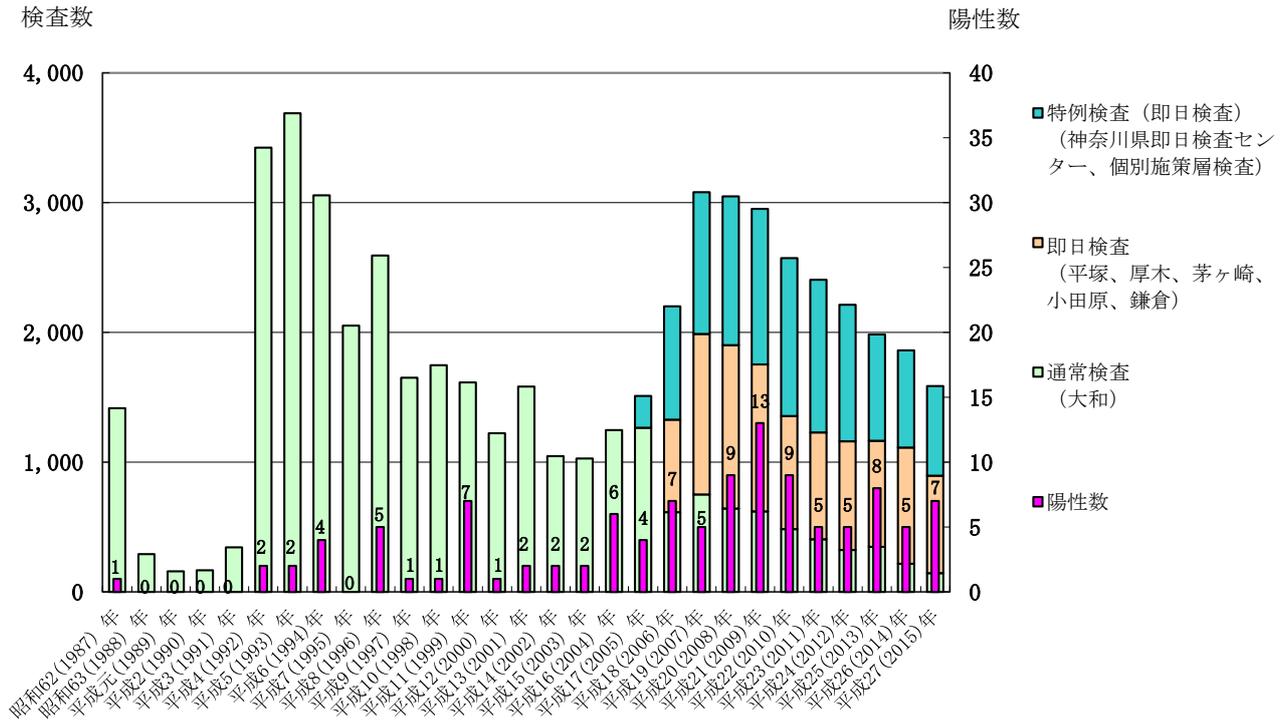
HIV 検査数は、検査が無料化された平成 5 年をピークに年々減少傾向であったが、全国的に即日検査の導入が始まった平成 16 年以降は当県でも検査数が増加し始め、平成 17 年の即日検査センターの設置、平成 18 年の HWC への即日検査の導入により検査数が急激に増加した（図 1）。しかし、平成 19 年の検査数 3,080 件をピークに、平成 27 年は 1,587 件と減少傾向が続いている。

平成 27 年の検査種類別による検査数は、即日検査を実施している 5 箇所の HWC では 752 件、通常検査は 144 件、即日検査センターおよび個別施策層即日検査（以下、特設検査）では 691 件であった（表 1）。前年と比較して即日検査数は 16%減、通常検査は 33%減、特設検査では 8%減となり、全体としては 13%減となった。

HIV 陽性数は 7 例であり、即日検査で 1 例（陽性率 0.1%）、通常検査で 2 例（1.4%）、特例検査で 4 例（0.6%）であった。全体の陽性率は 0.4%であり、例年より若干高めであった。陽性例の性別は男性が 6 名、女性が 1 名であり、国籍は日本国籍が 3 名、外国籍が 4 名であった。HIV 型はすべて HIV-1 型であり、サブタイプ型別は、サブタイプ B が 4 例（日本国籍男性 2 例、外国籍男性 2 例）、CRF01_AE が 1 例（外国籍女性）、CRF02_AG が 1 例（外国籍男性）、サブタイプ B と CRF01_AE のリコンビナント（01B）が 1 例（日本国籍男性）であった（表 2）。サブタイプ B は欧米から 1980 年代中頃に日本に流入し、非加熱血液製剤による感染例や男性同性間の性的接触による感染例の主流株となっている。

CRF01_AE はタイから 1990 年頃に日本に流入し、異性間の性的接触や東南アジア出身の感染者から検出されている。01B は 2003 年以降、東南アジア及び東アジアで多数同定され、近年、日本国内においても CRF01_69 と CRF01_66 の 2 種類が検出されている。CRF02_AG はアフリカ出身の感染者で多く見られる。

神奈川県では HIV 検査数が毎年減少傾向にあり、全国の HIV 検査数も前年比 12%減となっている。しかしながら、神奈川県においては HIV 陽性率の低下は見られず、感染者は日本国籍男性と外国籍が中心である。今後、MSM や外国籍者等の個別施策層を対象とした HIV 検査体制の更なる強化が必要と考える。



- * 相模原は平成12年4月、藤沢は平成18年4月から保健所設置市となった。
- * 津久井は平成19年4月に相模原市に統合された。
- * 神奈川県即日検査センターは平成17年8月、平塚HMCは平成18年4月、厚木、茅ヶ崎、小田原HMCは平成18年6月から即日検査を開始した。
- * 鎌倉HMCは平成26年4月から即日検査を開始した。
- * 平成26年から個別施策層検査 (MSM および外国人) を開始した。

図1 神奈川県（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市及び藤沢市を除く）でのHIV検査数、陽性数の年次推移

表1 HIV検査種類別による検査数、陽性数（平成18-27年）

	即日検査*			通常検査**			特例検査（即日検査） （即日検査センターおよび個別施策層検査）			合計		
	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）	検査数	陽性数	陽性率（%）
平成18年	712	2	0.3%	615	1	0.2%	874	4	0.5%	2,201	7	0.3%
平成19年	1,237	2	0.2%	750	1	0.1%	1,093	2	0.2%	3,080	5	0.2%
平成20年	1,258	2	0.2%	643	3	0.5%	1,146	4	0.3%	3,047	9	0.3%
平成21年	1,132	2	0.2%	621	5	0.8%	1,198	6	0.5%	2,951	13	0.4%
平成22年	872	4	0.5%	484	0	0.0%	1,216	5	0.4%	2,572	9	0.3%
平成23年	824	2	0.2%	405	1	0.2%	1,176	2	0.2%	2,405	5	0.2%
平成24年	838	3	0.4%	323	0	0.0%	1,051	2	0.2%	2,212	5	0.2%
平成25年	817	2	0.2%	347	0	0.0%	819	6	0.7%	1,983	8	0.4%
平成26年	897	0	0.0%	216	0	0.0%	748	5	0.7%	1,816	5	0.3%
平成27年	752	1	0.1%	144	2	1.4%	691	4	0.6%	1,587	7	0.4%

* 平成18年4月から平塚HMC、平成18年6月から小田原、茅ヶ崎、厚木HMC、平成26年4月から鎌倉HMCで実施

** 平成26年3月まで鎌倉、三崎、秦野、大和、足柄上HMC、平成26年4月から厚木HMC大和センターのみで実施

表2 HIV陽性例のHIV-1型サブタイプ型別（平成18-27年）

陽性数	サブタイプB				CRF01_AE				CRF02_AG				サブタイプB/CRF01_AE				不明	
	男性		女性		男性		女性		男性		女性		男性		女性			
	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍	日本国籍	外国籍		
平成18年	5				1			1										
平成19年	2				1			1										1
平成20年	4			1		1	1	2										
平成21年	9					1		1										2
平成22年	5			1	1			2										
平成23年	3												1			1		
平成24年	3			2														
平成25年	6	1																1
平成26年	4	1																
平成27年	2	2						1		1				1				
合計	43	4		2	2	3	2	1	8	0	1	0	0	1	1	0	1	4

（佐野貴子、嘉手苺将、渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎）

② 藤沢市における HIV 即日検査の実施状況

藤沢市保健所

原則週 1 回木曜日の午前中に通常即日検査を実施し、それとは別に 6 月（HIV 検査普及週間）と 8 月に平日夜間即日検査、12 月の世界エイズデーに合わせて休日即日検査を実施した。

検査はイムノクロマト法による血中抗 HIV-1 及び HIV-2 抗体検出キットを使用して行い、本法で陽性または判定が困難であった検体については結果を判定保留とし、神奈川県衛生研究所に当該検体の精密検査を依頼した。

平成 27 年の検査数は 364 件で、内訳は通常即日検査が 311 件、平日夜間及び休日即日検査が各々 30 件及び 23 件であった。判定保留は 4 件あり、県衛生研究所の精密検査において、4 件中 1 件が陽性と判定された。

表 藤沢市の HIV 即日検査数

No	検査種類	検査数	判定保留数	陽性数
1	通常即日検査	311	4	1
2	平日夜間即日検査	30	0	0
3	休日即日検査	23	0	0
	計	364	4	1

(平井有紀、松葉友美、水上稚子、佐藤健)

(3) ウイルス性感染性胃腸炎

平成 27 年の神奈川県全体の感染性胃腸炎の報告数は、第 51 週及び 52 週に定点当たり 14.95 と流行のピークがみられた。年齢別では、1 から 14 歳以下に多く見られた。

(3) -1

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染性胃腸炎患者からの原因ウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県における感染症予測監視事業の一環として、神奈川県域（横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市及び藤沢市を除く）の各小児科定点医療機関から得られた感染性胃腸炎患者の検体から原因ウイルスの検索を行った。

検索対象ウイルスは、ノロウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、A 群ロタウイルス、アデノウイルスおよび C 群ロタウイルスとした。

検査の結果、98 検体中 31 検体から感染性胃腸炎の原因ウイルスが検出されその内訳は、ノロウイルスが 31 検体、サポウイルスが 2 検体、アストロウイルスが 5 検体およびアデノウイルスが 1 検体で、A 群および C 群ロタウイルスは検出されなかった。年齢別にウイルスの検出状況をみると、ノロウイルスは各年齢層で検出されたが、ノロウイルス以外のウイルスは、6 歳以下の小児でサポウイルス、アストロウイルス、アデノウイルスの 3 種、7～12 歳、23～64 歳の群でアストロウイルス、65 歳以上でサポウイルスが検出された。

月別のウイルスの検出状況は、5 月、7 月、8 月、10 月を除いた月でウイルスの検出が認められた。ノロウイルスは冬季から春季に多く検出され、サポウイルスはノロウイルスと同時期に、アストロウイ

ルスは2月、4月、6月に検出されていた。A群ロタウイルスは、2012年より減少傾向にあったが、2011年～2012年にワクチンの接種がはじまり、対象者へのワクチン接種が定着してきていることが減少の要因として考えられ、2015年は検出されなかった。

ノロウイルス 23 検体は全てG IIであった。その内 19 検体について系統樹解析を実施したところ、G II. 4 が 13 検体で内 Sydney2012 と近縁株が 10 検体、DenHaag 2006b と近縁株が 3 検体、G II. 17 (変異型) が 4 検体、G II. 3 が 2 検体であった。ノロウイルスの検出が多かった1月、2月には、G II. 4 Sydney2012、G II. 4 DenHaag 2006b、G II. 17 (変異型) の 2 種類 3 系統の遺伝子型が検出された。

表 1 年齢別ウイルス検出状況 (平成 27 年 1 月～12 月)

	検体数	陽性検体数	検出ウイルス						検出数
			ノロウイルス	サポウイルス	アストロウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス	C群ロタウイルス	
6歳以下	46	13	10	1	1	0	1	0	13
7～12歳	16	5	3	0	2	0	0	0	5
13～22歳	5	1	1	0	0	0	0	0	1
23～64歳	28	10	8	0	2	0	0	0	10
65歳以上	3	2	1	1	0	0	0	0	2
合計	98	31	23	2	5	0	1	0	31

表 2 発病月別ウイルス検出状況

年 月	陽性数							検出数
	ノロウイルス		サポウイルス	アストロウイルス	A群ロタウイルス	アデノウイルス	C群ロタウイルス	
	G I ¹⁾	G II ²⁾						
平成27年 1月	0	11	1	0	0	0	0	12
2月	0	4	1	1	0	0	0	6
3月	0	2	0	0	0	1	0	3
4月	0	1	0	2	0	0	0	3
5月	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	2	0	0	0	2
7月	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	1	0	0	0	0	0	1
10月	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	1	0	0	0	0	0	1
12月	0	3	0	0	0	0	0	3
小計	0	23						
合計		23	2	5	0	1	0	31

(鈴木理恵子、高橋淳子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎)

(3) -2

平成 27 年のウイルス性集団胃腸炎の集団発生数は前年の 130 事例より増加し 182 事例であった。また、発生事例数の増加に伴い、検査件数、陽性数も増加した。

表 ウイルス性感染性胃腸炎集団発生状況

	平成25年				平成26年				平成27年			
	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)	発生事例数 (件)	検査件数 (人)	陽性数 (人)	陽性率 (%)
横浜市	128	555	389	70	109	452	279	62	152	779	535	69
川崎市	10	56	39	70	9	57	49	86	14	79	42	53
相模原市	1	5	4	80	3	54	32	59	6	134	78	58
横須賀市	7	101	73	72	2	115	59	51	2	67	24	36
藤沢市	6	23	18	78	5	18	17	94	6	21	18	86
上記を除く神奈川県	4	13	12	92	2	5	4	80	2	32	26	81
計	156	753	535	71	130	701	440	63	182	1112	723	65

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が 2 事例あり、ノロウイルスが検出された。遺伝子型は、2 事例とも平成 26 年秋に川崎市で報告された G II. 17 変異型（G II. P17-G II. 17）であった。ノロウイルス以外の集団発生は平成 21 年に C 群ロタウイルス、平成 22 年に A 群ロタウイルス（G 1）、平成 23 年には A 群ロタウイルス（G 3）による集団事例があったが、平成 27 年はノロウイルス以外の下痢症ウイルスを原因とした事例の発生はなかった。

表 神奈川県のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No.	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子型
1	H27. 7	営業所	不明	25	12	ノロウイルス	G II. P17-G II. 17
2	H27. 12	病院	不明	32	14	ノロウイルス	G II. P17-G II. 17

（鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

② 横浜市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横浜市衛生研究所

平成 27 年における横浜市内で発生した感染症としての集団発生事例の取扱事例数は 152 事例であった。ノロウイルスが 132 事例より検出され、その遺伝子群は GII が 98 事例、GI が 33 例、GI と GII の混合事例が 1 事例であり、GII が大部分を占め全国の状況と一致していた。その他にロタウイルスが 7 事例、サポウイルスが 5 事例より検出され、さらにロタウイルスとノロウイルスの混合事例が 1 事例、ロタウイルスとアデノウイルスの混合事例が 1 事例、サポウイルスとノロウイルスの混合事例が 1 事例あった。なお、5 事例は起因ウイルス不明であった。

表 横浜市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H27.1	高齢者施設	8	4	3	ノロウイルス	GII
2	H27.1	高齢者施設	12	2	1	ノロウイルス	GII
3	H27.1	保育園	9	2	2	ノロウイルス	GII
4	H27.1	福祉施設	4	7	3	ノロウイルス	GII
5	H27.1	病院	2	4	1	ノロウイルス	GII
6	H27.1	保育園	16	3	2	ノロウイルス	GII
7	H27.1	高齢者施設	16	12	3	ノロウイルス	GII
8	H27.1	高齢者施設	13	6	5	ノロウイルス	GII
9	H27.1	福祉施設	不明	2	2	ノロウイルス	GII
10	H27.2	小学校	12	3	3	ノロウイルス	GI
11	H27.2	小学校	26	5	2	ノロウイルス	GII
12	H27.2	小学校	15	4	4	ノロウイルス	GII
13	H27.2	高齢者施設	11	3	3	ノロウイルス	GII
14	H27.2	高齢者施設	21	5	5	ノロウイルス	GII
15	H27.2	高齢者施設	12	5	4	ノロウイルス	GII
16	H27.2	小学校	10	4	3	ノロウイルス	GII
17	H27.2	小学校	8	3	2	ノロウイルス	GII
18	H27.2	福祉施設	不明	3	3	ノロウイルス	GII
19	H27.2	病院	29	19	11	ノロウイルス	GII
20	H27.2	小学校	13	2	2	ノロウイルス	GII
21	H27.2	小学校	8	3	3	ノロウイルス	GII
22	H27.2	高齢者施設	不明	12	2	ノロウイルス	GII
23	H27.2	保育園	不明	9	6	ノロウイルス	GI
24	H27.3	福祉施設	不明	3	3	ノロウイルス	GII
25	H27.3	保育園	不明	4	2	ノロウイルス	GI

26	H27.3	高齢者施設	8	3	2	ロタウイルス	
27	H27.3	保育園	不明	13	10	ノロウイルス	GII
28	H27.3	小学校	不明	5	4	ノロウイルス	GI
29	H27.3	小学校	不明	3	3	ロタウイルス	
30	H27.3	小学校	不明	2	2	ノロウイルス	GII
31	H27.3	小学校	不明	4	4	ノロウイルス	GII
32	H27.3	保育園	30	7	6	ノロウイルス	GII
33	H27.3	保育園	不明	2	1	ノロウイルス	GI
34	H27.3	福祉施設	5	5	4	ノロウイルス	GII
35	H27.3	高齢者施設	5	4	3	ロタウイルス	
36	H27.3	保育園	12	4	4	サポウイルス	
37	H27.3	その他	19	16	10	ノロウイルス	GI
38	H27.3	保育園	不明	9	5	ロタウイルス	
39	H27.4	高齢者施設	7	4	4	ノロウイルス	GII
40	H27.4	その他	不明	2	2	ノロウイルス	GII
41	H27.4	高齢者施設	不明	2	2	ノロウイルス	GII
42	H27.4	保育園	不明	5	3	ノロウイルス	GII
43	H27.4	福祉施設	不明	4	4	ノロウイルス	GI
44	H27.4	保育園	12	4	2	ロタウイルス	
45	H27.4	福祉施設	不明	2	1	ノロウイルス	GII
46	H27.4	保育園	不明	7	3	ロタウイルス、アデノウイルス	
47	H27.4	保育園	不明	5	3	ノロウイルス	GII
48	H27.4	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	GI
49	H27.4	保育園	不明	4	4	ノロウイルス	GI
50	H27.5	小学校	不明	2	2	サポウイルス	
51	H27.5	高齢者施設	12	16	11	ノロウイルス	GII
52	H27.5	高齢者施設	不明	4	4	ノロウイルス	GII
53	H27.5	保育園	12	5	4	ノロウイルス、ロタウイルス	
54	H27.5	保育園	5	4	3	ロタウイルス	
55	H27.5	小学校	不明	6	6	ノロウイルス	GI
56	H27.5	保育園	不明	10	6	ノロウイルス	GII
57	H27.5	小学校	16	9	7	サポウイルス、ノロウイルス	
58	H27.5	福祉施設	不明	6	5	ノロウイルス	GII
59	H27.5	小学校	17	5	5	ノロウイルス	GII
60	H27.5	保育園	不明	8	3	ノロウイルス	GII
61	H27.6	保育園	12	5	5	サポウイルス	
62	H27.6	保育園	17	15	9	ノロウイルス	GII
63	H27.6	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	GI

64	H27.6	小学校	31	20	8	ノロウイルス	GI
65	H27.6	小学校	11	3	3	ノロウイルス	GI
66	H27.6	小学校	25	5	4	ノロウイルス	GII
67	H27.6	幼稚園	不明	4	4	ノロウイルス	GI
68	H27.6	保育園	不明	10	3	サポウイルス	
69	H27.6	保育園	15	4	1	ノロウイルス	GII
70	H27.6	小学校	30	8	5	ノロウイルス	GI
71	H27.6	小学校	不明	1	1	ノロウイルス	GII
72	H27.6	小学校	不明	4	4	ノロウイルス	GI
73	H27.6	小学校	不明	4	4	ノロウイルス	GI
74	H27.6	保育園	不明	4	3	ノロウイルス	GI
75	H27.7	その他	9	16	8	ノロウイルス	GI
76	H27.7	幼稚園	不明	5	5	ノロウイルス	GI
77	H27.7	その他	4	14	4	ノロウイルス	GII
78	H27.7	高齢者施設	不明	10	5	ノロウイルス	GI
79	H27.7	保育園	不明	2	2	ノロウイルス	GII
80	H27.7	その他	9	4	2	ノロウイルス	GI
81	H27.8	その他	3	3	3	ノロウイルス	GI
82	H27.10	小学校	26	10	6	ノロウイルス	GI
83	H27.10	保育園	不明	8	3	ノロウイルス	GI
84	H27.10	小学校	不明	4	3	ノロウイルス	GI
85	H27.10	小学校	不明	5	4	ノロウイルス	GI
86	H27.10	保育園	11	4	3	ノロウイルス	GII
87	H27.10	小学校	不明	5	3	ノロウイルス	GII
88	H27.10	保育園	26	3	3	ノロウイルス	GII
89	H27.11	保育園	14	6	2	ノロウイルス	GII
90	H27.11	幼稚園	15	3	3	ノロウイルス	GII
91	H27.11	保育園	不明	5	4	ノロウイルス	GII
92	H27.11	小学校	11	3	3	ノロウイルス	GI、GII
93	H27.11	保育園	8	4	4	ノロウイルス	GI
94	H27.11	保育園	27	12	6	ノロウイルス	GII
95	H27.11	幼稚園	69	5	5	ノロウイルス	GII
96	H27.11	保育園	8	4	4	ノロウイルス	GII
97	H27.11	保育園	12	6	4	ノロウイルス	GII
98	H27.11	小学校	15	4	4	ノロウイルス	GII
99	H27.11	保育園	20	3	3	ノロウイルス	GII
100	H27.11	保育園	11	4	3	ノロウイルス	GI
101	H27.11	小学校	15	4	4	ノロウイルス	GII

102	H27. 11	小学校	11	3	3	ノロウイルス	GII
103	H27. 11	幼稚園	22	2	2	ノロウイルス	GII
104	H27. 11	保育園	8	5	2	ノロウイルス	GII
105	H27. 11	保育園	不明	8	5	ノロウイルス	GII
106	H27. 11	保育園	18	3	3	ノロウイルス	GII
107	H27. 12	保育園	8	6	6	ノロウイルス	GII
108	H27. 12	保育園	7	3	3	ノロウイルス	GII
109	H27. 12	保育園	不明	12	10	ノロウイルス	GII
110	H27. 12	保育園	10	2	2	ノロウイルス	GII
111	H27. 12	小学校	12	2	2	ノロウイルス	GII
112	H27. 12	保育園	16	2	1	ノロウイルス	GII
113	H27. 12	小学校	不明	5	5	ノロウイルス	GI
114	H27. 12	保育園	12	4	4	ノロウイルス	GII
115	H27. 12	保育園	14	3	3	ノロウイルス	GII
116	H27. 12	保育園	不明	5	3	ノロウイルス	GII
117	H27. 12	小学校	12	3	3	ノロウイルス	GII
118	H27. 12	保育園	12	12	5	ノロウイルス	GII
119	H27. 12	保育園	8	3	2	ノロウイルス	GI
120	H27. 12	小学校	不明	4	4	サポウイルス	
121	H27. 12	保育園	20	5	4	ノロウイルス	GII
122	H27. 12	保育園	18	6	2	ノロウイルス	GII
123	H27. 12	保育園	不明	6	4	ノロウイルス	GII
124	H27. 12	小学校	不明	3	3	ノロウイルス	GI
125	H27. 12	保育園	10	1	1	ノロウイルス	GI
126	H27. 12	小学校	14	14	2	ノロウイルス	GII
127	H27. 12	小学校	10	2	2	ノロウイルス	GII
128	H27. 12	小学校	不明	5	5	ロタウイルス	
129	H27. 12	保育園	12	4	4	ノロウイルス	GII
130	H27. 12	保育園	6	2	1	ノロウイルス	GII
131	H27. 12	高齢者施設	4	3	2	ノロウイルス	GII
132	H27. 12	小学校	不明	4	3	ノロウイルス	GII
133	H27. 12	保育園	12	2	2	ノロウイルス	GII
134	H27. 12	小学校	不明	2	2	ノロウイルス	GII
135	H27. 12	高齢者施設	不明	2	2	ノロウイルス	GII
136	H27. 12	保育園	8	7	3	ノロウイルス	GII
137	H27. 12	保育園	30	20	14	ノロウイルス	GII
138	H27. 12	保育園	7	3	2	ノロウイルス	GII
139	H27. 12	保育園	不明	4	3	ノロウイルス	GII

140	H27.12	保育園	11	5	1	ノロウイルス	GII
141	H27.12	高齢者施設	不明	4	4	ノロウイルス	GII
142	H27.12	高齢者施設	21	2	2	ノロウイルス	GII
143	H27.12	保育園	20	1	1	ノロウイルス	GII
144	H27.12	保育園	11	2	2	ノロウイルス	GII
145	H27.12	保育園	不明	8	5	ノロウイルス	GII
146	H27.12	保育園	16	3	3	ノロウイルス	GII
147	H27.12	保育園	9	3	3	ノロウイルス	GII

779 535

(熊崎真琴、小澤広規、宇宿秀三、笹尾忠由)

③ 川崎市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

川崎市健康安全研究所

川崎市ではウイルスを原因とする感染性胃腸炎の集団発生が 14 事例確認された。その内訳はノロウイルス 13 事例、ロタウイルス 1 事例であった。例年に比べて、高齢者福祉施設でのノロウイルスの集団発生は少なかった。

表 川崎市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H27.1	高齢者福祉施設	39	13	4	ノロウイルス	GII
2	H27.1	高齢者福祉施設	18	16	5	ノロウイルス	GII
3	H27.2	保育園	16	6	3	ノロウイルス	GI
4	H27.2	高齢者福祉施設	85	3	3	ノロウイルス	GII
5	H27.5	保育園	30	3	3	ロタウイルス	G1P[8]
6	H27.6	小学校	14	3	2	ノロウイルス	GI
7	H27.6	幼稚園	94	4	3	ノロウイルス	GII
8	H27.10	保育園	40	8	2	ノロウイルス	GII
9	H27.10	保育園	10	4	1	ノロウイルス	GII
10	H27.10	保育園	47	3	2	ノロウイルス	GII
11	H27.11	保育園	22	5	4	ノロウイルス	GII
12	H27.11	小学校	20	4	4	ノロウイルス	GII
13	H27.11	保育園	53	5	5	ノロウイルス	GII
14	H27.12	保育園	21	2	1	ノロウイルス	GII

(石川真理子、清水英明)

④ 相模原市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

相模原市衛生研究所

相模原市では、ノロウイルスを原因とした食中毒が6例（検出数78）報告された。検出された遺伝子群はGⅠ、GⅡ複合感染が1検体あったが、それ以外はすべてGⅡであった。

表 相模原市のウイルス性集団胃腸炎の検査結果（平成27年）

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H27.1	飲食店	12	20	10	ノロウイルス	GⅡ
2	H27.1	移動販売車	31	23	22	ノロウイルス	GⅡ
3	H27.2	飲食店	21	19	16	ノロウイルス	GⅡ
4	H27.3	旅館・ホテル	14	10	8	ノロウイルス	GⅡ (うち1名GⅠ、GⅡ複合感染)
5	H27.10	飲食店	18	22	6	ノロウイルス	GⅡ
6	H27.12	飲食店	32	40	16	ノロウイルス	GⅡ

(荒川小夜子、望月響子、鈴木敏彦)

⑤ 横須賀市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市ではノロウイルスを原因とする集団胃腸炎が2事例発生した。学校の事例について検査数の内訳は有症者16名、調理従事者44名であった。各々の事例から検出されたノロウイルス24件の遺伝子群はGⅠが1件、GⅡが23件であった。

表 横須賀市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果（平成27年）

番号	発生年月	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H27.2	飲食店	7	7	7	ノロウイルス	GⅡ
2	H27.3	学校	25	60	17	ノロウイルス	GⅠ、GⅡ
		計	32	67	24		

(山口 純子)

⑥ 藤沢市のウイルスによる集団胃腸炎の検査結果

藤沢市保健所

平成27年1月から12月の間において、ノロウイルスによる集団胃腸炎が6事例発生した。検出された遺伝子群はGⅡが5事例、GⅠが1事例であった。

表 藤沢市のウイルス性集団胃腸炎の検出結果

No	発症月日	施設区分	発症者数	検査数	検出数	検出ウイルス	遺伝子群
1	H27. 1	高齢者施設	19	4	2	ノロウイルス	G II
2	H27. 2	高齢者施設	19	2	2	ノロウイルス	G II
3	H27. 2	保育園	30	4	3	ノロウイルス	G II
4	H27. 4	保育園	22	5	5	ノロウイルス	G I
5	H27. 10	保育園	58	2	2	ノロウイルス	G II
6	H27. 12	保育園	25	4	4	ノロウイルス	G II
計			173	21	18		

(平井有紀、松葉友美、水上稚子、佐藤健)

(4) 手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、無菌性髄膜炎、急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の検出状況

神奈川県衛生研究所

<手足口病>

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 193 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、140 例から 145 株のウイルスを分離・同定した。その内訳は、コクサッキーウイルス (CV) A16 型 61 株、CV-A6 型 59 株、CV-A10 型 7 株、CV-A5 型 2 株、CV-A9 型 2 株、CV-A14 型 2 株、CV-A2 型 1 株、CV-B5 型 1 株、ライノウイルス (HRV) 4 株、エンテロウイルス (EV) D68 型 2 株、パレコウイルス 6 型 1 株、アデノウイルス (Ad) 2 型 1 株、単純ヘルペスウイルス 1 (HSV-1) 型 2 株であった。このうち同一患者検体からの重複検出が 5 例あり、CV-A16 型と EV-D68 型の重複感染例が 1 例、CV-A6 型と Ad-2 型が 1 例、CV-A6 型と HRV が 1 例、CV-A6 型と CV-B5 型が 1 例、CV-A10 型と HSV-1 型が 1 例であった。平成 27 年は CV-A16 型と CV-A6 型が多数検出され、2 つの型の混合流行と見られた。

<ヘルパンギーナ>

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 23 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、20 例から 20 株のウイルスを分離・同定した。その内訳は、コクサッキーウイルス (CV) A6 型 8 株、CV-A16 型 4 株、CV-A10 型 3 株、CV-A2 型 2 株、CV-A4 型 1 株、CV-B4 型 1 株、ライノウイルス 1 株であった。平成 27 年はヘルパンギーナの検査依頼数は少ない傾向にあった。

<咽頭結膜熱>

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 94 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、80 例から 84 株のウイルスが検出された。その内訳は、アデノウイルス (Ad) 3 型 50 株、Ad-2 型 16 株、Ad-1 型 5 株、Ad-4 型 4 株、Ad-5 型 2 株、Ad-37 型 1 株、コクサッキーウイルス (CV) A9 型 1 株、CV-A16 型 1 株、CV-B3 型 1 株、エンテロウイルス D68 型 1 株、エコーウイルス (E) 18 型 1 株、単純ヒトヘルペスウイルス 1 型 1 株であった。このうち同一患者検体からの重複検出が 4 例あり、Ad-3 型と CV-A16 型が 1 例、Ad-3 型と E-18 型が 1 例、Ad-3 型と CV-B3 型が 1 例、Ad-5 型と EV-D68 型が 1 例であった。平成 26 年に引き続き、平成 27 年も Ad-3 型の検出が最も多かった。

(嘉手苅将、佐野貴子、渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎)

<流行性耳下腺炎>

病原体定点医療機関で採取された流行性耳下腺炎患者検体 12 例についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、3 例からムンプスウイルスが検出された。3 例の遺伝子型はすべてジェノタイプ G で、Gw（西日本）系統が 2 例、Ge（東日本）系統が 1 例であった。

<無菌性髄膜炎>

病原体定点医療機関で採取された無菌性髄膜炎患者検体 42 例 101 検体についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、23 例から 43 株のウイルスが検出された。その内訳は、コクサッキーウイルス（CV）A9 型 19 株、CV-B3 型 1 株、エコーウイルス（E）16 型 2 株、E-18 型 1 株、ヒトパレコウイルス（HPeV）1 型 1 株、ヒトパレコウイルス（HPeV）6 型 2 株、ライノウイルス（HRV）4 株、アデノウイルス（Ad）2 型 1 株、Ad-3 型 2 株、水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）1 株、サイトメガロウイルス（CMV）1 株、ヒトヘルペスウイルス（HHV）6 が 4 株、HHV-7 が 4 株であった。このうち同一患者から重複して検出された例が 5 例あり、1 例目（表中 No. 1）は髄液からは HHV-6、咽頭ぬぐい液では HRV、2 例目（No. 6）は髄液と便からは E-16 型、鼻腔ぬぐい液では HRV、3 例目（No. 7）は咽頭ぬぐい液からは Ad-2 と HRV、便では CV-A9 型、4 例目（No. 10）は咽頭ぬぐい液から CMV と HHV-6、5 例目（No. 20）は髄液からは VZV、咽頭ぬぐい液では HHV-7、6 例目（No. 21）は咽頭ぬぐい液からは HPeV-6 型と HRV、便からは HPeV-6 型が検出された。

表 無菌性髄膜炎の検出結果

No.	採取月	検体名	結果	No.	採取月	検体名	結果
1	4月	髄液	HHV-6	13	7月	髄液	CV-A9
		咽頭拭い液	HRV			咽頭拭い液	CV-A9
2	4月	髄液	CV-A9	14	7月	直腸拭い液	CV-A9
		咽頭拭い液	CV-A9			髄液	陰性
		糞便	CV-A9			咽頭拭い液	CV-A9
4	6月	髄液	CV-A9	15	7月	直腸拭い液	CV-A9
		咽頭拭い液	CV-A9			髄液	CV-B3
		糞便	CV-A9			咽頭拭い液	陰性
5	6月	髄液	陰性	16	7月	直腸拭い液	陰性
		咽頭拭い液	HHV-6			髄液	陰性
6	6月	髄液	E-16	17	8月	咽頭拭い液	Ad-3
		鼻腔拭い液	HRV			直腸拭い液	Ad-3
		糞便	E-16			髄液	陰性
7	7月	髄液	陰性	18	9月	咽頭拭い液	E-18
		咽頭拭い液	Ad-2, HRV			直腸拭い液	陰性
		直腸拭い液	CV-A9			髄液	陰性
8	7月	髄液	CV-A9	19	9月	咽頭拭い液	陰性
		咽頭拭い液	CV-A9			直腸拭い液	HPeV1
9	7月	髄液	陰性	20	9月	髄液	陰性
		咽頭拭い液	HHV-7			咽頭拭い液	HHV-6
		直腸拭い液	陰性			直腸拭い液	VZV
10	7月	咽頭拭い液	CMV, HHV-6	21	10月	咽頭拭い液	HHV-7
		直腸拭い液	陰性			直腸拭い液	陰性
11	7月	髄液	CV-A9	22	10月	咽頭拭い液	陰性
		咽頭拭い液	CV-A9			咽頭拭い液	HPeV6, HRV
12	7月	髄液	陰性	23	11月	直腸拭い液	HPeV6
		咽頭拭い液	CV-A9			髄液	HHV-7
		直腸拭い液	CV-A9			咽頭拭い液	HHV-7
						直腸拭い液	陰性

＜急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）＞

病原体定点医療機関あるいは医療機関より保健福祉事務所及びセンターに届け出があった急性脳炎患者 5 例 10 検体についてウイルス分離検査および遺伝子検査を実施したところ、3 例から 4 株のウイルスが検出された。その内訳は、サイトメガロウイルスが 1 株、ヒトヘルペスウイルス 6 が 1 株、ヒトヘルペスウイルス 7 が 2 株であった。このうち同一患者から重複して検出された例が 1 例あり、髄液からヒトヘルペスウイルス 6、咽頭ぬぐい液からサイトメガロウイルスが検出された。

(佐野貴子、嘉手苺将、渡邊寿美、近藤真規子、黒木俊郎)

② 川崎市の検出状況

川崎市健康安全研究所

＜手足口病＞

病原体定点医療機関で採取された手足口病患者検体 16 例についてウイルス分離ならびに PCR 検査を実施したところ、16 例からウイルスが検出された。その内訳はコクサッキーウイルス (C) A6 型 7 株、CA16 型 8 株、エンテロウイルス D68 型 1 株であった。

＜ヘルパンギーナ＞

病原体定点医療機関で採取されたヘルパンギーナ患者検体 3 例についてウイルス分離ならびに PCR 検査を実施したところ、3 例からウイルスが検出された。その内訳はコクサッキーウイルス (C) A5 型 2 株、CA10 型 1 株であった。

＜咽頭結膜熱＞

病原体定点医療機関で採取された咽頭結膜熱患者検体 3 例についてウイルス分離検査ならびに PCR 検査を実施したところ、3 例からウイルスが検出された。その内訳はアデノウイルス 3 型 3 株であった。

(松島勇紀、清水英明)

(5) 蚊媒介感染症

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の感染症媒介蚊のサーベイランス

神奈川県衛生研究所

デングウイルス等の感染症を媒介する蚊の生息状況調査を 5 カ所の公園で平成 27 年 7 月から 11 月まで行った。公園内の 2 カ所に CO₂トラップ (CDC 型 Model #512) を 24 時間設置して蚊を採集した。CO₂ の発生にはドライアイスを用いた。

採集された蚊総数は 435 匹で、ヒトスジシマカ (メス) は 274 匹採集された。

平成 27 年度採集場所

採集場所	
小田原市	上府中公園
平塚市	平塚総合公園
厚木市	厚木中央公園
茅ヶ崎市	茅ヶ崎中央公園
鎌倉市	源氏山公園

蚊の採集結果（公園 5 カ所 10 トラップの合計）

種類	採集数（匹）					
	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	合計
ヒトスジシマカ（メス）	24	133	57	57	3	274
その他*	32	31	33	51	14	161
合計	56	164	90	108	17	435

※：ヒトスジシマカ（オス）およびデングウイルスを媒介しない種類

（稲田貴嗣）

② 横浜市のウエストナイル熱等蚊媒介蚊のサーベイランス

横浜市衛生研究所

デングウイルス、チクングニアウイルス、日本脳炎ウイルスやウエストナイルウイルスなどの蚊媒介感染症サーベイランス事業は、平成 23 年度より横浜市内 18 区 19 ヶ所の公園等にドライアイス併用のライトトラップを設置し、開始した。平成 27 年度は 26 年夏から秋のデング熱国内発生を受けて、ライトトラップ設置場所を 6 ヶ所追加し 25 ヶ所で実施した。また、特に市内でイベントや観光客の多い公園を選択し、スイーピング法（人囿法）による蚊の採集を、研修を兼ねて実施した。

ライトトラップ法による採集は、夕方にライトトラップを公園内の適所に設置し、翌朝トラップに採集された昆虫類をすべて回収した。一連のライトトラップの設置、回収、当所への搬送に関しては、横浜市区福祉保健センター生活衛生課と協力して実施した。また、5 ヶ所については、PCO（ペストコントロール協会）が行った。

平成 27 年度のライトトラップ法での採集期間は、6 月 9 日から 10 月 28 日まで、市内 25 ヶ所で 10 回ずつ採集した。採集された昆虫類を分類し、蚊類の種別を同定した。ウイルス検査を実施した蚊雌成虫の総個体数は、8,041 匹であった。蚊の種別はアカイエカ群 1,303 匹、ヒトスジシマカ 6,072 匹、コガタアカイエカ 49 匹、ヤマトヤブカ 224 匹、オオクロヤブカ 17 匹、キンパラナガハシカ 201 匹、その他 175 匹であった。スイーピング法は 10 回実施し、検査した蚊雌成虫の総個体数は 125 匹であった。種別はアカイエカ群 2 匹、ヒトスジシマカ 120 匹、ヤマトヤブカ 1 匹、その他 2 匹であった。ウイルス検査は、種別に 50 匹までをプールし合計 261 プールについて、デングウイルスやウエストナイルウイルス、日本脳炎ウイルスを含むフラビウイルス遺伝子はコンベンショナル PCR、チクングニアウイルス遺伝子はリアルタイム PCR を実施した。結果はライトトラップ法、スイーピング法共に、ウイルス不検出であった。

表1 横浜市の蚊媒介感染症サーベイランス結果（ライトトラップ法）

		回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総計
区名		トラップ設置場所	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	
1	鶴見	大黒中央公園	23	16	6	0	9	2	16	14	4	13	103
2		馬場花木園	42	59	7	5	88	442	75	6	10	6	740
3	神奈川	三ツ沢公園	11	53	26	74	7	3	16	24	15	58	287
4	西	掃部山公園	12	51	5	69	582	370	482	68	198	69	1,906
5		臨港パーク	35	69	37	47	106	51	55	36	8	18	462
6	中	山下公園	21	17	17	31	7	16	7	15	7	16	154
7		横浜公園	6	10	12	25	40	5	8	5	4	11	126
8		港の見える丘公園	22	37	7	16	7	22	37	6	16	13	183
9		根岸森林公園公園	2	3	10	13	10	6	2	2	3	4	55
10		シンボルタワー	30	70	50	31	4	11	31	13	64	28	332
11	南	蒔田の森公園	4	11	3	49	15	48	0	4	34	10	178
12	港南	久良岐公園	11	13	5	10	39	8	48	56	21	1	212
13	保土ケ谷	陣ヶ下溪谷公園	20	27	8	15	23	26	53	0	37	13	222
14		横浜市児童遊園地	2	5	19	17	1	5	7	28	0	1	85
15	旭	こども自然公園	25	12	10	24	24	23	59	10	2	9	198
16	磯子	岡村公園	35	53	1	7	30	43	30	8	2	5	214
17	金沢	海の公園	11	31	14	1	15	48	46	17	2	17	202
18	港北	大倉山公園	24	33	54	106	49	15	12	13	14	4	324
19	緑	北八朔公園	9	33	92	12	153	40	86	24	42	20	511
20	青葉	桜台公園	0	5	7	56	162	15	14	11	5	4	279
21	都筑	都筑中央公園	11	17	256	32	86	11	11	0	0	2	426
22	戸塚	舞岡公園	0	19	8	38	23	2	1	10	4	16	121
23	栄	本郷ふじやま公園	12	22	31	11	24	20	29	37	38	31	255
24	泉	泉中央公園	2	17	3	25	90	59	35	22	2	11	266
25	瀬谷	二ツ橋南公園	1	29	14	36	46	64	5	5	0	0	200
総計			371	712	702	750	1,640	1,355	1,165	434	532	380	8,041

蚊の種類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
アカイエカ群	186	280	120	126	166	87	94	48	94	102	1,303
ヒトスジシマカ	137	367	508	527	1,427	1,187	1,032	315	352	220	6,072
コガタアカイエカ	0	6	7	1	2	4	2	14	12	1	49
ヤマトヤブカ	20	24	17	59	18	16	18	19	20	13	224
オオクロヤブカ	2	1	1	1	0	1	4	2	1	4	17
キンバラナガハシカ	16	14	35	6	11	18	5	20	38	38	201
その他（*）	10	20	14	30	16	42	10	16	15	2	175
総計	371	712	702	750	1,640	1,355	1,165	434	532	380	8,041

ウイルス遺伝子の検出結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
フラビウイルス	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
チクングニアウイルス	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

（*）その他には、カラツイエカ、フタクロホシチビカ等が含まれています。

表2 横浜市の蚊媒介感染症サーベイランス結果（スリーピング法）

No.	実施公園	回数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	総計
		月日	6/17	7/1	7/15	7/29	8/12	8/27	9/16	9/30	10/14	10/28	
		ポイント	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	匹数	
1	中区 山下公園	①	0	1	1	2	1	4	1	2	0	2	14
2		②	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
3		③	0	5	2	1	3	17	3	3	1	2	37
4		④	1	1	0	1	3	13	5	4	5	1	34
5		⑤	0	0	0	0	0	7	1	3	0	0	11
6		⑥	1	1	2	1	1	15	2	0	3	2	28
総計			2	8	5	6	8	56	12	12	9	7	125

蚊の種類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
アカイエカ群	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
ヒトスジシマカ	2	8	4	6	8	54	12	12	8	6	120
コガタアカイエカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヤマトヤブカ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
オオクロヤブカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
キンパラナガハシカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他（*）	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
総計	2	8	5	6	8	56	12	12	9	7	125

ウイルス遺伝子の検出結果	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
フラビウイルス	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
チクングニアウイルス	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

（*）破損等

（林 宏子、伊藤真弓、小曾根恵子、山本芳郎、宇宿秀三、笹尾忠由）

③ 川崎市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

川崎市健康安全研究所

市内7箇所の保健所にライトトラップを設置し、平成27年5月から10月まで蚊を毎週1回捕集した。種別した雌蚊167プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヤブカ属の蚊65プールについてはデングウイルス及びチクングニアウイルスの保有状況も併せて調査した。その結果、ウイルス遺伝子は検出されなかった。

表 川崎市のWNVサーベイランス調査における蚊の月別及び種別採取数

平成27年採取月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
川崎保健所	5	9	10	10	7	4	45
幸保健所	4	12	4	5	4	3	32
中原保健所	1	3	3	6	3	2	18
高津保健所	2	9	4	7	6	0	28
宮前保健所	2	5	5	5	3	2	22
多摩保健所	0	4	0	1	0	2	7
麻生保健所	1	3	4	4	1	2	15
合計	15	45	30	38	24	15	167

蚊の種類(雌雄合計匹数)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
アカイエカ群	7	51	18	26	16	3	121
ヒトスジシマカ	56	418	410	881	494	53	2312
コガタアカイエカ	0	0	0	0	2	1	3
キンバラナガハシカ	1	1	0	0	0	0	2
ヤマトヤブカ	0	8	1	0	0	3	12
カラツイエカ	0	0	1	0	0	0	1
総計	64	478	430	907	512	60	2451
ウエストナイルウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

(駒根綾子、清水英明)

④ 相模原市の Dengue 熱等媒介蚊のサーベイランス

相模原市衛生研究所

Dengue 熱等媒介蚊の調査のため、平成 27 年 6 月から 10 月まで、市内各区一箇所の公園（緑区は 2 箇所の公園を隔月で実施）で、Dengue ウイルス等を媒介するヒトスジシマカ雌のウイルス保有状況を調査した。6 月はドライアイス併用 CDC 型ライトトラップ法と人囿法を併用し、以降の月は人囿法のみで実施した。採取後の蚊を分類した後、Dengue ウイルス及びチクングニアウイルスの遺伝子検査を実施したが、いずれも陰性だった。

表 相模原市の Dengue 熱等媒介蚊検査結果（平成 27 年）

採取月（ヒトスジシマカ雌数）	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	総計
相模原北公園（緑区）	5	—	25	—	6	36
相模湖林間公園（緑区）	—	0	—	5	—	5
淵野辺公園（中央区）	5	6	10	10	2	33
相模大野中央公園（南区）	11	24	6	11	2	54
合計	21	30	41	26	10	128
遺伝子の検出結果						
Dengue ウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

（鈴木敏彦、山口加奈枝）

⑤ 横須賀市のウエストナイル熱等媒介蚊のサーベイランス

横須賀市健康安全科学センター

ウエストナイル熱等媒介蚊の調査として平成 27 年 6 月より 10 月まで計 5 回実施した。設置場所は三笠公園敷地内、動物愛護センター敷地内、くりはま花の国敷地内およびソレイユの丘敷地内とし、蚊を捕獲（ドライアイス併用 CDC 型ライトトラップ法）、分類した後、RT-PCR 法によるウエストナイルウイルス遺伝子検査、Dengue ウイルス遺伝子検査及びチクングニアウイルス遺伝子検査を実施した。結果は、表に示すとおり捕獲した 124 匹の蚊（アカイエカ 39 匹、ヒトスジシマカ 80 匹、ヤマトヤブカ 1 匹、オオクロヤブカ 2 匹、キンパラナガハシカ 1 匹、ヤブカ類 1 匹）からウエストナイルウイルス、Dengue ウイルス及びチクングニアウイルスの遺伝子は検出されなかった。

表 ウエストナイル熱等媒介蚊検査結果（平成 27 年）

設置回数		1	2	3	4	5	総計（匹）
設置月		6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	
設置場所	三笠公園	1	6	34	7	3	51
	動物愛護センター	2	2	29	5	4	42
	くりはま花の国	3	6			1	10
	ソレイユの丘	3		17		1	21
総計		9	14	80	12	9	124
内訳	アカイエカ	4		29		6	39
	ヒトスジシマカ	5	11	50	12	2	80
	ヤマトヤブカ		1				1
	オオクロヤブカ		2				2
	キンパラナガハシカ			1			1
	ヤブカ類					1	1
ウエストナイルウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス遺伝子検査結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

（天野 肇）

（6）その他のウイルス性感染症

（6）-1

① 神奈川県日本脳炎感染源調査

神奈川県衛生研究所

わが国の日本脳炎患者数は、1950 年代には年間数千人の発生があったが、1967 年から 1976 年に実施された積極的なワクチン接種により患者は急速に減少し、1980 年代には年間数十人となった。1992 年以降は毎年 10 名以下の患者発生に留まり、患者発生地域は西日本に集中している。ブタは日本脳炎ウイルスに対する感受性が高く日本脳炎ウイルスの主要な増幅動物とされ、ブタ体内で増殖したウイルスは、蚊の吸血行動によりヒトや他の動物へ感染する。日本脳炎ウイルスの侵淫状況を把握し、ヒトへの感染予防の注意を促すため、県内産の豚について日本脳炎ウイルスの抗体保有状況を調査した。

神奈川食肉センターに持ち込まれた生後 5～8 ヶ月齢の県内産の豚を対象に、平成 27 年 7 月から 9 月までの期間に、8 回、20 頭ずつ、計 160 頭について、血中の JaGAr01 株に対する抗体調査を実施した。その結果、今年度は血球凝集抑制抗体および 2-メルカプトエタノール感受性抗体は検出されず、県内における日本脳炎ウイルスの活動は確認されなかった。県内では平成 27 年度も患者発生はなかったが、関東地方では、平成 20 年以降 7 年ぶりに患者発生があった。患者は千葉県在住のワクチン未接種の 0 歳児で平成 27 年 8 月に発症していた。千葉県の平成 27 年日本脳炎感染源調査では、抗体保有率が 7 月は 0%、8 月は 0%～20%、9 月は 25%～90%であり、抗体を保有するブタが千葉県内にいたと思われる。

西日本では例年同様に日本脳炎ウイルス抗体保有率が高く、患者発生もあることから、引き続き豚の日本脳炎ウイルスの抗体保有状況調査を行い、日本脳炎ウイルスの侵淫度について追跡する必要があると思われる。

(鈴木理恵子、木村睦未、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎)

(6)-2

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の麻疹疑い患者からの麻疹ウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）では国の通知に基づき、麻疹疑い例報告例についてPCR検査を実施している。2015年に当所に搬入された麻疹疑い報告例25例について麻疹ウイルス遺伝子の検査を実施したところ4例（2月、3月、4月、6月各1例）から麻疹ウイルスが検出された。検出された麻疹ウイルスについて系統樹解析を行ったところ、D8型が2例、H1型が2例であった。海外渡航歴があった症例は、2月（H1型：中国）と3月（D8型：インドネシア）に発症した2例で、4月（D8型）と6月（H1型）に発生した2例には渡航歴はなく、感染経路は不明であった。

麻疹ウイルス遺伝子が検出されなかった21例について、麻疹と臨床症状の類似した風疹ウイルスについてPCR検査を行ったが、風疹ウイルスは検出されなかった。神奈川県では2011年から2B型が検出され、2013年まで風疹の流行が続いていたが、2014年以降の患者数は減少している。

(鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎)

② 川崎市の麻疹ウイルス検出状況

川崎市健康安全研究所

平成27年に川崎市内の医療機関において麻疹と診断された13例について麻疹ウイルス遺伝子検査を行ったところ、すべての検体で麻疹ウイルスは検出されなかった。原因ウイルスを特定する目的で他の発熱発疹性ウイルスの検査を行ったところ、EBウイルス1例、サイトメガロウイルス1例、ヒトヘルペスウイルス7型2例が検出された。麻疹・風疹については排除を目的にワクチンの積極的な接種キャンペーンを行っており、その成果が表れている。

(松島勇紀、清水英明)

③ 相模原市の麻疹ウイルス検出状況

相模原市衛生研究所

平成27年に相模原市内の医療機関において麻疹と臨床診断された4例のべ8検体について麻疹ウイルス遺伝子検査を実施したが、麻疹ウイルスは検出されなかった。なお、追加検査として風疹ウイルス遺伝子検査を実施したが、風疹ウイルスも検出されなかった。

(荒川小夜子、望月響子、鈴木敏彦)

(6)-3

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市及び横須賀市を除く）の麻疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

麻疹流行の予測とその推移を知るため、住民の麻疹ウイルスに対する感受性の実態を把握しておくことは重要である。平成 27 年 7 月に採取された小児（0～14 歳以下）115 名および 15 歳以上の一般健康人 240 名の血清計 355 例について、麻疹ウイルス抗原を吸着したゼラチン粒子による凝集反応（PA）法を用いて麻疹ウイルスに対する抗体の測定を行った。

年齢別に PA 抗体価 1：16 以上の抗体保有率をみると、麻疹ワクチン接種前の 1 歳未満の乳児の抗体保有率は 62.5%であり、これらの多くは母子移行抗体であると考えられる。

第 1 期のワクチン接種対象年齢層（1 歳～4 歳）では、ワクチン接種開始年齢である 1 歳児の抗体保有率は 64.3%と低いものの、2 歳～4 歳では 96.8%と高くなっていた。第 2 期のワクチン接種対象年齢を含む 5 歳～9 歳の年齢群の抗体保有率は 100%で、第 1 期、第 2 期とワクチンを 2 回接種することで、抗体保有率が高くなっている。しかし、2015 年に 10 歳～24 歳に達した年齢群は、2012 年までの麻疹排除計画により 2 回のワクチン接種機会があった年齢層であるが、10 歳～14 歳の年齢群の抗体保有率は 90.0%と低く、15 歳～19 歳では 100%、20 歳～24 歳では 96.7%であった。25 歳以上の群では 93.3%～100%、全年齢層の平均抗体保有率は 94.1%であり、昨年の 87.2%、一昨年の 90.7%と比べ上昇していた。しかし、全国の 2014 年度感染症流行予測調査の報告（速報）では、全体の抗体保有率（抗体価 1：16 以上）は、2011 年度以降 4 年連続で 95%以上を保っているが、神奈川県での抗体保有率は 3 年連続して全国平均を下回っていた。

麻疹の発症予防の目安とされる 1：128 以上の抗体保有率は、全国では 2 歳以上では 14 歳を除くすべての年齢層で 80%以上であるのに対し、神奈川県では 2 歳以上の年齢層の平均は 81.8%であったが、年齢群 11 区分のうち 4 区分（10 歳～14 歳、25 歳～29 歳、30 歳～34 歳、40 歳～49 歳）で 80%を下回っていた。

2015 年 3 月 27 日、日本は世界保健機関西太平洋地域事務局（WPRO）によって、麻しん排除国と認定された。麻しん排除国としての認定は、2007 年の大流行以降、様々な取り組みが行われた成果であるが、日本において麻しん患者の発生が全く無くなったということではない。世界のいくつかの地域では現在でも麻しんの流行が続いており、これが日本に持ち込まれ、流行する恐れがあり、国内での二次感染を防ぐためには、2 回のワクチン接種が効果的である。神奈川県における麻疹抗体保有率は例年低く、今後も継続して麻疹ウイルスに対する抗体保有状況を調査するとともに、予防接種の必要性和麻疹に関する適切な知識を普及させることが重要である。

表 麻疹ウイルス抗体保有状況（平成 27 年 7 月）

年齢	抗体価		PA抗体価							検査数 (人)	抗体保有率 (%) 1:16 以上	抗体保有率 (%) 1:128 以上
	<16	16	32	64	128	256	512	1024	≥2048			
1歳未満	6	2		2	3		1	1	1	16	62.5	37.5
1歳	5	1		1		2	2	3		14	64.3	50.0
2～4歳	1	2	1	2	2	1	3	11	8	31	96.8	80.6
5～9歳			1	2	4	5	8	2	2	24	100.0	87.5
10～14歳	3		3	3	3	8	7	2	1	30	90.0	70.0
15～19歳			2		2	10	13	3		30	100.0	93.3
20～24歳	1		1	2	3	4	11	6	2	30	96.7	86.7
25～29歳	1	2	3	1	10	6	5	1	1	30	96.7	76.7
30～34歳	1	1	2	5	7	5	4	3	2	30	96.7	70.0
35～39歳	2			3	5	4	9	5	2	30	93.3	83.3
40～49歳		1	1	5	7	5	4	3	4	30	100.0	76.7
50～59歳	1			1	3	5	8	5	7	30	96.7	93.3
60歳以上			1	4	3	10	5	5	2	30	100.0	83.3
計	21	9	15	31	52	65	80	50	32	355	94.1	78.6

（鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

(6)-4

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の麻疹ウイルス抗体保有状況

神奈川県衛生研究所

麻疹流行の予測とその推移を知るため、住民の麻疹ウイルスに対する感受性の実態を把握しておくことは重要である。平成 27 年においては、一般健康人男女 355 名を対象として、麻疹ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体の測定を行った。

年齢別に HI 抗体価 1 : 8 以上の抗体保有率をみると、麻疹ワクチン接種前の 1 歳未満の乳児の抗体保有率は 50.0%であり、これらの多くが母子移行抗体であると考えられる。

第 1 期のワクチン接種対象年齢層（1 歳～4 歳）では、ワクチン接種開始年齢である 1 歳児の抗体保有率は 50.0%と低いものの、2 歳～4 歳では 83.9%、5 歳～9 歳では 95.8%、10 歳～14 歳では 90.0%、15 歳～19 歳では 93.3%であった。

ワクチン接種機会のなかった 40 代、50 代の抗体保有率（76.7%、80.0%）は低く、全年齢層の平均抗体保有率は 83.9%で低くなったが、昨年の 81.3%に比べ増加していた。

また男女別の平均抗体保有率をみると、男性では 77.1%と低いが、女性では 90.9%と高く、女性の 5 歳～9 歳、15 歳～24 歳、30 歳～39 歳では 100%であった。

全国の 2014 年度感染症流行予測調査報告書（速報）によると、2 歳から 20 代のワクチン対象年齢層では抗体保有率に男女差はみられず、30 歳～50 歳代前半の年齢群で女性の抗体保有率が高い傾向にあると報告されているが、今回の調査ではほとんどの年齢層で女性の方が高い傾向にあった。

抗体保有率の低い層は今後の感染と流行の主体になると考えられ、これらの年齢層別の抗体保有状況

を引き続き監視するとともに、妊娠前および妊娠可能年齢層への風疹ワクチン接種を継続して奨励する必要があると思われる。

表 風疹ウイルス抗体保有状況（平成27年7月）

年齢	抗体価		HI抗体価							検査数 (人)	抗体 保有率 (%)
	<8	8	16	32	64	128	256	512	≥1024		
1歳未満	8	3	1	1		3				16	50.0
1歳	7			2	1	3	1			14	50.0
2～4歳	5	5		9	1	6	3	1	1	31	83.9
5～9歳	1	2	4	1	9	5	2			24	95.8
10～14歳	3	4	1	12	5	3	2			30	90.0
15～19歳	2	7	4	6	5	6				30	93.3
20～24歳	4	2	3	9	4	6	1	1		30	86.7
25～29歳	5	2	4	6	7	4	2			30	83.3
30～34歳	2		2		5	12	6	2	1	30	93.3
35～39歳	4	1	4	3	5	9	3	1		30	86.7
40～49歳	7	1	1	4	5	7	2	3		30	76.7
50～59歳	6	1	1	3	3	7	4	3	2	30	80.0
60歳以上	3	1	3	2	4	7	4	3	3	30	90.0
計	57	29	28	58	54	78	30	14	7	355	83.9

（鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

(6)-5

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）のデングウイルス検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県（横浜市、川崎市、横須賀市、相模原市を除く）では、デング熱疑い患者発生に伴い、デングウイルス抗原検査およびPCR検査を実施している。平成27年に当所に搬入されたデング熱疑い症例9例（いずれも海外渡航例）で、内7例からデングウイルス非構造蛋白抗原および遺伝子が検出され、血清型はD1型2例、D2型3例、D4型2例であった。感染推定地は、タイ（D2型2例、D4型）、インドネシア（D1型、D2型）、フィリピン（D1型、D4型）であった。デングウイルスが検出されなかった2例について、チクングニアウイルス遺伝子検査を実施したが検出されなかった。

（鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

2 細菌性感染症

(1) 腸チフス・パラチフス

① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)のチフス菌等のフェージ型別結果

神奈川県衛生研究所

平成 27 年 1 月～12 月の間、神奈川県ではパラチフス A 菌感染事例が 1 件報告された。患者の海外渡航先は、ベトナム及びカンボジアであった。

表 平成 27 年に分離されたパラチフス A 菌

所轄保健福祉事務所 センター	性別	年齢	菌種	フェージ型	渡航歴
秦野	男	51	パラチフスA菌	2	ベトナム・カンボジア

(古川一郎、鈴木美雪、石原ともえ)

② 横浜市のチフス菌等のフェージ型別結果

横浜市衛生研究所

平成 27 年 1 月～12 月の間に横浜市内で分離されたチフス菌は 1 件、パラチフス A 菌は 8 件(複数検体から分離された件もあるため 12 株)であった。海外渡航先等患者情報とフェージ型別内訳は表に示したとおりである。パラチフス A 菌は、11 月分離の 1 株を除き、そのほとんどがナリジクス酸とシプロフロキサシンに耐性を示し、フルオロキノロン耐性菌が増加している傾向がうかがわれた。

表 チフス菌、パラチフスA菌のフェージ型

番号	分離月日	性別	年齢	疾病名	フェージ型	渡航歴
1	H27. 2. 10	男	27	腸チフス	A	インドネシア
2	H27. 2. 15	男	32	パラチフス	1	インド
3	H27. 2. 23	男	41	パラチフス	1	ミャンマー
4	H27. 3. 10	男	32	パラチフス	1	ミャンマー
5	H27. 6. 3	女	39	パラチフス	1	ミャンマー
6	H27. 6. 3	女	2	パラチフス	1	ミャンマー
7	H27. 6. 14	男	21	パラチフス	2	インド
8	H27. 6. 19	男	11	パラチフス	1	ミャンマー
9	H27. 11. 30	男	52	パラチフス	1	フィリピン・インドネシア

(松本裕子、山田三紀子、太田嘉)

③ 川崎市のチフス菌等のファージ型別結果

川崎市衛生研究所

平成 27 年 1 月～12 月の間に川崎市ではチフス菌事例の発生は認められなかった。

(本間幸子、湯澤栄子、窪村亜希子、小河内麻衣、安澤洋子)

(2) 細菌性腸管系感染症

① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の腸管出血性大腸菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 27 年 1 月から 12 月における腸管出血性大腸菌 (*Enterohemorrhagic Escherichia coli*: EHEC) の分離状況を以下の表に示した。EHEC の受領株数および接触者検便で分離された株数は、O157 が 20 株、O26 が 13 株、O103 が 1 株、O111 が 3 株、O146 が 1 株の計 38 株であった。表に所轄保健福祉事務所及びセンターの分離株数と毒素型を示した。すべての菌株について PFGE パターンを比較し、さらに O157 については IS- printing によりパターンを比較した結果、同じ起源と考えられる O157 の菌株グループが複数確認されたが、いずれも聞き取り調査の結果からは関連性を確認することはできなかった。

表 所轄保健福祉事務所及びセンターからの EHEC 受領状況

所轄保健福祉事務所 センター	O157			O26	O103	O111	O146	計
	VT1	VT2	VT1&2	VT1	VT1	VT1&2	VT1	
平塚		1	5			2		8
秦野				1			1	2
鎌倉		1						1
小田原			3	8		1		12
足柄上			1	4				5
茅ヶ崎			3					3
厚木	1	2	3		1			7
計	1	4	15	13	1	3	1	38

(古川一郎、佐多辰、小松祐子、鈴木美雪、政岡智佳、石原ともえ)

② 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の赤痢菌及びコレラ菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成 27 年 1 月から 12 月において神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)に送付あるいは接触者検便から当所で分離された赤痢菌株は 3 株(表)で、*Shigella sonnei* が 3 株であった。渡航歴およびその他の情報は表に示した。

表 赤痢菌の血清型及び患者渡航歴

所轄保健福祉事務所 センター	性別	年齢	菌種	渡航歴
平塚	女	5	<i>Shigella sonnei</i>	なし
秦野	男	43	<i>Shigella sonnei</i>	なし
三崎	女	22	<i>Shigella sonnei</i>	タイ・ベトナム・カンボジア

平成27年1月から12月に神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)において、コレラ菌が検出された事例は認められなかった。

(古川一郎、佐多辰、小松祐子、政岡智佳、石原ともえ)

③ 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)の散発下痢症患者からの病原菌検出状況

神奈川県衛生研究所

平成27年1月から12月の間に、神奈川県の小児科定点医療機関から依頼された散発下痢症患者便について腸管系病原菌検査を行った。病原菌の分離・同定は常法により行った。平成27年4月から、下痢原性大腸菌の検査法として病原因子の遺伝子検査が加わり、そこで得られた詳細な結果を基に分類することとなった。

病原菌の検出数は100件中29件(29.0%)であり、その内訳は病原大腸菌25件、カンピロバクター・ジェジュニ5件、エロモナス属菌1件であった。同一患者から重複して分離された事例は、病原大腸菌06とカンピロバクター・ジェジュニの重複が1件、病原大腸菌025とカンピロバクター・ジェジュニの重複が1件認められた。

病原大腸菌25株のうち1月から3月に検出された3株の血清型の内訳は、025(2株)および0111(1株)であった。4月から12月に検出された22株の血清型及び病原因子の内訳は、06(2株)、08(1株)、025(3株)、055(1株)、0124(1株)、0125(1株)、0137(1株)、0146(1株)、0152(1株)、0153(2株)、01・*astA*遺伝子陽性(1株)、015・*afa*遺伝子陽性(1株)、0126・*astA*遺伝子陽性(1株)、0型別不能・*aggR*遺伝子陽性(1株)、0型別不能・*astA*遺伝子陽性(2株)、および0型別不能・*eae*遺伝子陽性(2株)であった。

表 散発下痢症患者からの病原体分離状況

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体数	16	5	9	7	5	20	5	4	3	2	5	19	100
陽性検体数	2	1	0	2	2	6	2	2	2	0	2	8	29
%	12.5	20.0	0.0	28.6	40.0	30.0	40.0	50.0	66.7	0.0	40.0	42.1	29.0
検出病原体内訳													
下痢原性大腸菌	2	1	0	2	1	4	2	1	2		2	8	25
カンピロバクター・ジェジュニ					1	2		1				1	5
エロモナス属菌						1							1

(古川一郎、鈴木美雪、政岡智佳、石原ともえ)

④ 横浜市の腸管出血性大腸菌検出状況

横浜市衛生研究所

平成 27 年 1 月～12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は 137 株であった。その血清型と毒素型は表のとおりであり、0 群別では例年どおり 0157 が一番多く 115 株 (83.9%) であった。次いで 026 が 8 株 (5.8%)、0145 が 5 株 (3.6%) となり、全国的な傾向と同様であった。これら主要 3 血清群以外に 5 血清群の菌が分離された。本年の主な事例としては、市内で焼肉店を原因とした食中毒が発生し、IS-printing と PFGE による解析で同一感染源であることが確認された。また、保育園において血清型 0157 : H7 VT2 株による集団感染事例があり、患者発生状況から食中毒ではなく、ヒト-ヒト、ヒト-環境-ヒトと感染が広がったのではないかと推定された。

表 腸管出血性大腸菌の血清型

血清型	毒素型	菌株数
0157 : H7	VT1&2	41
0157 : H7	VT2	65
0157 : H-	VT1&2	4
0157 : H-	VT1	4
0157 : H-	VT2	1
026 : H11	VT1	6
026 : H-	VT1	1
026 : H21	VT1	1
0121 : H19	VT2	4
0145 : H-	VT2	3
0145 : H-	VT1	2
0103 : H2	VT1	2
0146 : H-	VT1&2	1
055 : H+	VT1	1
0171 : H2	VT2	1
計		137

(松本裕子、山田三紀子、小川敦子、小泉充正、太田嘉)

⑤ 横浜市の赤痢菌及びコレラ菌検出状況

横浜市衛生研究所

平成 27 年 1 月～12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した赤痢菌は 6 株であり、その菌種は表のとおり全て *Shigella sonnei* であった。

10 月に分離された *S. sonnei* の患者 2 人は渡航歴がなく国内発生が示唆された。

表 赤痢菌の菌株情報

番号	分離月日	性別	年齢	菌種	血清型	渡航歴
1	H27. 4. 11	男	21	<i>S. sonnei</i>		フィリピン
2	H27. 8. 19	女	32	<i>S. sonnei</i>		ベトナム
3	H27. 9. 27	男	23	<i>S. sonnei</i>		インド
4	H27. 10. 9	男	29	<i>S. sonnei</i>		無し
5	H27. 10. 21	男	50	<i>S. sonnei</i>		無し
6	H27. 10. 30	男	29	<i>S. sonnei</i>		世界一周（インドでの感染疑い）

（松本裕子、山田三紀子、太田嘉）

平成 27 年 1 月～12 月までに横浜市内の病院等で分離され当所に搬入されたコレラ菌は 1 株であり、表のとおりであった。フィリピンに渡航歴があり、海外からの持ち込み事例であると思われる。

表 コレラ菌の菌株情報

番号	分離月日	性別	年齢	血清型	O1生物型	渡航歴
1	H27. 3. 3	男	60	O1 小川	エルトール	フィリピン

（松本裕子、山田三紀子、太田嘉）

⑥ 川崎市の腸管出血性大腸菌検出状況

川崎市健康安全研究所

平成 27 年 1 月～12 月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は 44 株であり、その血清型と毒素型は表のとおりである。最も多い血清型は O157 の 30 株（68.2%）であり、次いで O26 が 7 株（15.9%）であった。

今年は家族内事例を除き、集団事例は認められず、すべて散発事例であった。

表 腸管出血性大腸菌の血清型

血清型	毒素型	株数
O157:H7	VT1&2	14
O157:H7	VT2	13
O157:H-	VT1&2	2
O157:H-	VT2	1
O26:H11	VT1	5
O26:H-	VT1	2
O111:H-	VT1&2	2
O121:H19	VT2	2
O113:H21	VT2	1
O168:H8	VT2	1
O91:H14	VT1	1
計		44

(本間幸子、湯澤栄子、窪村亜希子、小河内麻衣、安澤洋子)

⑦ 川崎市の赤痢菌及びコレラ菌検出状況

川崎市健康安全研究所

平成27年1月～12月までに川崎市内の医療機関等で分離され当所に搬入された菌株及び、当所で検便から分離した赤痢菌は4株(患者除菌確認検便検査で再度菌分離された1事例含む)であり、その菌種及び血清型は表のとおりである。患者は3名とも海外渡航歴があり、渡航先はミャンマー、インド、中国であった。

なお、平成27年1月～12月までに川崎市において、コレラ菌が検出された事例は認められなかった。

番号	分離日	性別	年齢	菌種	血清型	渡航先
1	H.27. 3. 5	男	61	<i>S. sonnei</i>	I	ミャンマー
2	H.27. 8. 31	女	37	<i>S. sonnei</i>	—	インド
3	H.27. 9. 24	女	21	<i>S. sonnei</i>	I	インド、中国

(本間幸子、湯澤栄子、窪村亜希子、小河内麻衣、安澤洋子)

⑧ 相模原市の腸管病原菌検出状況（三類感染症発症者の家族等の病原菌検索）

相模原市衛生研究所

感染症法に基づく感染症病原菌検索として、発症者の陰性確認、発症者の家族、家族以外の接触者の便検査を実施した。

平成 27 年 1 月から 12 月までの検査対象は腸管出血性大腸菌（O26、O55、O157）、赤痢菌、チフス菌及びパラチフス A 菌で 18 事例あり、検査対象はのべ 76 検体であった。うち、6 検体から腸管出血性大腸菌 O157（VT1&VT2）が検出された。

月別の検査状況は表のとおりであった。

表 相模原市の三類感染症病原菌検査状況（ ）は検出数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
事例数		1			1	1	7	3	2		2	1	18
腸管出血性大腸菌						2 (2)	25 (4)	5	6		2	17	57 (6)
赤痢菌							2	5	2		1		10
チフス菌		1											1
パラチフス A 菌		1			4	3							8

（金沢聡子、佐藤宏樹、田村有美）

⑨ 横須賀市の散発下痢症・接触者等からの腸管系病原菌検出状況

横須賀市健康安全科学センター

横須賀市内各医療機関から提出された下痢・腹痛を主症状とする患者糞便と菌株、感染症法に基づく発症者、発症者家族及び接触者の糞便を対象に腸管系病原菌検査を実施した。実施期間は平成 27 年 1 月から 12 月で、これらの結果について報告する。材料は菌株 8 件、糞便 7 件の合計 15 件であった。病原菌分離・同定は常法により行った。

病原菌検出状況を表 1 に示す。検査した 15 件から腸管系病原菌が 3 株検出された。陽性株の内訳は、腸管出血性大腸菌が 1 株、腸管病原性大腸菌が 2 株であった。

検出病原菌の血清型を表 2 に示す。検出された腸管出血性大腸菌は O157:H7 が 1 株、腸管病原性大腸菌は O157:HUT が 2 株であった。

表 1. 散発下痢症・接触者等からの腸管系病原菌検出状況（平成 27 年 1 月～12 月）

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
検体件数	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	2 (0)	4 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	15 † (0)
陽性株数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)
陽性株内訳													
腸管出血性大腸菌							1 (0)						1 (0)
腸管病原性大腸菌											2 (0)		2 (0)

備考： † 印の内訳（菌株 8 件、糞便 7 件）

（ ）は海外渡航者由来を示す。

表2. 検出病原菌の血清型 (平成27年 1月～12月)

病原菌	株数	血清型
腸管出血性大腸菌	1	0157:H7 (1)
腸管病原性大腸菌	2	0157:HUT (2)

備考：()は菌株数を示す。

(片倉孝子、金川治義、宍戸みずほ)

⑩ 藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況

藤沢市保健所

平成27年1月から12月の間に発生した三類感染症の患者、患者の陰性化確認及び患者家族の病原菌検出状況について報告する。

検査対象の事例数及び検体数は13事例23検体で、病原菌検出状況は表1に示したとおりである。

当所で検便から分離した腸管出血性大腸菌は4株であり、その血清型と毒素型は表2のとおりである。

表 藤沢市の腸管病原菌（三類感染症）検出状況

No	病原菌	事例数	検体数	陽性数
1	赤痢菌	2	2	0
2	コレラ菌	1	1	0
3	腸管出血性大腸菌 0157	7	16	3
4	腸管出血性大腸菌 026	3	4	1
計		13	23	4

表2 腸管出血性大腸菌の血清型

血清型	毒素型	株数
0157:H7	VT2	1
0157:H7	VT1&2	2
026:H11	VT1	1
計		4

(平井有紀、松葉友美、水上稚子、佐藤健)

(3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

定点当たりの患者報告数によると、第10週に定点あたり3.2、第23週及び第24週に3.5、第50週に3.02と複数のピークがみられた。年齢別では、4歳から6歳を中心に報告が多かった。

① A群溶血レンサ球菌の分離及びT型別成績

神奈川県衛生研究所

溶血レンサ球菌レファレンスセンター（関東甲信静支部）活動の一環として平成27年におけるA群溶血レンサ球菌分離及びT型別成績について県内5施設の情報をまとめた。県内の感染症発生動向調査におけるA群溶血レンサ球菌の分離株数は、神奈川県衛生研究所（124株）、横浜市衛生研究所（55株）、川崎市健康安全研究所（11株）及び相模原市衛生試験所（5株）の計195株で、昨年の110株に比べ増加した。図1に分離株数及びT型別の成績を示した。なお、横須賀市健康安全科学センターでは分離はなかった。

T型別が決定した株数は、152株で9種類（1型、2型、3型、4型、6型、11型、12型、28型、B3264型）のT型に分類され、型別不能（UT）は43株であった。これらのうち、T1型が39株（20.0%）と最も多く、以下T3型が32株（16.4%）、T4型が29株（14.9%）の順で、これら3血清型で全体の51.3%を占めた。

最近4年間のT型の経年推移を図2、図3に示した。例年、検出数、検出率ともに、T1、T4とT12型が高い傾向にあるが、平成27年はT3型及び型別不能も高い傾向にあった。

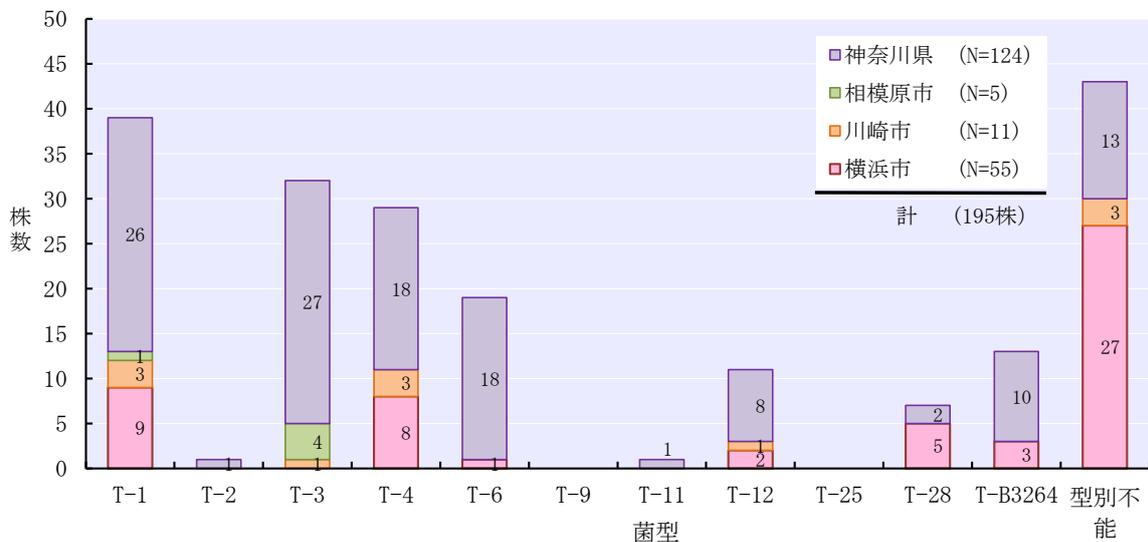


図1 A群溶血レンサ球菌T型の検出状況(平成27年1~12月)

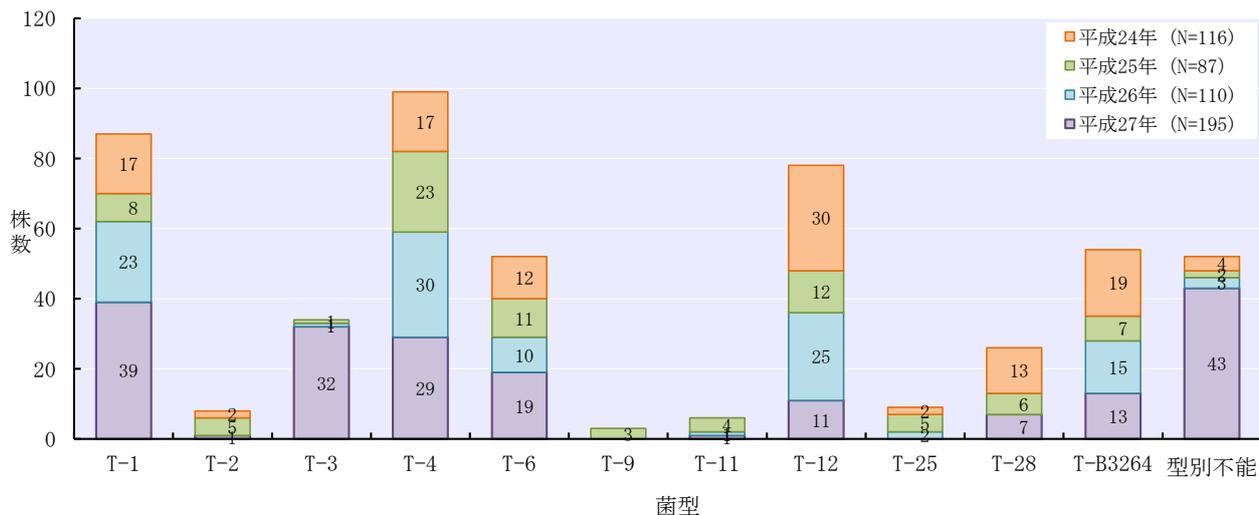


図2 A群溶血レンサ球菌T型検出数の経年推移 (平成24～27年)

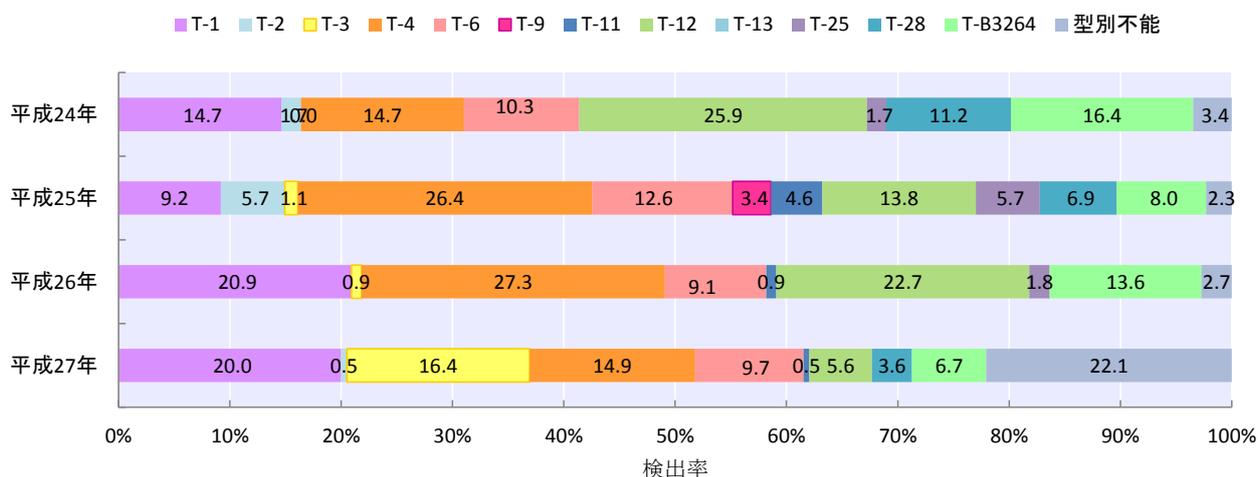


図3 A群溶血レンサ球菌T型検出率の経年推移 (平成24～27年)

(大屋日登美、鈴木美雪、相川勝弘、黒木俊郎)

② 横浜市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎

横浜市衛生研究所

横浜市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。平成27年1月から12月までの検出状況は咽頭炎、発疹、発熱等の症状があり、溶血性レンサ球菌の依頼があった52件のうち、A群溶血性レンサ球菌は41件から分離された。そのT型別は表のとおりであった。

表 A群溶血性レンサ球菌のT型別結果

	T1	T4	T6	T12	T28	TB3264	T型別不能	計
H27年1～12月	3	8	1	2	2	2	23	41

(松本裕子、山田三紀子、太田嘉)

③ 川崎市のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎

川崎市健康安全研究所

川崎市における感染症発生動向調査の一環として、定点医療機関において咽頭ぬぐい液を採取し当所に搬入された検体について溶血性レンサ球菌の検索を実施した。平成27年1月から12月までに搬入された検体12件中11件からA群溶血性レンサ球菌が分離された。そのT型別はT-1が3件、T-3が1件、T-4が3件、T-12が1件、型別不能が3件であった。

(宮下安子、淀谷雄亮、原俊吉)

(4) 結核

① 神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)におけるQFT検査成績

神奈川県衛生研究所

結核感染診断法としてInterferon-gamma release assay (IGRA)が開発され、現在国内ではクオンティフェロン®TB-ゴールド:QFT-3G(以下QFTとする)とT-スポット®.TB(T-SPOT)が使用されている。これらは、従来のツベルクリン反応検査よりも信頼性が高く、結核予防対策上の有用性が期待されており、「結核に関する特定感染症予防指針(2011年5月改正)」においても、IGRAを積極的に活用することが重要であるとされている。当所では、各保健福祉事務所及びセンターの結核接触者健康診断(健診)に対応するため、QFT検査を実施している。

神奈川県(横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く)では検査検体数が年々増加していたが、平成27年の検査検体数は1,414検体で、平成26年より減少した。検査結果は、陽性が130検体(9.2%)、判定保留が128検体(9.1%)、陰性が1,150検体(81.3%)、判定不可が6検体(0.4%)であった(表)。

平成25年から平成27年の被験者と患者の接触場所別事例数を図に示した。平成27年の事例を接触場所別にみると延べ343事例となり、その内訳は、前年同様に家庭が179事例と最も多く、医療機関43事例、職場35事例であった。1事例あたりの検体数は、職場が8.0検体と最も多く、医療機関が5.9検体、家庭が2.5検体であった。接触場所別の陽性率は、職場が9.7%(27検体/279検体)と最も高く、家庭が8.9%(39検体/439検体)、医療機関が5.5%(14検体/253検体)であった。

表 結核接触者健診におけるQFT検査結果(平成25～27年)

年	事例数	検体数	陽性		判定保留		陰性		判定不可	
			検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)	検体数	(%)
平成25年	222	1,151	99	(8.6)	100	(8.7)	944	(82.0)	8	(0.7)
平成26年	254	1,546	161	(10.4)	142	(9.2)	1,229	(79.5)	14	(0.9)
平成27年	279	1,414	130	(9.2)	128	(9.1)	1,150	(81.3)	6	(0.4)
合計	755	4,111	390	(9.5)	370	(9.0)	3,323	(80.8)	28	(0.7)

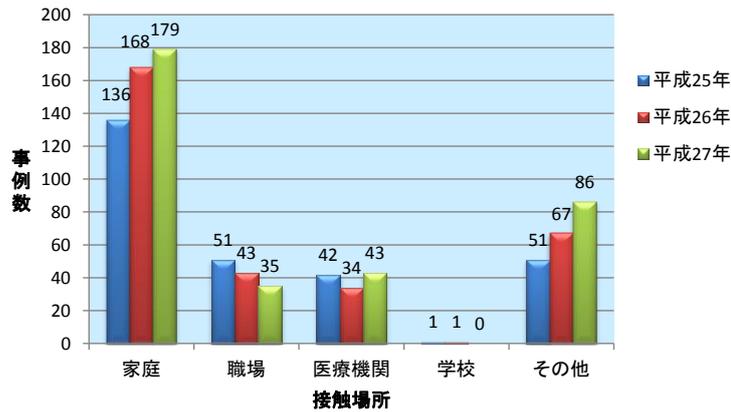


図 被験者と患者の接触場所別事例数 (平成25-27年)

(相川勝弘、稲田貴嗣、大屋日登美、鈴木美雪、浅井良夫、黒木俊郎)

② 川崎市におけるT-SPOT.TB検査成績

川崎市健康安全研究所

川崎市では平成19年から結核接触者健診におけるQFT検査を実施していたが、平成25年12月からはT-SPOT.TB検査に変更した。平成27年は、検査件数816件、陽性58件(7.1%)、陽性判定保留34件(4.2%)、陰性判定保留44件(5.4%)、陰性660件(80.9%)、判定不可20件(2.5%)であった。

表 結核接触者健診におけるT-SPOT.TB検査結果(平成27年)

総数	陽性		陽性判定保留		陰性判定保留		陰性		判定不可	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
816	58	7.1	34	4.2	44	5.4	660	80.9	20	2.5

(宮下安子、淀谷雄亮、原俊吉)

(5) 百日咳

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）の百日咳検査成績

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関及び医療機関からの百日咳を疑う患者検体について、培養法、IS48I-PCR 法及び Ptp1/p2-PCR 法による検査を実施している。平成 15 年から平成 17 年までは検体はなく、18 年に 3 検体、19 年に 49 検体でいずれも陽性検体はなかった。平成 20 年以降、病原体が分離培養及び PCR で検出されるようになった。平成 27 年は、3 検体を検査し、培養法、IS48I-PCR 法ともに全て陰性であった。この 6 年間における検体数は 22 年が 38 検体、23 年は 80 検体、24 年は 51 検体、25 年は 11 検体、26 年は 2 検体、平成 27 年は 3 検体で合計 185 検体であった。検出状況は、IS48I-PCR 法で 185 検体中 12 検体（6.5%）（図）、培養法では 10 検体（5.4%）が検出された。

国外では、マクロライド耐性百日咳菌の増加の報告もあり、今後の百日咳菌の発生状況および薬剤感受性の監視が重要となる。

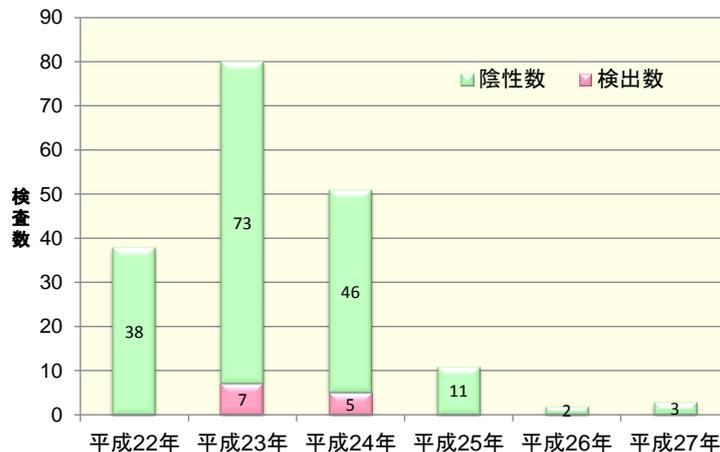


図 百日咳菌の年別検出状況

（大屋日登美、鈴木美雪、石原ともえ、相川勝弘、黒木俊郎）

② 横浜市における百日咳検査成績

横浜市衛生研究所

横浜市内の小児科病原体定点医療機関及びその他の医療機関からの百日咳を疑う患者検体について、LAMP 法による百日咳菌遺伝子検査を実施している。平成 27 年は患者 24 人の鼻汁、後鼻腔ぬぐい液などについて検査を行い、6 件（25.0%）が陽性となった。患者の由来は表のとおりである。患者のほとんどは、ワクチン接種歴が無い生後 6 か月未満の乳児であった。なお、LAMP 法陽性の検体については、培養検査も合わせて行い、3 件（12.5%）から百日咳菌が分離された。また、これ以外に医療機関から百日咳菌の同定依頼が 1 株あり、百日咳菌と同定した。

表 百日咳の患者情報

番号	検体採取月	性別	月齢(年齢)	主症状	DPTワクチン接種歴	LAMP結果	培養結果
1	1	女	2m	発熱・呼吸障害	なし	陽 性	陰性
2	1	男	4m	発熱・下気道炎	DPT 1回	陰性	N. T.
3	1	男	2m	上気道炎・気管支炎	なし	陰性	N. T.
4	2	男	3m	発熱・肺炎	なし	陰性	N. T.
5	4	女	1m	下気道炎	なし	陽 性	陽 性
6	4	女	1y5m	発熱・口内炎	DPT 3回	陰性	N. T.
7	5	男	2m	発熱・上気道炎・レプリーゼ	なし	陰性	N. T.
8	5	男	3m	咳嗽・哺乳不良・レプリーゼ	DPT 1回	陰性	N. T.
9	7	男	3m	気管支炎	なし	陽 性	陽 性
10	8	女	4m	下気道炎・咳嗽	不明	陰性	N. T.
11	9	女	1m	肺炎	不明	陽 性	陰性
12	9	男	2m	発熱・著名な咳嗽	なし	陰性	N. T.
13	9	女	1m	上気道炎・咳嗽・顔面紅潮	不明	陰性	N. T.
14	9	女	1m	連続する咳	なし	陰性	N. T.
15	9	男	4m	発作性咳嗽	なし	陽 性	陰性
16	10	女	1m	咳・発熱・下痢・嘔吐	なし	陰性	N. T.
17	10	男	1m	上気道炎	なし	陰性	N. T.
18	10	女	1m	上気道炎・レプリーゼ	なし	陽 性	陽 性
19	10	男	4m	上気道炎	不明	陰性	N. T.
20	10	女	4m	発熱・気管支炎	DPT 1回	陰性	N. T.
21	10	男	6m	発熱・上気道炎・咳	DPT 1回	陰性	N. T.
22	11	女	0m	発作性咳嗽	なし	陰性	N. T.
23	11	女	2m	発熱・上気道炎	なし	陰性	N. T.
24	12	女	1m	発熱・上気道炎	なし	陰性	N. T.

(松本裕子、太田嘉)

(6) マイコプラズマ肺炎

① 神奈川県（横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市及び藤沢市を除く）の肺炎マイコプラズマ検出状況

神奈川県衛生研究所

神奈川県域の小児科病原体定点医療機関および医療機関からのマイコプラズマ肺炎を疑う患者検体について、培養法およびPCR法による検査を実施している。平成27年1月から12月の検出状況は、PCRで81検体中51件(63.0%)が検出された。分離培養では陽性が46件(56.8%)、陰性が31件(38.3%)、判定不可が4件(4.9%)であった。全国的に流行があった平成23～24年と同程度に病原体検出数が大きく増加した。月別検出状況は、9月～11月に増加する傾向があった。肺炎マイコプラズマは、小児科領域においては重要な呼吸器感染症の原因菌の一つである。マイコプラズマ肺炎感染症の第一選択薬剤であるマクロライド系薬剤に耐性を示す肺炎マイコプラズマが、2000年以降国内外で検出され、神奈川県においても23S rRNA遺伝子のドメインV領域の2063番目のアデニンAがグアニンGに点変異しているA2063Gが最も多く検出され、A2064Gも検出されている。今後も病原体検出状況を継続して監視する必要がある。

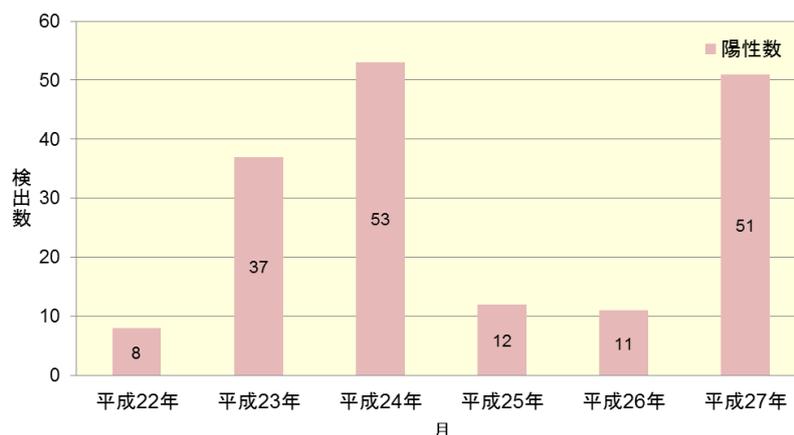


図1 肺炎マイコプラズマ年別検出状況

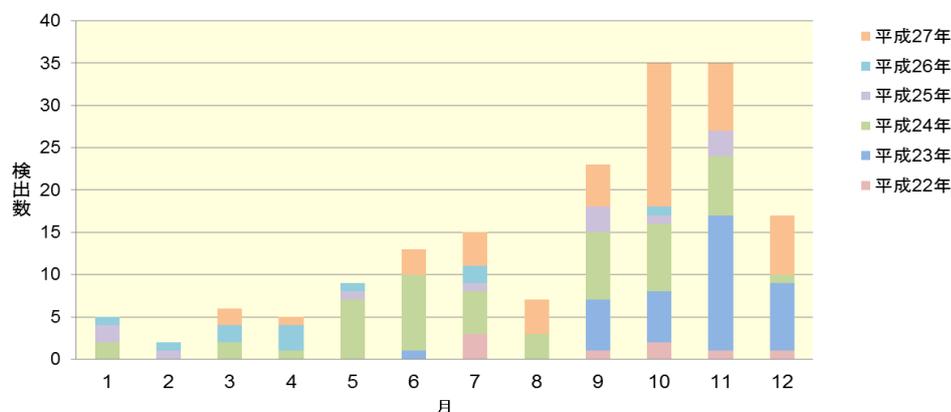


図2 肺炎マイコプラズマ月別検出状況

(大屋日登美、鈴木美雪、相川勝弘、黒木俊郎)

3 その他の感染症

(1) つつが虫病

① 神奈川県（横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市及び藤沢市を除く）で発生したつつが虫病

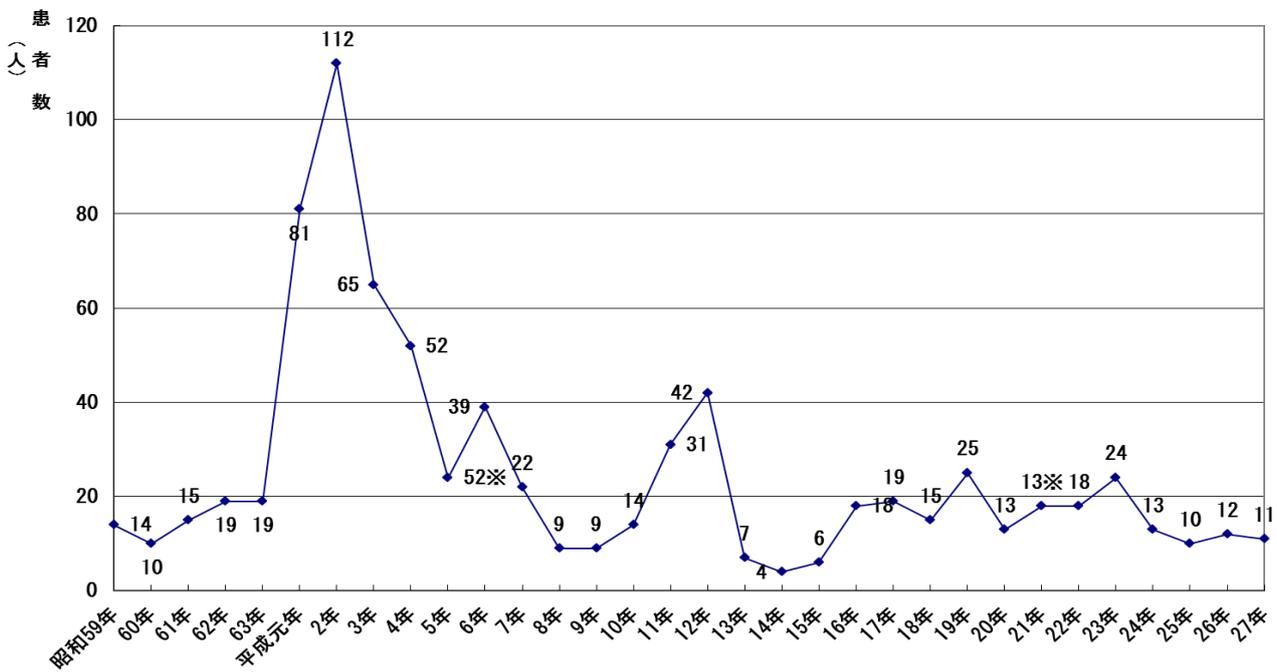
神奈川県衛生研究所

神奈川県のつつが虫病患者発生数は、平成2年の112名をピークに減少傾向を示し、近年では毎年20名程度の患者数で推移している。

神奈川県では、つつが虫病患者疑い例について、遺伝子等による病原体の検査、または特異的な血清抗体の検査を実施している。本年、当所に搬入された3例について遺伝子検査を実施したところ、1例から遺伝子（Kawasaki型）が検出され、感染推定地域は秦野市内、発生時期は11月であった。

神奈川県域のつつが虫病患者届出数は11例で、発生時期は8月1名、10月1名、11月8名、12月1名であった。つつが虫病的検査診断には、遺伝子等による病原体の検出、または特異的な血清抗体の検出があるが、11例中10例は医療機関で実施した血清抗体の検出により診断され、1例が当所で実施した遺伝子検査により診断された。

つつが虫病患者からの聞き取り調査で得られた推定感染地は、神奈川県内10例、静岡県1例であった。県内の推定感染地は、南足柄市、松田町、開成町および秦野市であった。平成27年のつつが虫病感染時の行動は、例年と同様に平地の畑での農作業であった。



※：紅斑熱患者を含む

図 神奈川県におけるつつが虫病患者発生状況（昭和59年～平成27年）

（鈴木理恵子、金城恵子、近藤真規子、黒木俊郎）

【参考資料】

< 予防接種実施状況 >

予防接種法に基づく定期予防接種は、感染症の発生及びまん延の予防等、公衆衛生の向上を目的に、実施主体である市町村により行われている。

□		平成25年度			平成26年度		
		対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B) / (A)	対象者数 (A)	接種者数 (B)	接種率 (B) / (A)
ジフテリア 百日せき 破傷風 不活化ポリオ	1 期初回 1 回	99,637	72,392	72.7%	94,312	73,394	77.8%
	1 期初回 2 回	100,365	71,527	71.3%	95,053	73,712	77.5%
	1 期初回 3 回	105,696	69,548	65.8%	100,192	73,339	73.2%
	1 期追加	76,327	7,821	10.2%	90,997	63,189	69.4%
	2 期	-	-	-	-	-	-
麻しん	1 期	76,888	73,569	95.7%	76,765	73,671	96.0%
	2 期	78,930	72,379	91.7%	77,743	72,680	93.5%
風しん	1 期	76,888	73,569	95.7%	73,671	73,569	99.9%
	2 期	78,930	72,379	91.7%	72,680	72,379	99.6%
日本脳炎	1 期初回 1 回	95,689	81,951	85.6%	91,199	87,292	95.7%
	1 期初回 2 回	95,935	79,579	83.0%	91,469	84,945	92.9%
	1 期追加	104,339	85,843	82.3%	98,318	81,030	82.4%
	2 期	108,957	29,276	26.9%	107,106	33,281	31.1%
インフルエンザ		2,019,777	830,826	41.1%	2,083,473	874,280	42.0%
内 訳	65歳以上	1,978,205	495,060	25.0%	2,077,187	872,883	42.0%
	予防接種法施行令で定める60歳以上65歳未満の者	41,572	1,183	2.8%	6,286	1,397	22.2%

「地域保健・健康増進事業報告（地域保健編）」（厚生労働省）のデータを修正・加工して作成

(※)ジフテリア・百日せき・破傷風・不活化ポリオの1 期初回及び追加については、DPT-IPVでの接種者数を計上している。

(※)麻しん及び風しんは風しんワクチン及び麻しん風しん混合ワクチンの接種者数を計上。

(※)インフルエンザは年齢不詳の市町村があるため、総数と年齢別の計が一致しない。

(健康危機管理課)

<感染症関係機関>

平成 28 年 4 月現在

機 関 名	所 在 地	電 話
横浜市健康福祉局健康安全部健康安全課	横浜市中区港町 1-1	045 (671) 2463
横浜市鶴見福祉保健センター	横浜市鶴見区鶴見中央 3-20-1	045 (510) 1832
横浜市神奈川福祉保健センター	横浜市神奈川区広台太田町 3-8	045 (411) 7138
横浜市西福祉保健センター	横浜市西区中央 1-5-10	045 (320) 8439
横浜市中福祉保健センター	横浜市中区日本大通 35	045 (224) 8332
横浜市南福祉保健センター	横浜市南区花之木町 3-48-1	045 (743) 8241
横浜市港南福祉保健センター	横浜市南区浦舟 2-33	045 (341) 1185
横浜市保土ヶ谷福祉保健センター	横浜市保土ヶ谷区川辺町 2-9	045 (334) 6344
横浜市旭福祉保健センター	横浜市旭区鶴ヶ峰 1-4-12	045 (954) 6146
横浜市磯子区福祉保健センター	横浜市磯子区磯子 3-5-1	045 (750) 2444
横浜市金沢福祉保健センター	横浜市金沢区泥亀 2-9-1	045 (788) 7840
横浜市港北区福祉保健センター	横浜市港北区大豆戸町 26-1	045 (540) 2362
横浜市緑福祉保健センター	横浜市緑区寺山町 118	045 (930) 2355
横浜市青葉福祉保健センター	横浜市青葉区市ヶ尾町 31-4	045 (978) 2438
横浜市都筑福祉保健センター	横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1	045 (948) 2350
横浜市戸塚福祉保健センター	横浜市戸塚区戸塚町 16-17	045 (866) 3963
横浜市栄福祉保健センター	横浜市栄区桂町 303-19	045 (894) 6964
横浜市泉福祉保健センター	横浜市和泉町 4636-2	045 (800) 2445
横浜市瀬谷福祉保健センター	横浜市瀬谷区二ツ橋町 190	045 (367) 5744
横浜市衛生研究所	横浜市金沢区富岡東 2-7-1	045 (370) 8460
川崎市健康福祉局保健所感染症対策課	川崎市川崎区宮本町 1	044 (200) 2343
川崎区役所保健福祉センター	川崎市川崎区東田町 8	044 (201) 3223
幸区役所保健福祉センター	川崎市幸区戸手本町 1-11-1	044 (556) 6682
中原区役所保健福祉センター	川崎市中原区小杉町 3-245	044 (744) 3280
高津区役所保健福祉センター	川崎市高津区下作延 2-8-1	044 (861) 3321
宮前区役所保健福祉センター	川崎市宮前区宮前平 2-20-5	044 (856) 3270
多摩区役所保健福祉センター	川崎市多摩区登戸 1775-1	044 (935) 3310
麻生区役所保健福祉センター	川崎市麻生区万福寺 1-5-1	044 (965) 5163
川崎市健康安全研究所	川崎市川崎区殿町 3-25-13	044 (276) 8250
相模原市保健所	相模原市中央区富士見 6-1-1	042 (754) 1111
相模原市衛生研究所	相模原市中央区富士見 1-3-41	042 (769) 8348
横須賀市保健所	横須賀市西逸見町 1-38-11	046 (822) 4300
横須賀市健康安全科学センター	横須賀市日の出町 2-12	046 (822) 4057
藤沢市保健所	藤沢市鵠沼 2131-1	0466 (50) 3592

機 関 名	所 在 地	電 話
神奈川県保健福祉局保健医療部健康危機管理課	横浜市中区日本大通 1	045 (210) 4793
平塚保健福祉事務所	平塚市豊原町 6-21	0463 (32) 0130
鎌倉保健福祉事務所	鎌倉市由比ガ浜 2-16-13	0467 (24) 3900
茅ヶ崎保健福祉事務所	茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-8-7	0467 (85) 1171
厚木保健福祉事務所大和センター	大和市中央 1-5-26	046 (261) 2948
小田原保健福祉事務所	小田原市荻窪 350-1	0465 (32) 8000
鎌倉保健福祉事務所三崎センター	三浦市三崎町六合 32	046 (882) 6811
平塚保健福祉事務所秦野センター	秦野市曾屋 2-9-9	0463 (82) 1428
厚木保健福祉事務所	厚木市水引 2-3-1	046 (224) 1111
小田原保健福祉事務所足柄上センター	足柄上郡開成町吉田島 2489-2	0465 (83) 5111
神奈川県衛生研究所	茅ヶ崎市下町屋 1-3-1	0467 (83) 4400
横浜検疫所	横浜市中区海岸通 1-1	045 (201) 4458
東京検疫所川崎検疫所支所	川崎市川崎区東扇島 6-10	044 (277) 1856
横浜検疫所横須賀・三浦出張所	横須賀市田浦港無番地	045 (201) 4456
輸入食品・検疫検査センター	横浜市金沢区長浜 107-8	045 (701) 9502
横浜市立市民病院	横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56	045 (331) 1961
川崎市立川崎病院	川崎市川崎市新川通 12-1	044 (233) 5521
横須賀市立市民病院	横須賀市長坂 1-3-2	046 (856) 3136
藤沢市民病院	藤沢市藤沢 2-6-1	0466 (25) 3111
平塚市民病院	平塚市南原 1-19-1	0463 (32) 0015
相模原協同病院	相模原市緑区橋本 2-8-18	046 (722) 4291
厚木市立病院	厚木市水引 1-16-36	046 (221) 1570
神奈川県立足柄上病院	足柄上郡松田町松田惣領 866-1	0465 (83) 0351



神奈川県衛生研究所

茅ヶ崎市下町屋 1 - 3 - 1

〒253-0087 電話 (0467) 83-4400 (代表)